

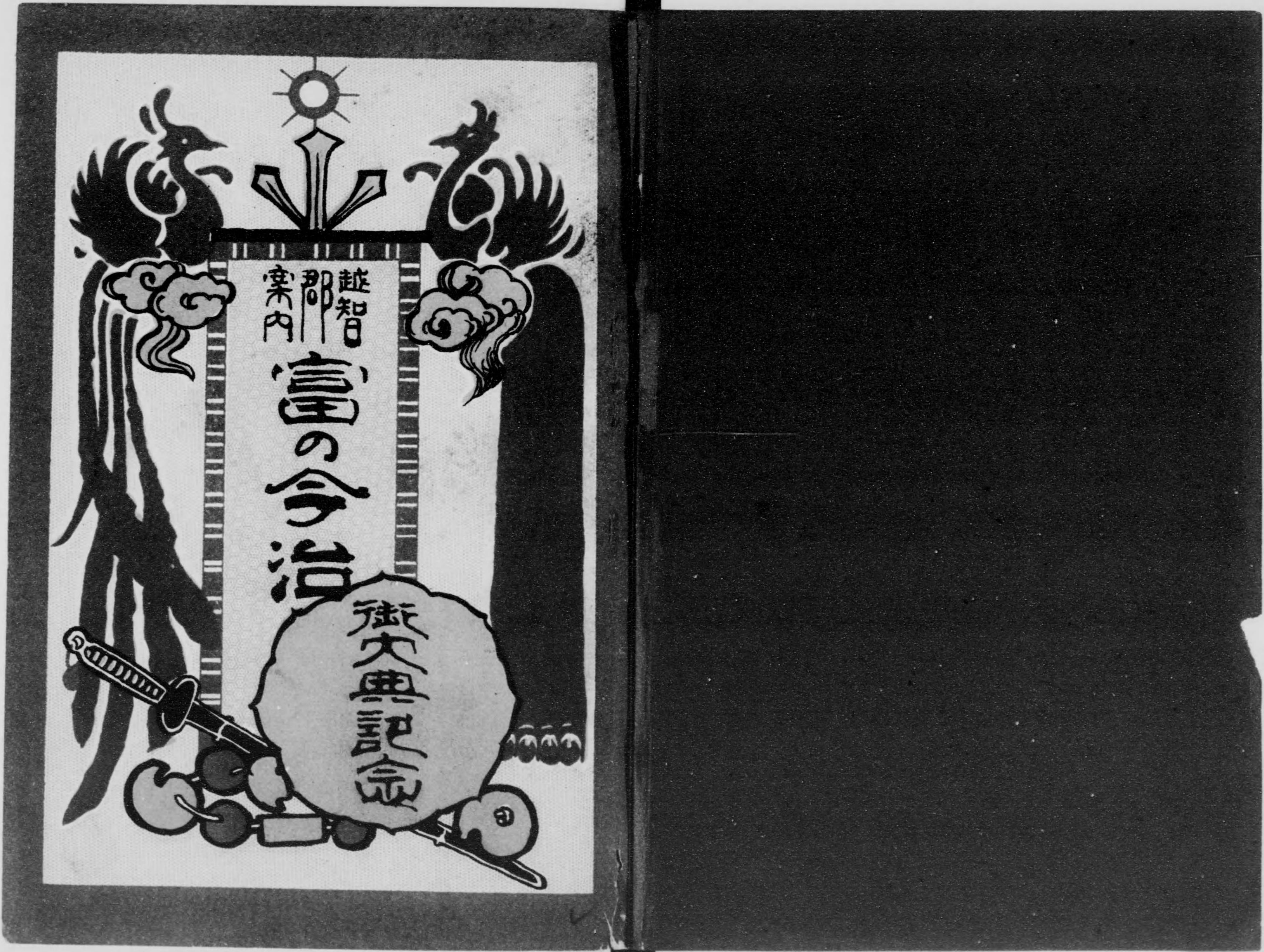


21  
415

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始





越智郡  
案内

富の今治

大興記念



21-415



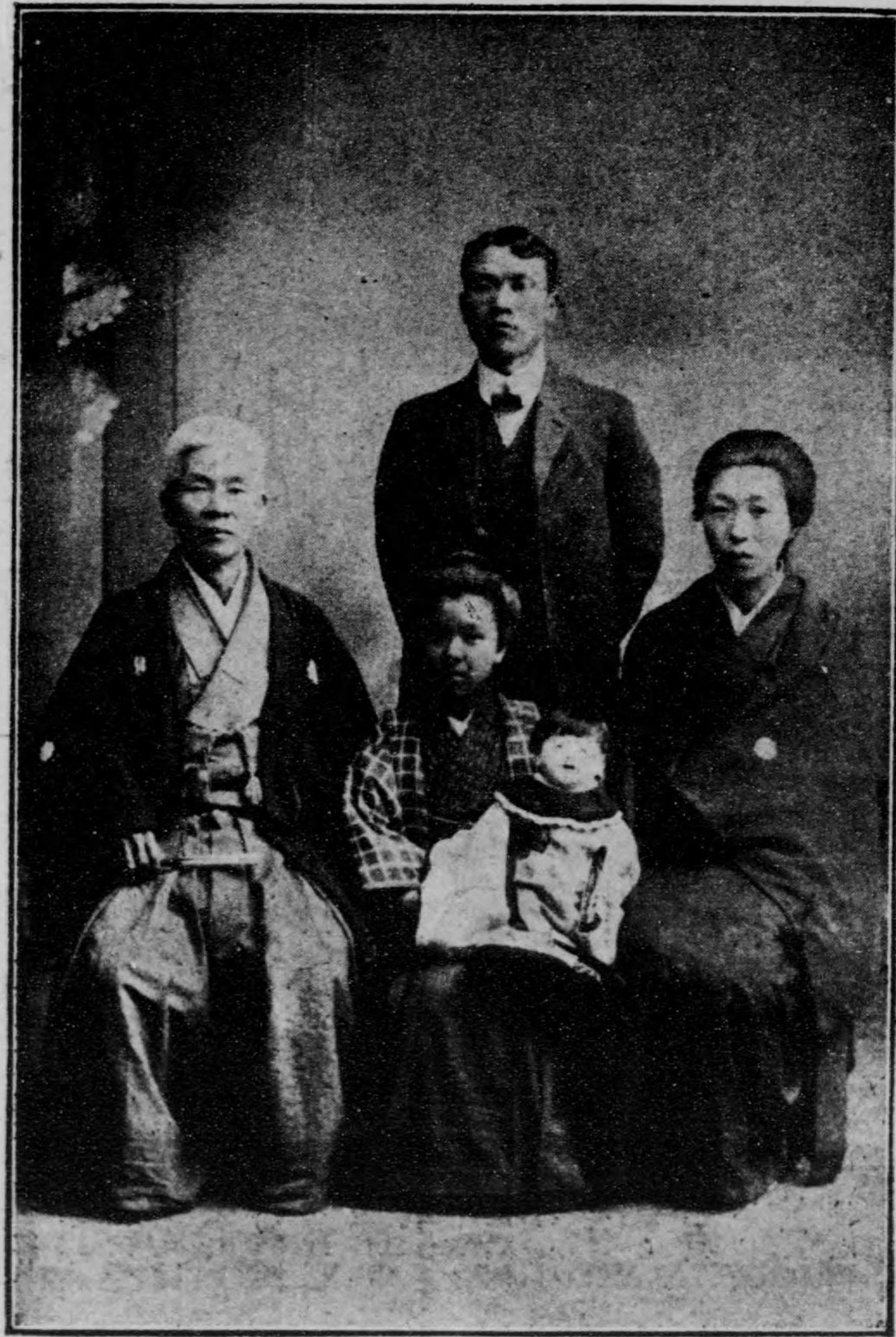
氏耶十幹田屋吉 郡智越

氏耶太芳部阿 長町治今 氏助光部阿

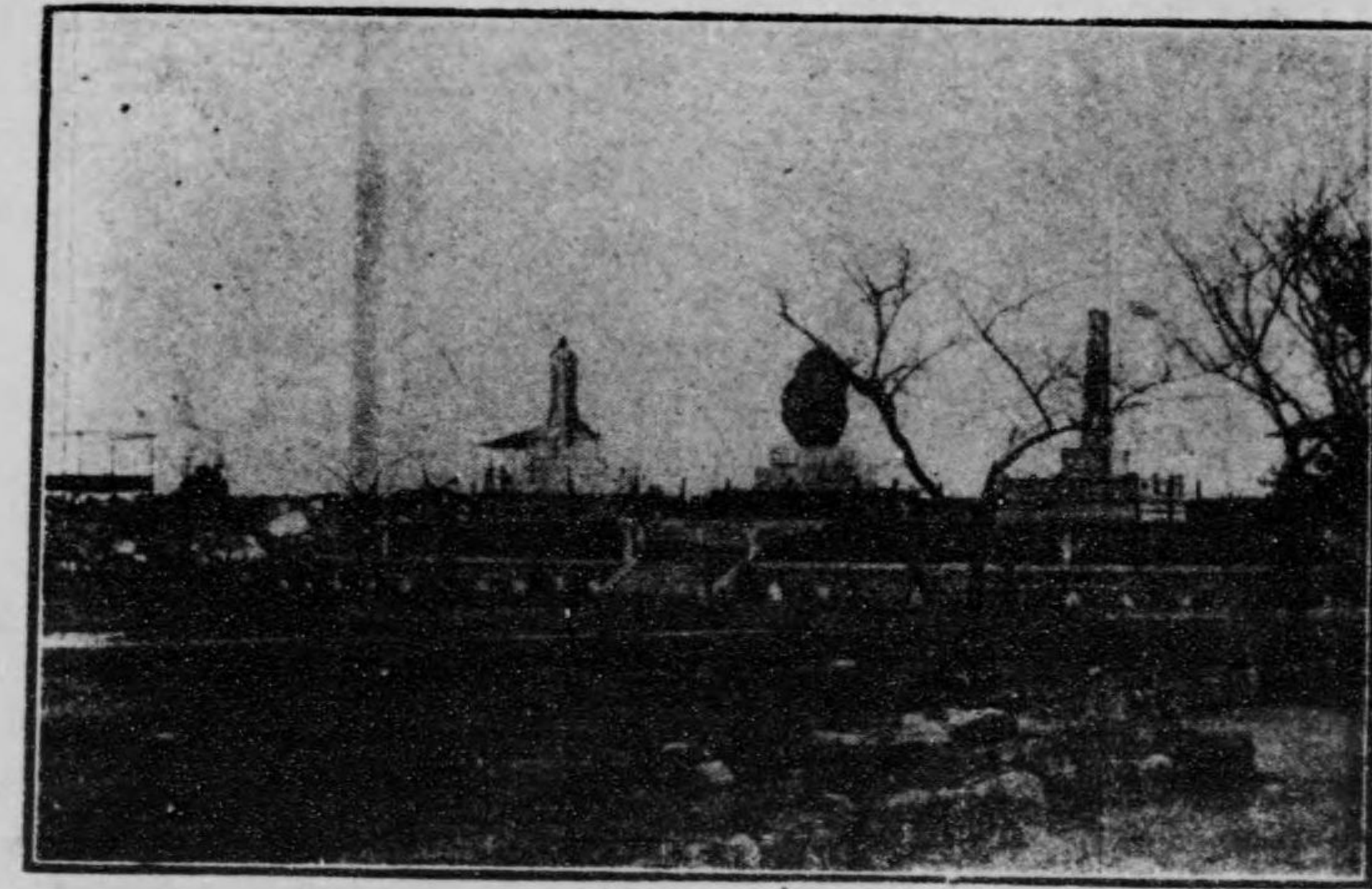
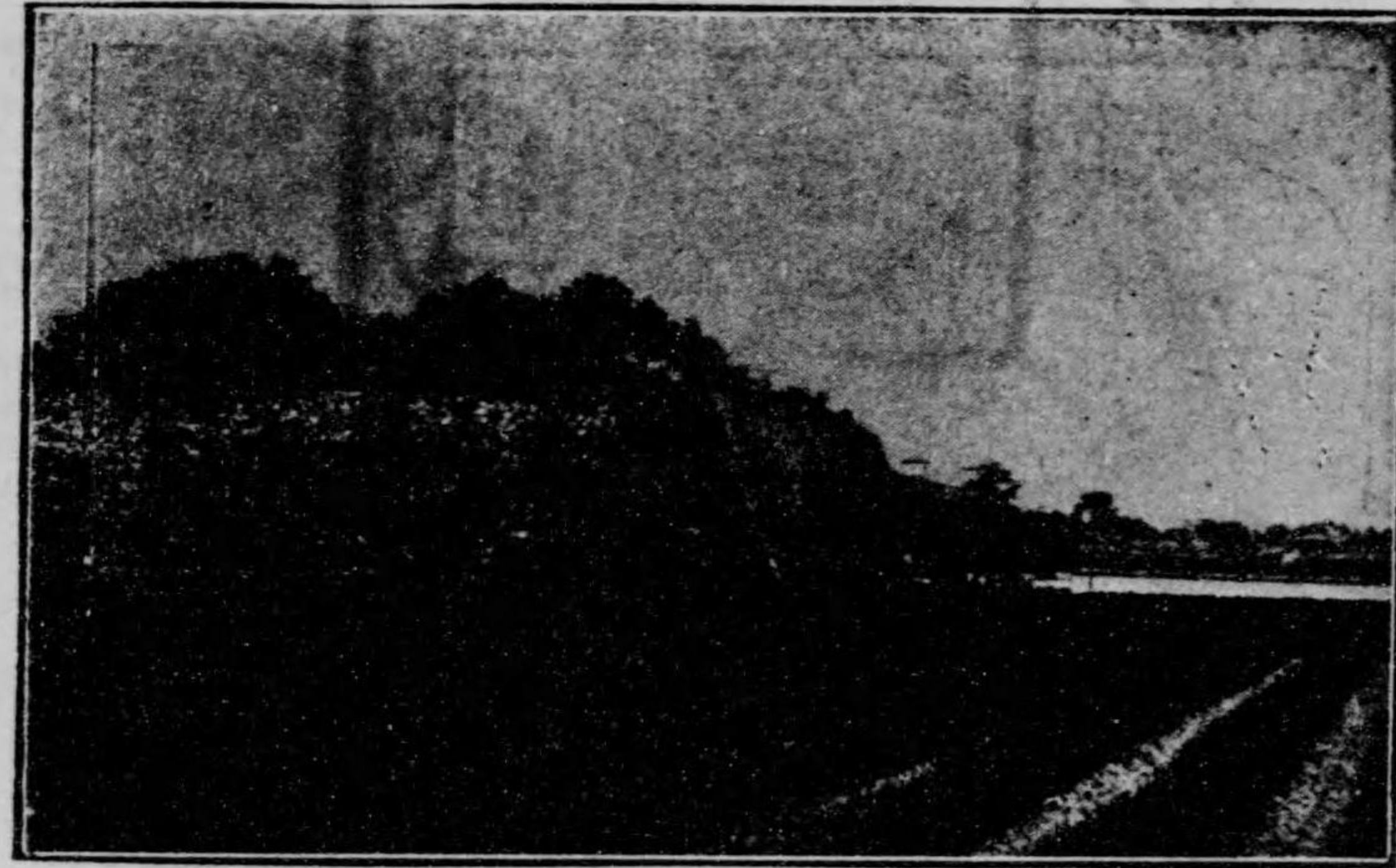
大正  
4. 11. 9  
内交



吉  
服 具  
角目丁二町本治今  
店服具屋田吉  
番四四話電

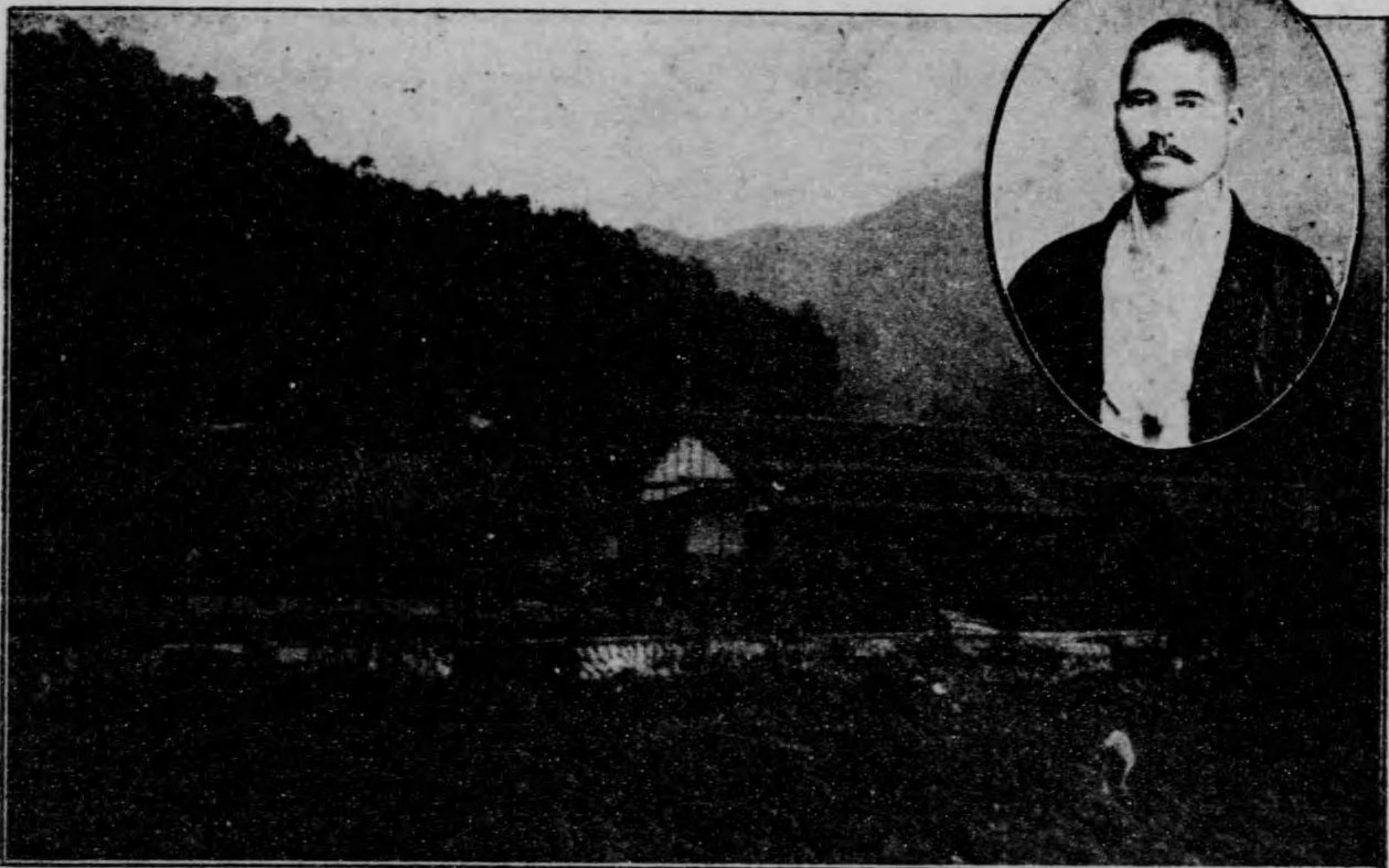


伊 豫 今 治 港  
 金 光 教 會  
 會 長 塚 本 十 一 郎 氏 の 家 庭



今 治 吹 揚 公 園  
 (舊 城 跡)

伊豫教員養成所全所長赤尾清知



私立伊豫教員養成所

所在地 愛媛縣越智郡龜岡村字種

目的 尋常小學校本科准教員全正教員全本科准教員兼

裁縫專科教員養成及師範學校入學準備

沿革 明治廿九年三月十五日設置全年四月十五日授業

開始全年十二月二十日卒業試験檢定認可全四十

年十月二十四日越智郡准教員養成委託全年十一

月二十二日尋常小學校本科正教員部設置認可全

四十一年十一月十五日校舍新築全四十三年六月

二日准教員兼裁縫專科正教員部設置認可

修業年限 第一部准教員部一ヶ年第二部准教員兼專科正

教員一ヶ年第三部正教員部二ヶ年

特典 毎年三月七月二回の定期卒業試験に合格者は本

縣より教員免許狀を下附せられ萬一合格せず共

住良証明書を下附せらる依て引續き本所に學習

せば残りの學科を受験し得らるゝ便利あり

入學資格 第一第二部は年齢十四歳以上にして高等小學

校卒業生は無試験其他は、國語算術に就て試験

す第三部は年齢十五歳以上にして尋常小學校准

教員の免許狀所有者は無試験他は國語算術の二

科に付き試験す

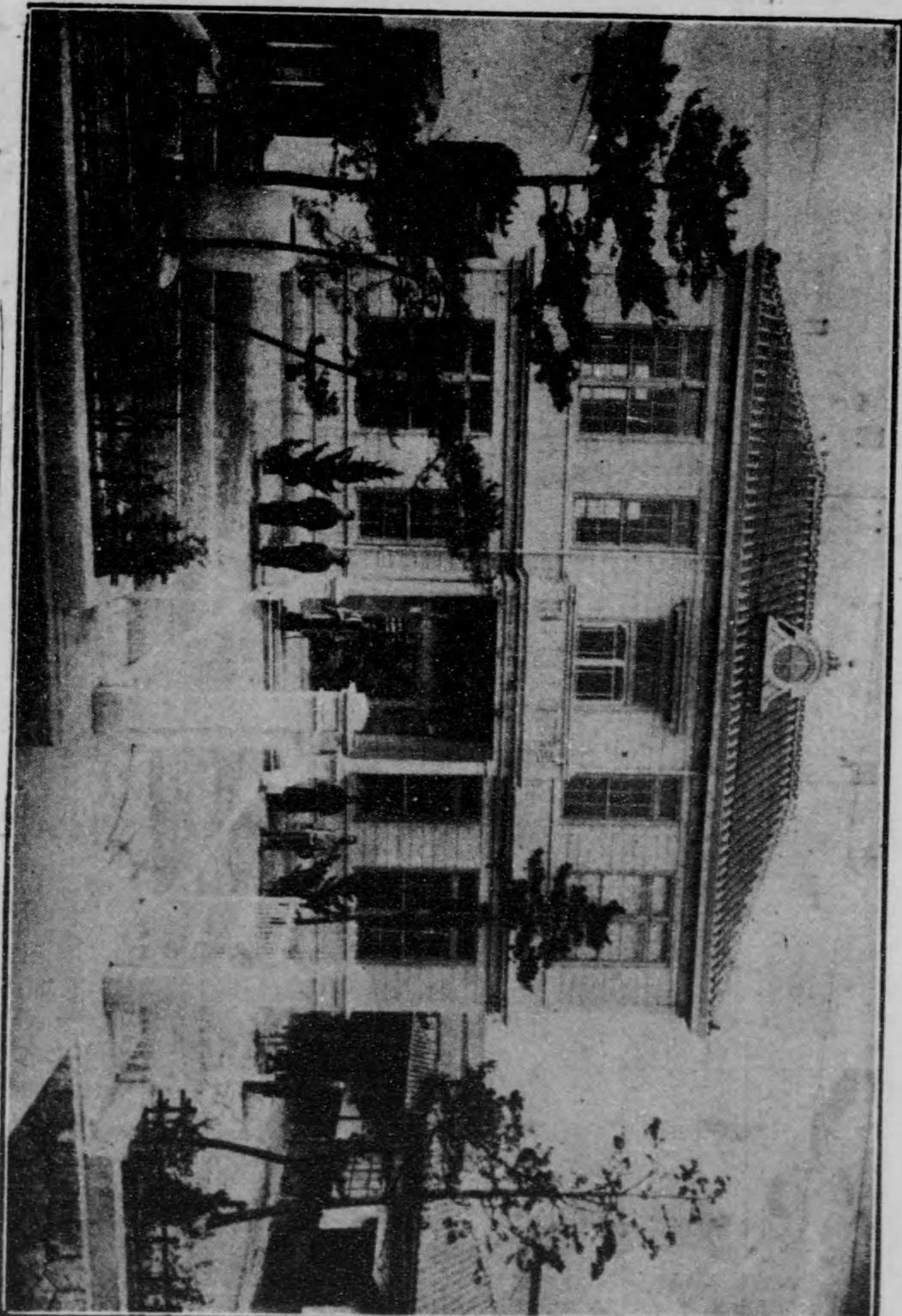
千家男の御歌

ともすればわすれ勝ちなる世の中に  
昔なすてぬ人は樂しき

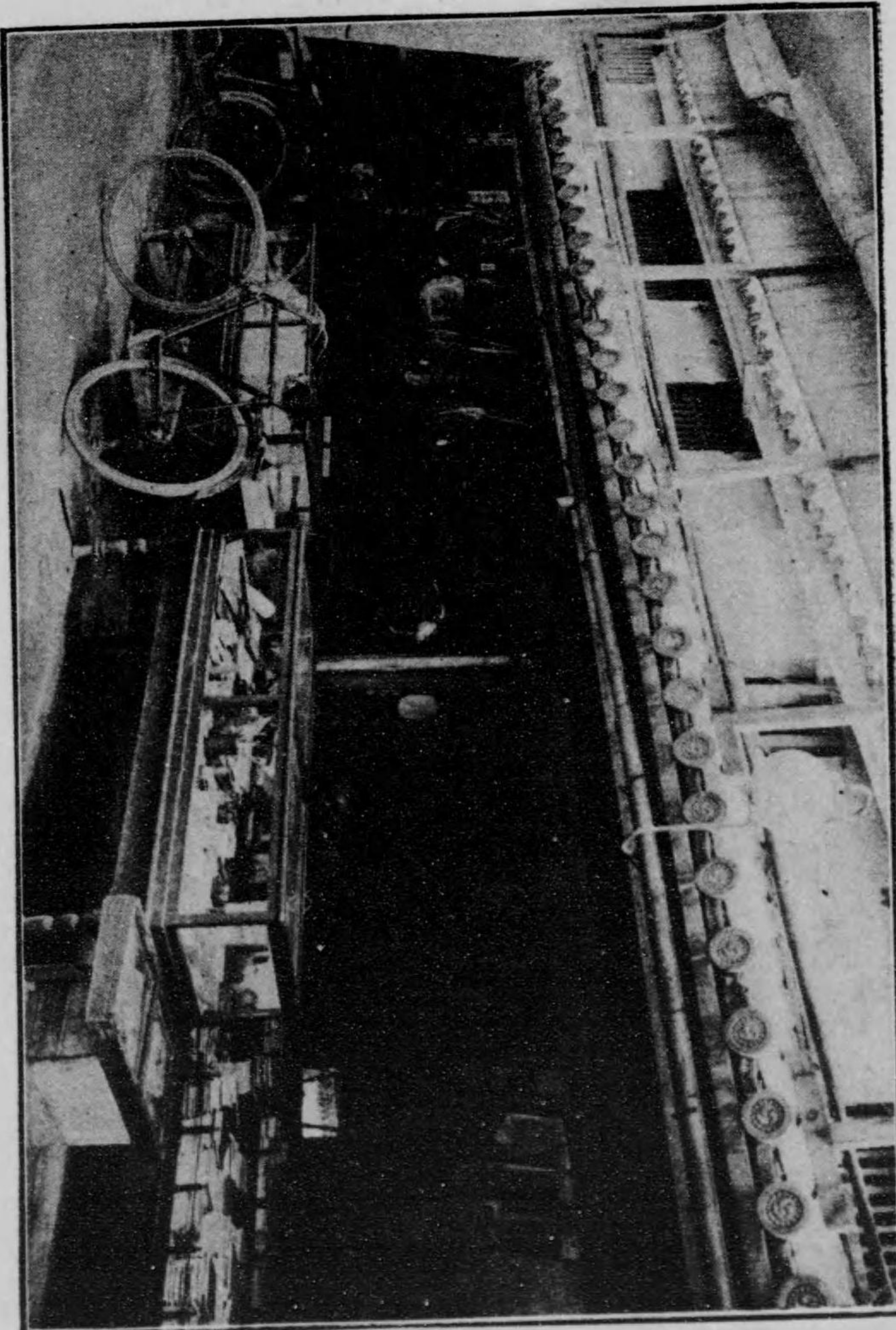
◎生産額  
◎生産品概別

參可五拾萬圓  
白綿アラシ子ル  
縮綿アラシ子ル  
大幅白綿布  
大幅縮綿布

越智郡今治町  
伊豫綿練同業組合  
電話一〇八番



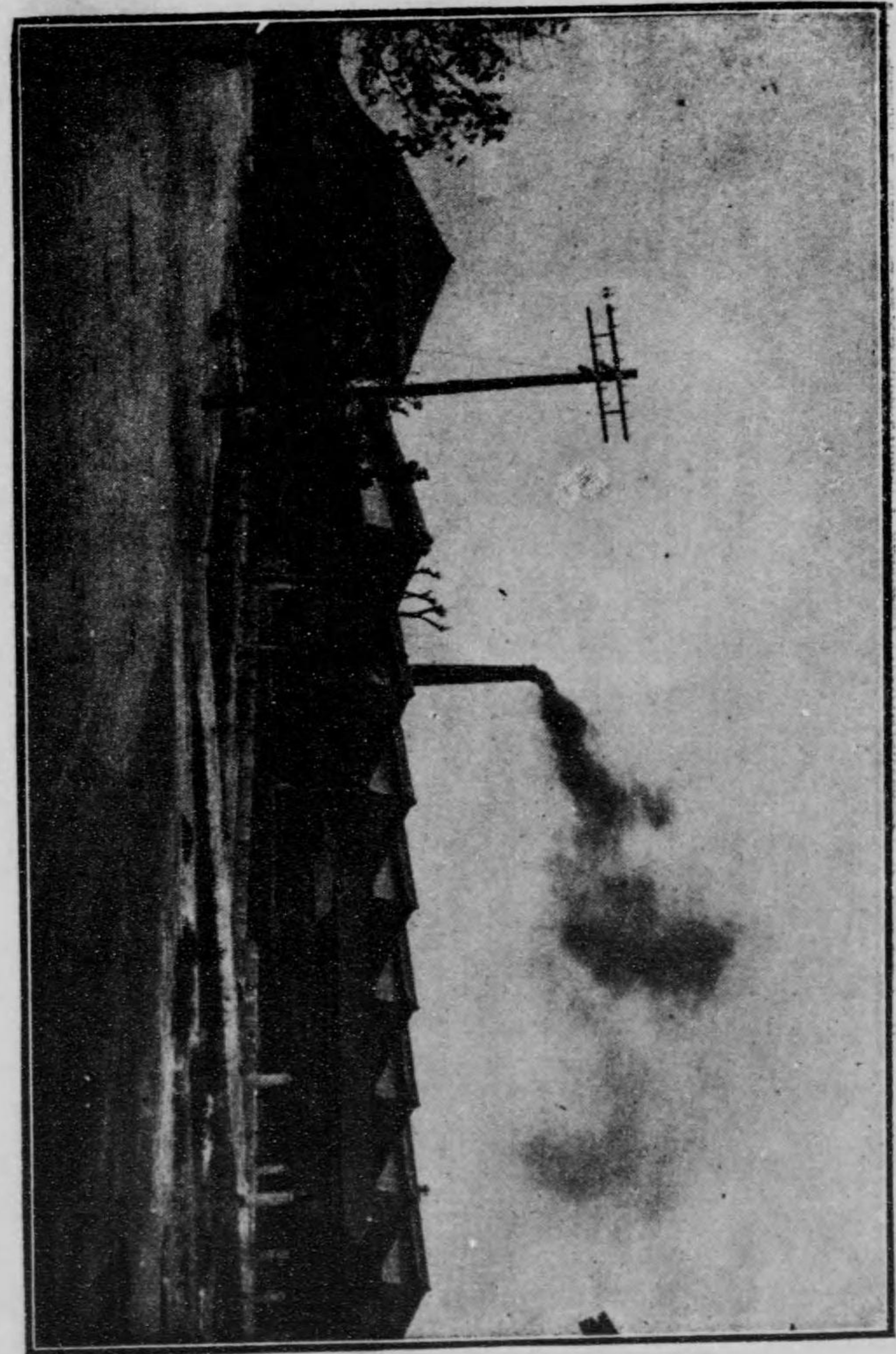
所務事合組業同ルー子ンメ豫伊  
八十三 年度四正大 教員合組◎  
郡宇 郡房新 郡桑周 郡智越 區地合組◎



文房雜貨具  
 船來房具  
**阿部書林**  
 店主 阿部利三郎

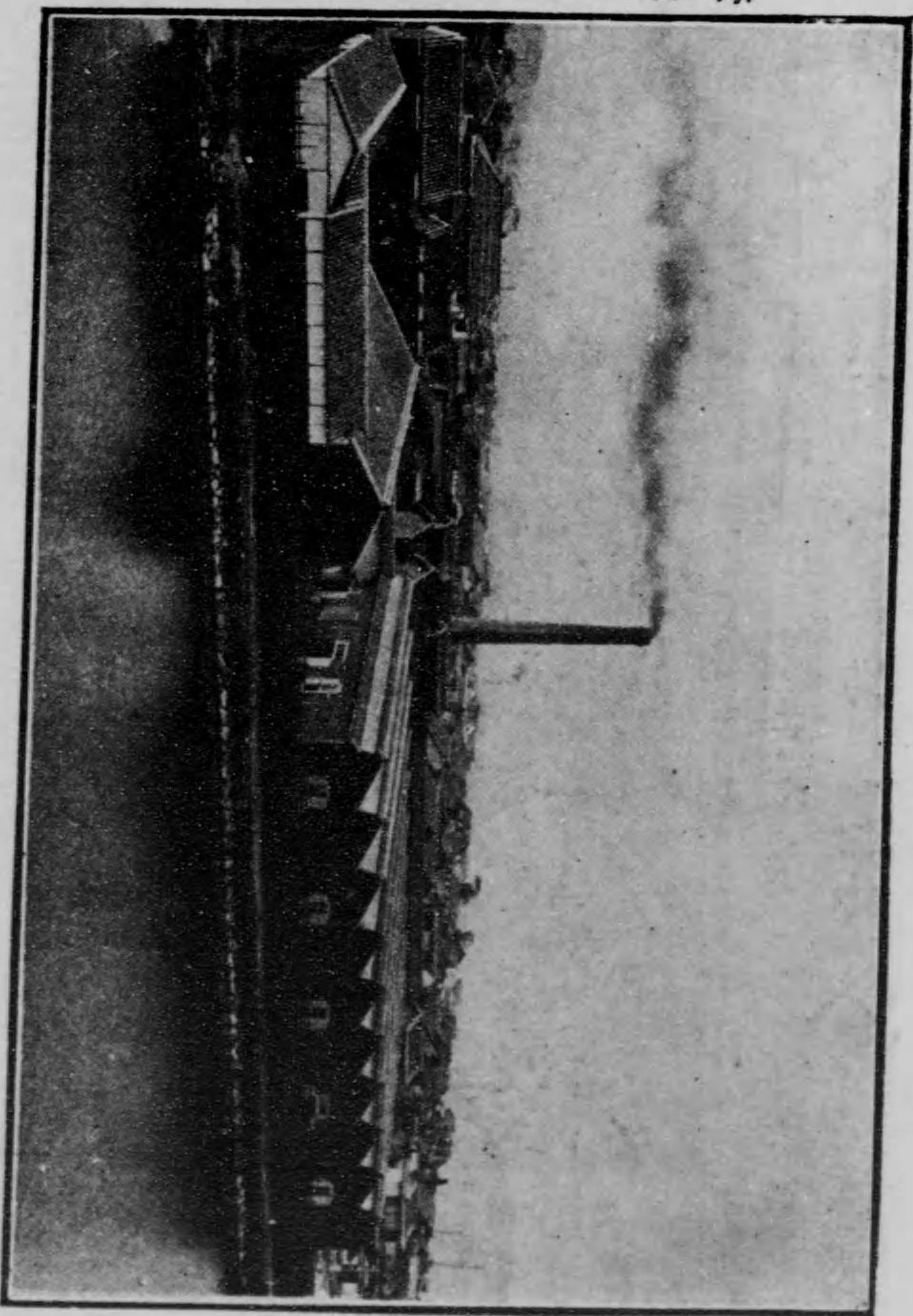
目 丁 冊 一 町 六 十 六 本 函 電 治 今

振替口座大阪二四〇〇番  
 電話 因(二二)九八〇番  
 電信 号 號



綾綿 天竺 子 各 種 製 造

伊 豫 今 國 今 社 興 業 舍  
**伊 豫 今 國 今 社 興 業 舍**



商標  
**角**  
登錄

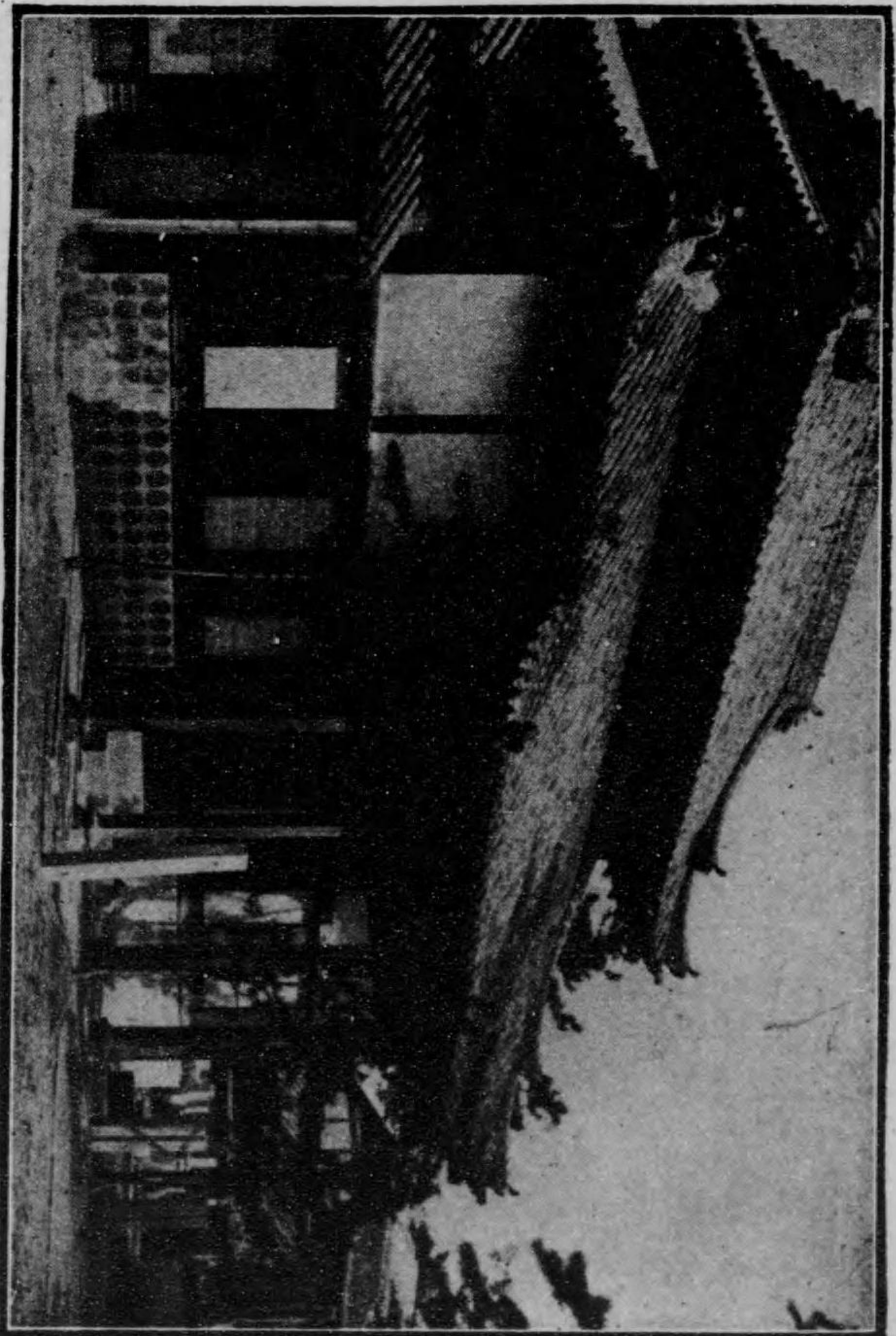
綿練製造販賣  
井ニタナル

大阪東區豐後町

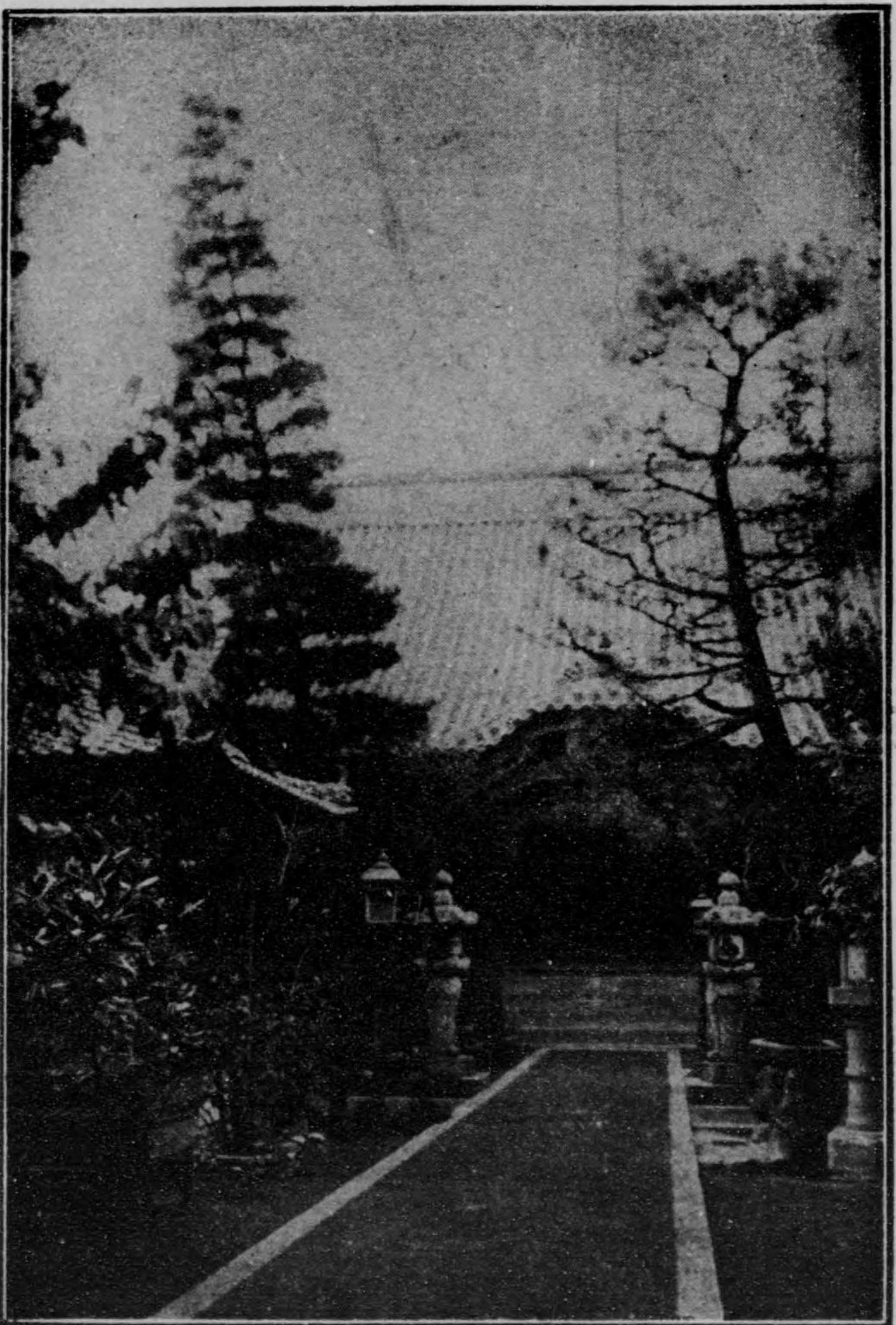
阿部株式會社大阪支店  
電話 二〇二番

阿部株式會社  
（愛媛縣越智郡今治港）  
電話 〇三三  
大阪大座口番 五七三二番

住 職 戶 田 察

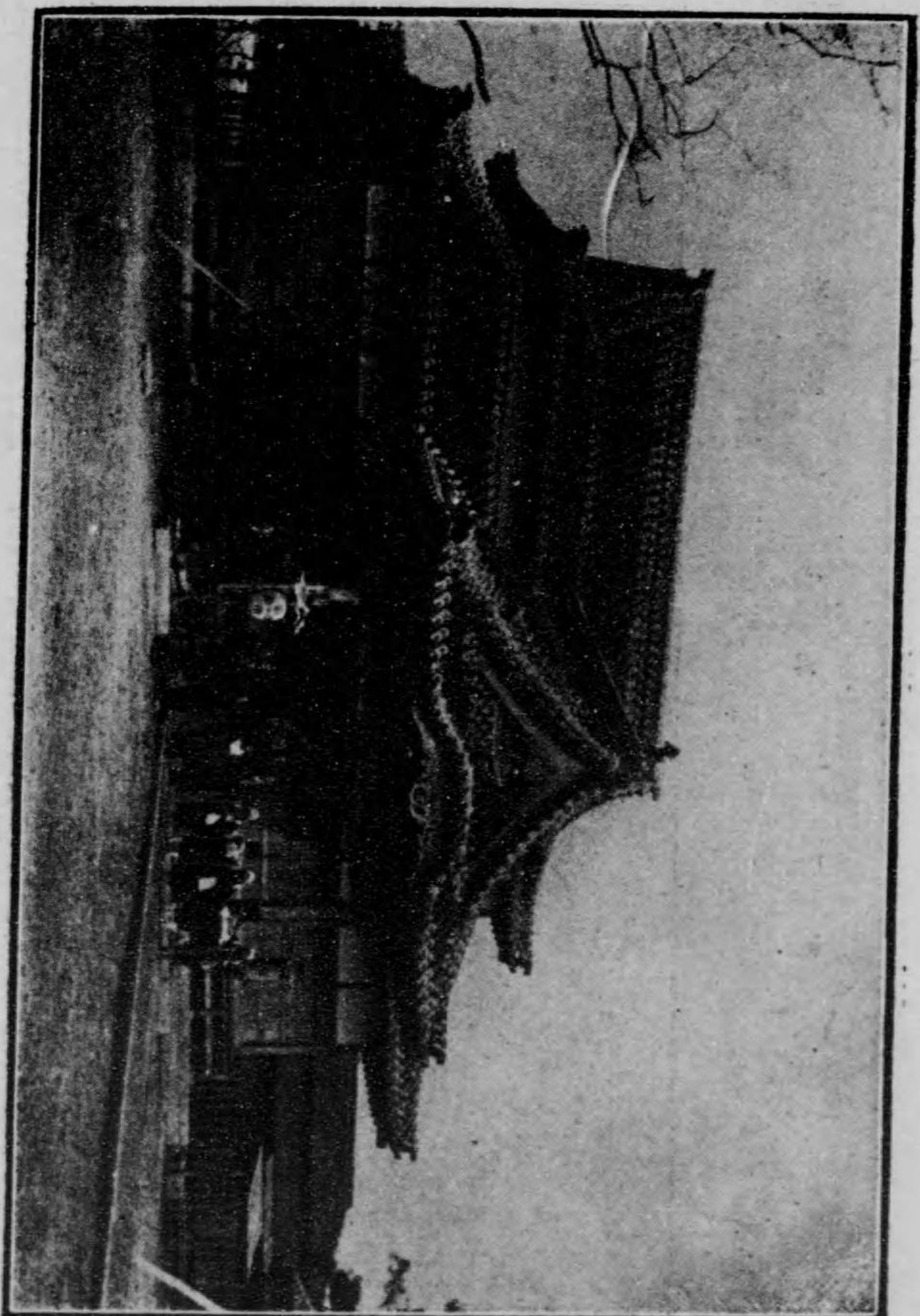


今 治 港 法 華 寺



住職加藤大俊

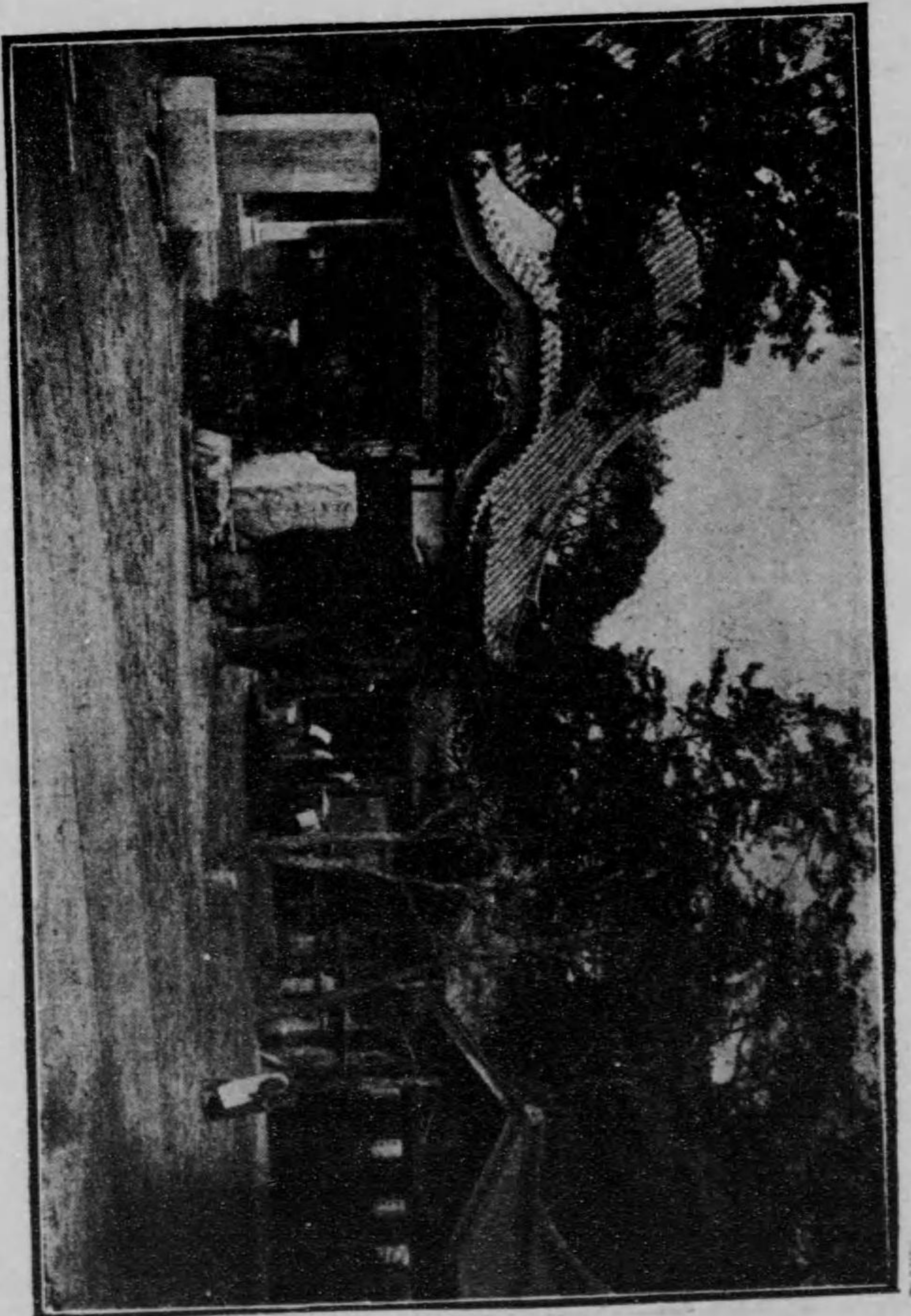
常高寺  
今治町



住職谷本忍權

伊豫今治別宮  
高山福正寺

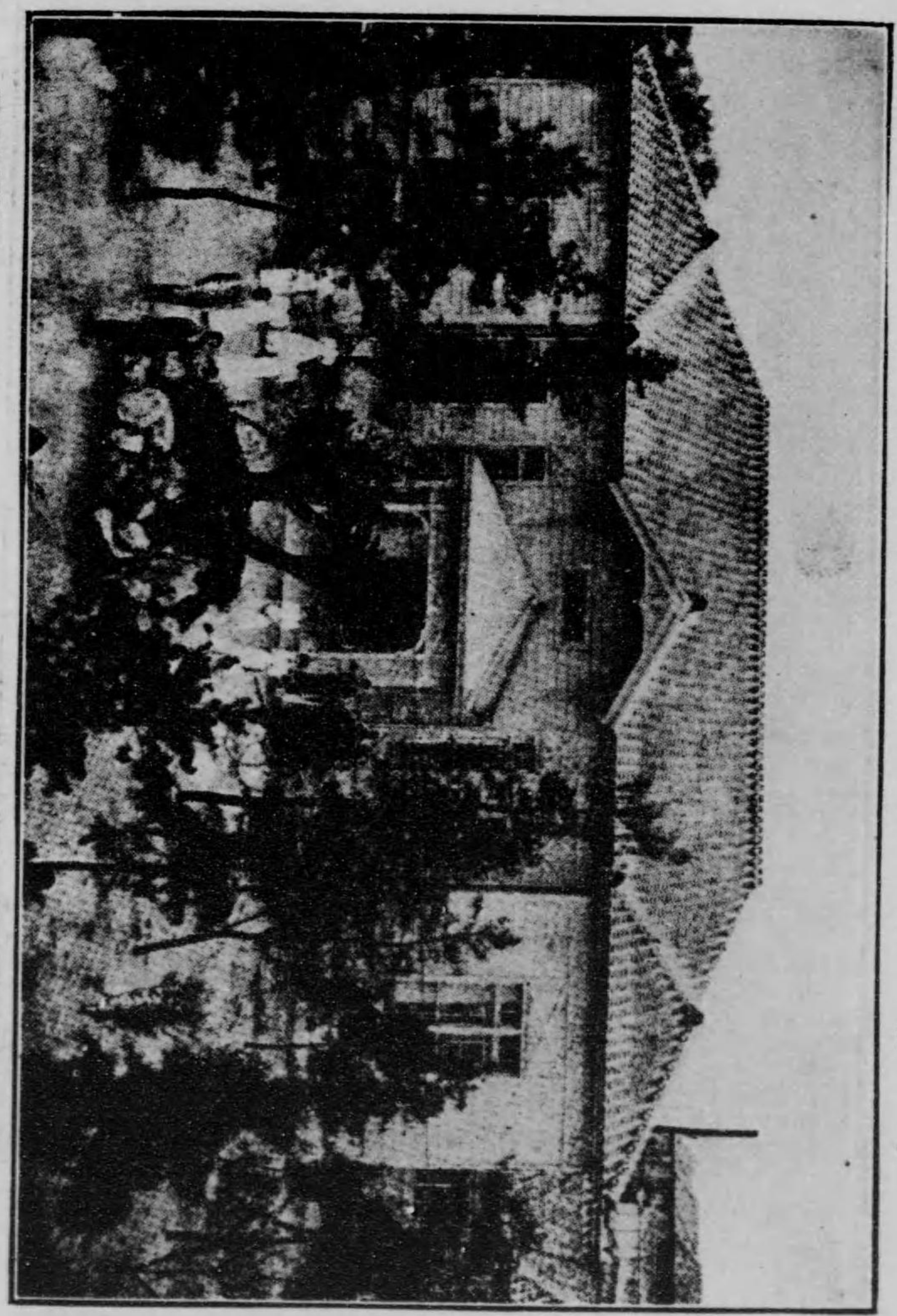




住 職 天 野 快 道

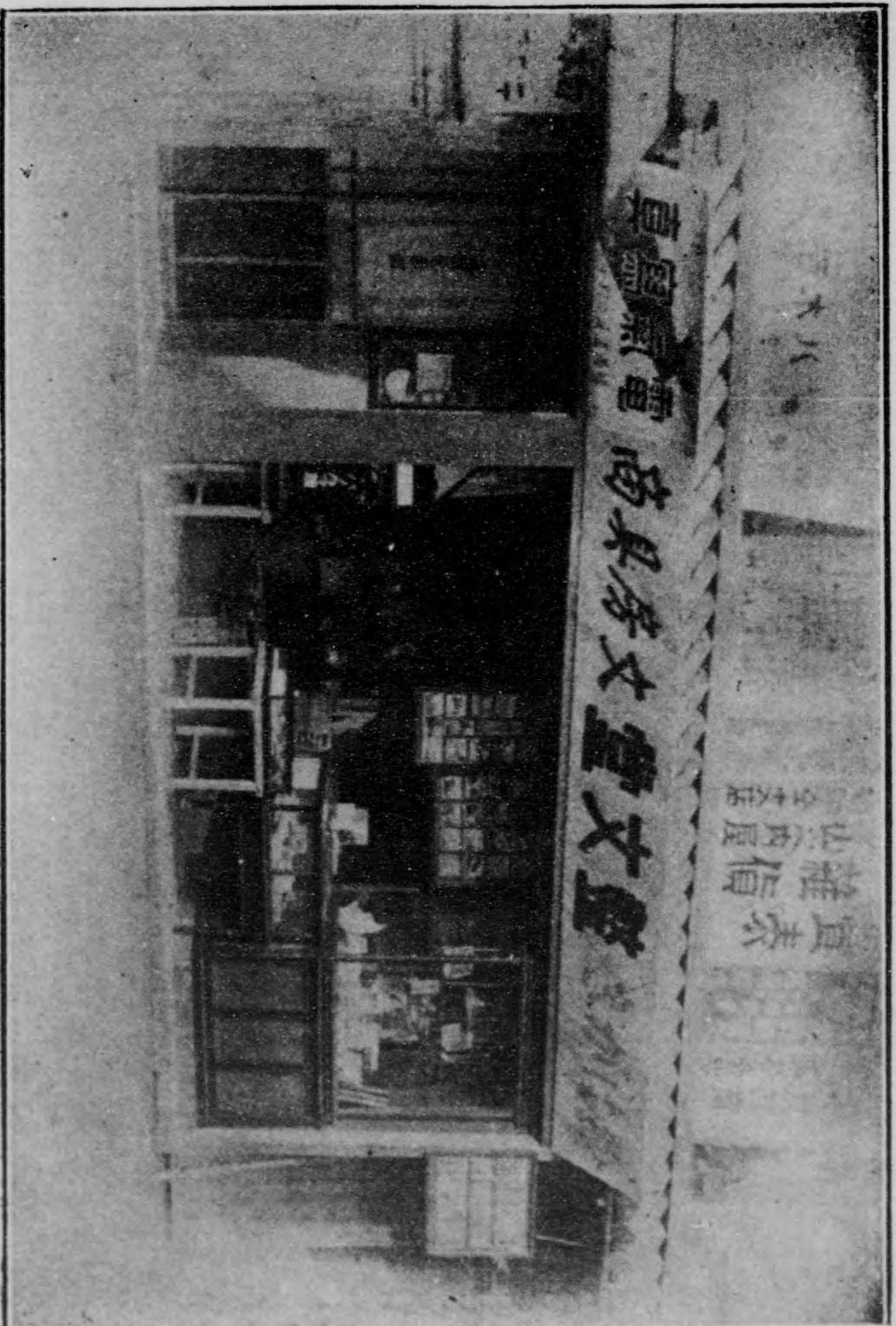
越 智 郡 日 吉 村 別 宮  
 四 國 靈 場 第 五 十 五 番  
 南 光 坊

外 科 婦 人 科 入 院 隨 意



一 院 長 藤 原 義 一  
 一 副 院 長 長 崎 醫 學 士 財 津 連 之  
 一 藥 局 長 藥 劑 師 億 川 洋 吉

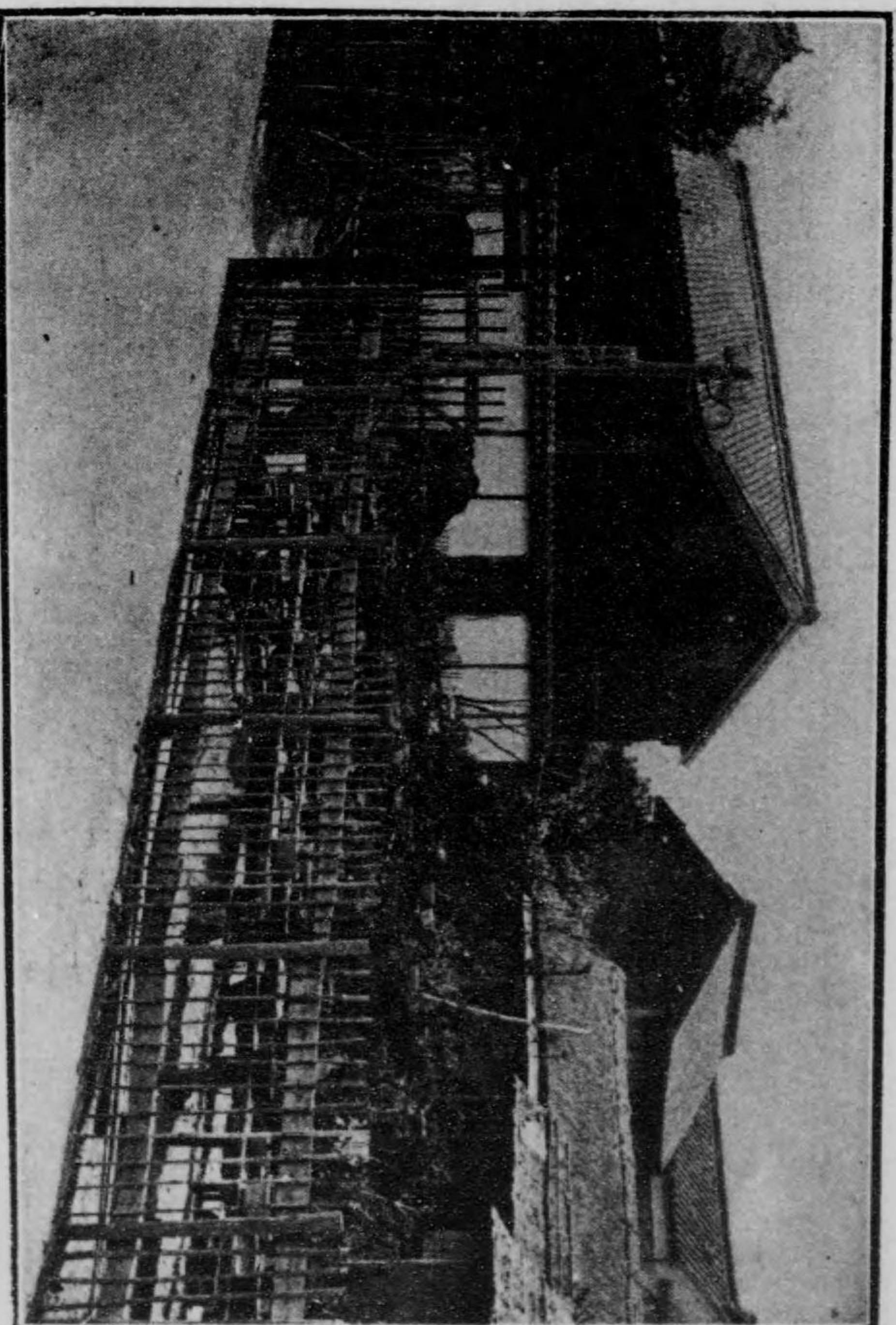
今 治 吹 揚 臺 四 藤 原 病 院 電 話 二 〇 二 番



文房具 學校用品 寫真機及材料

●今治風景繪江が新出版々發行

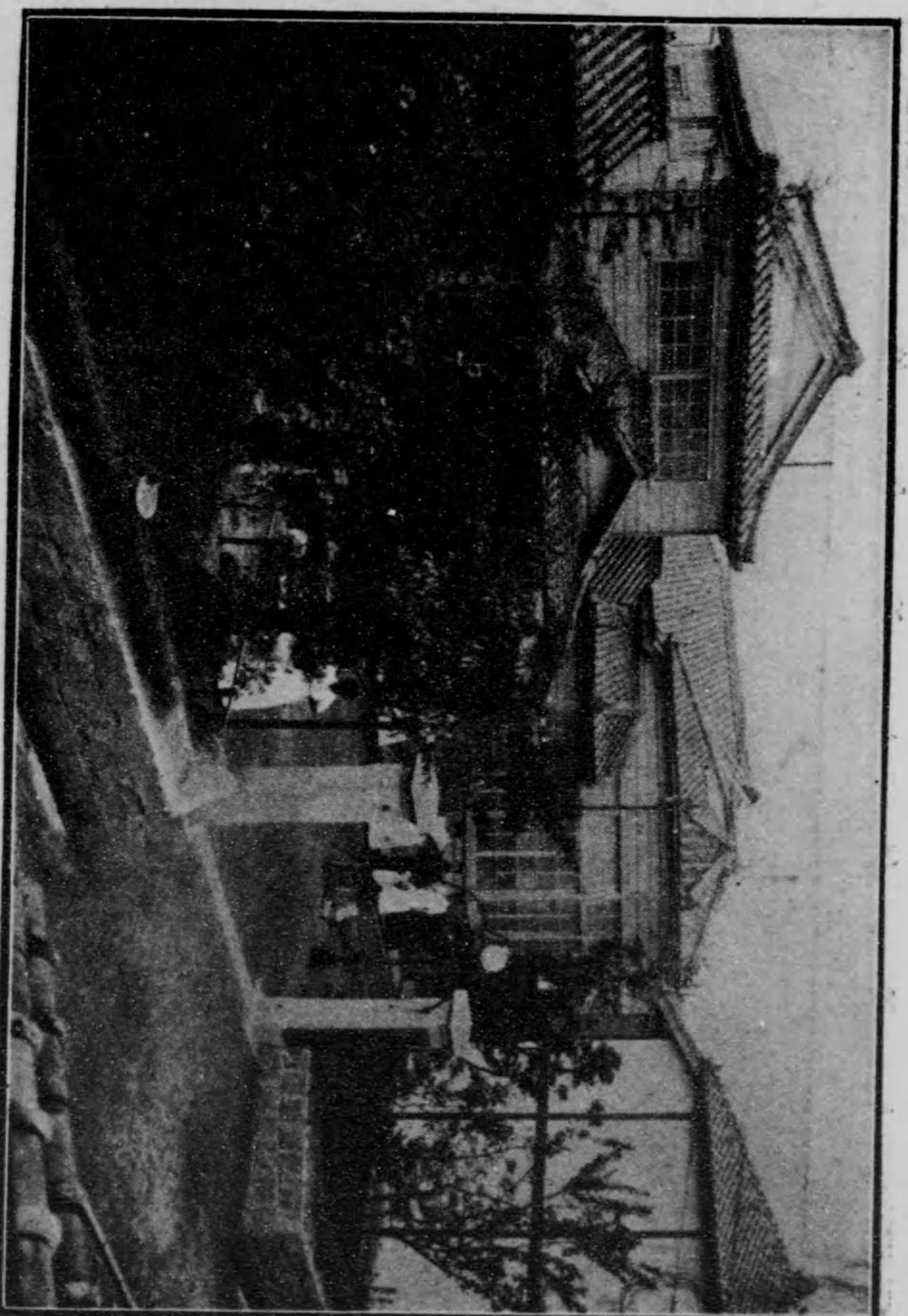
廣田整文堂



今長 町 役 場 前 園

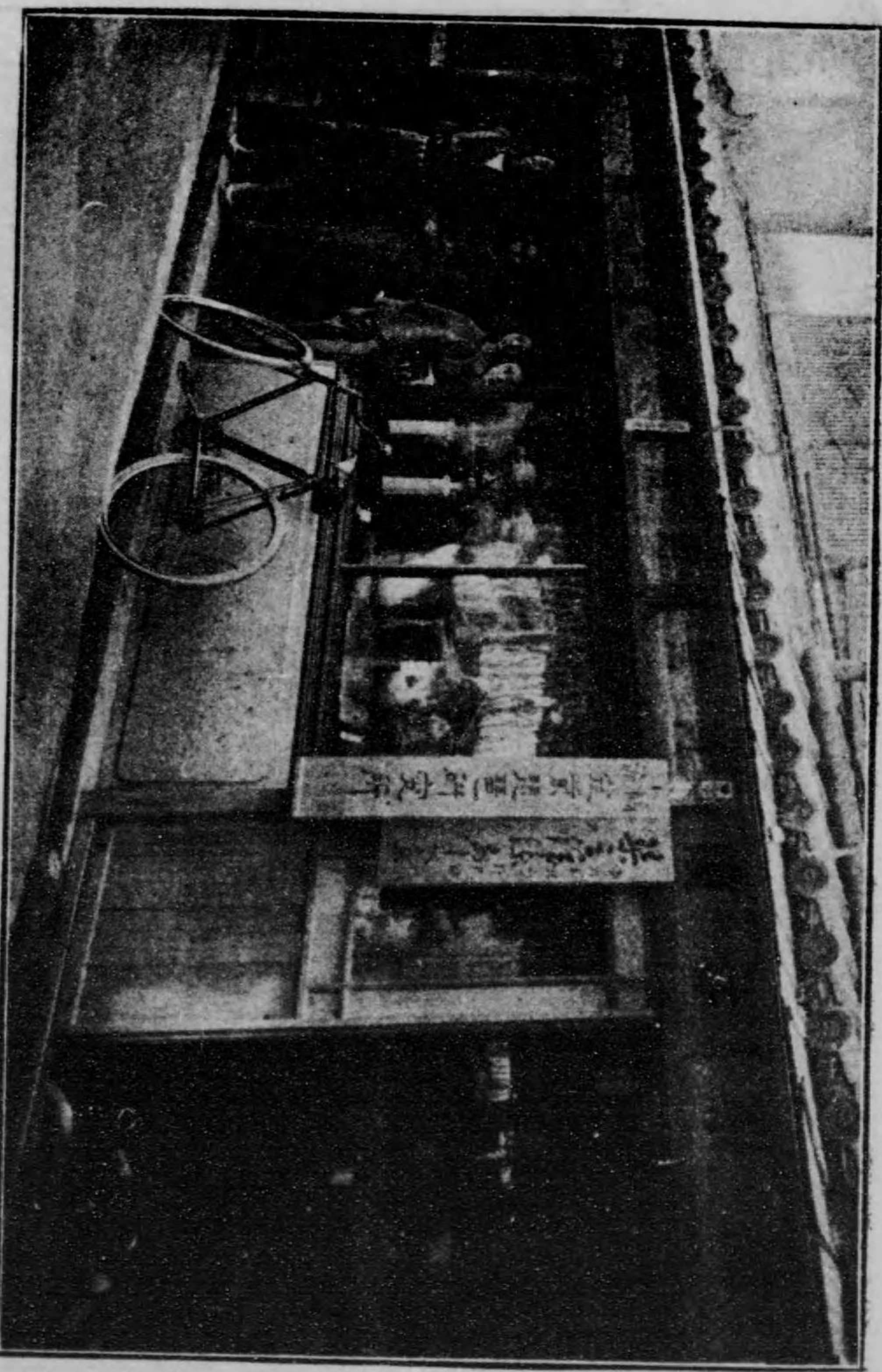
植木各種  
盆栽苗木  
庭用樹木  
其他草花種々

主 矢野作太郎

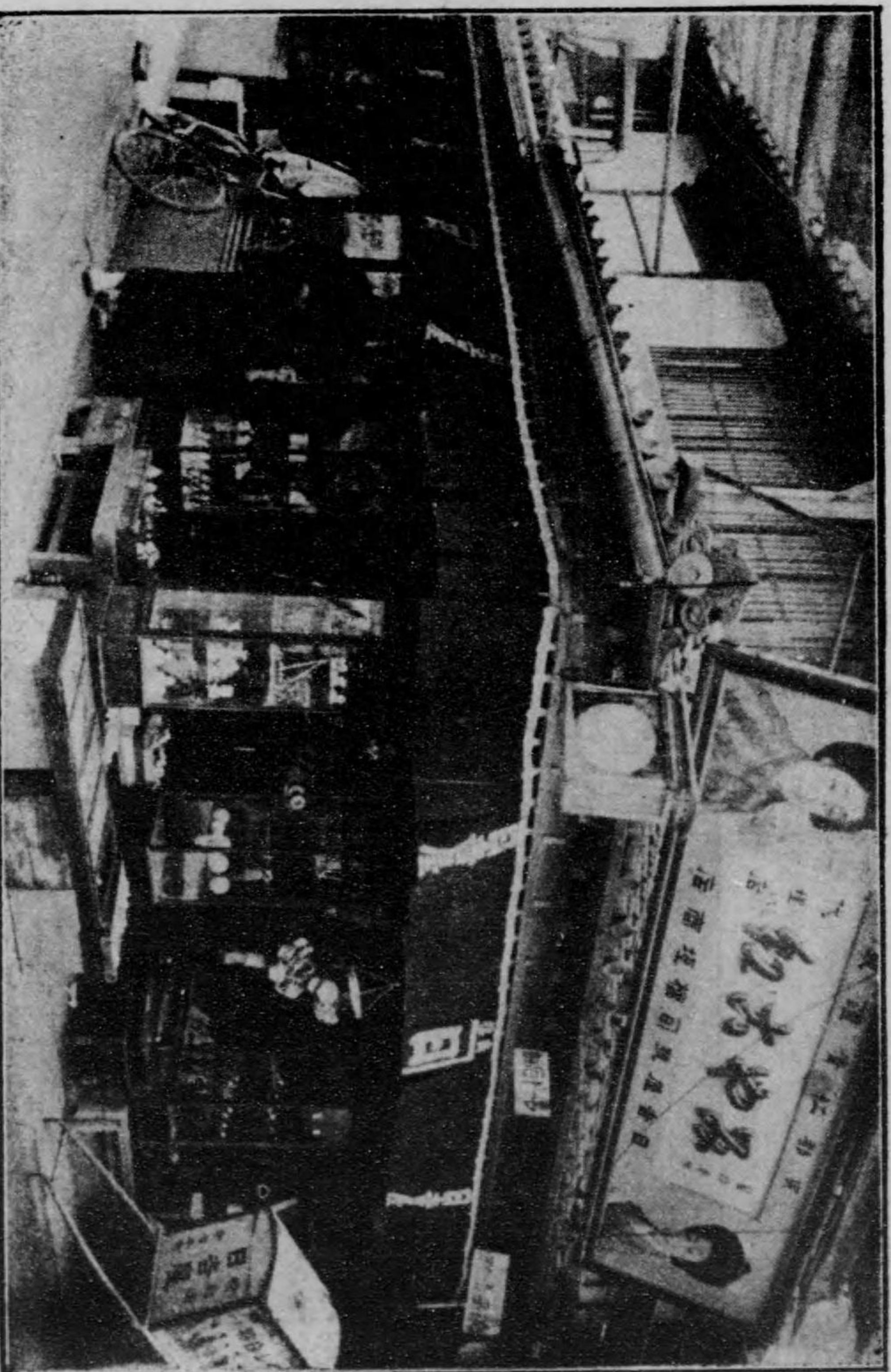


私立今治病院  
電話百十番

今治三番町



河近樂器店  
今治米屋一丁目



伊豫今治本町二丁目角

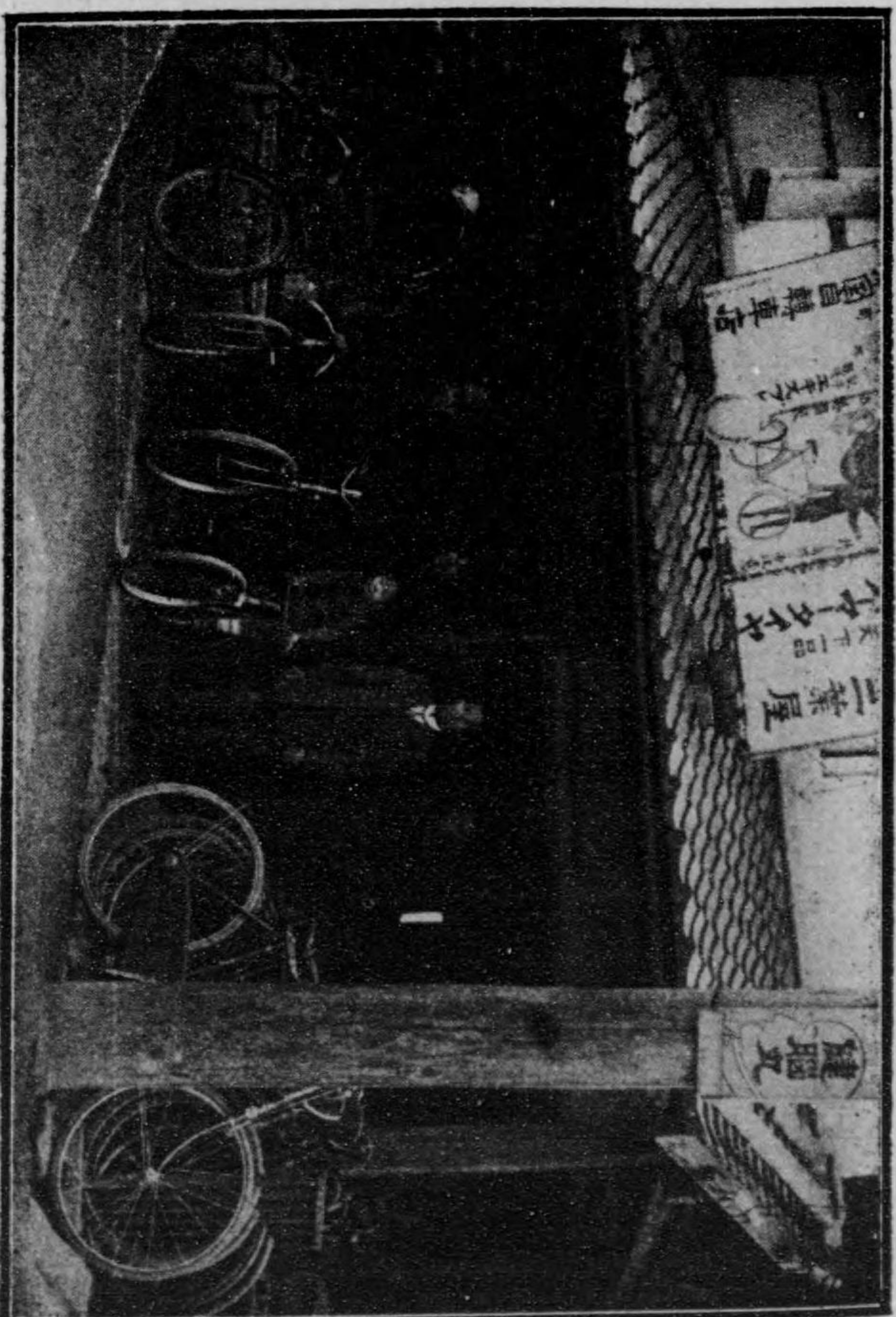
日吉屋小間物店

○ 美術小間物卸商  
確實廉價販賣

各修附 各種 廉價 迅速 附屬 品類 各種 廉價 迅速 附屬 品類 各種 廉價 迅速 附屬 品類

特約大販賣店

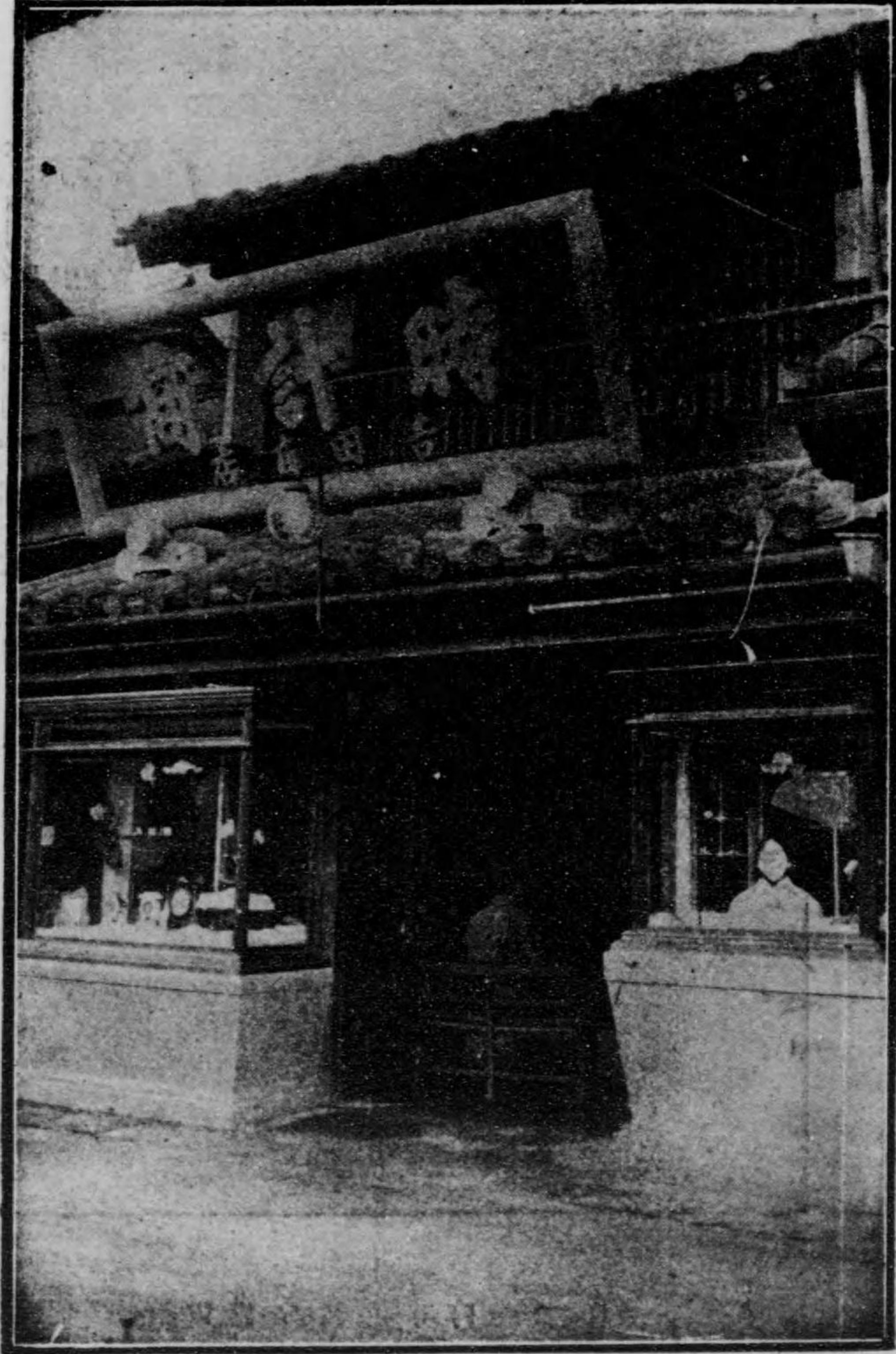
津國自轉車商會



今治町川岸端通角

指 各種  
輪 時  
類 計

特 日本  
約 蓄音  
商 器商  
店 會



目丁三町本治今康伊

助 之 寅 田 吉

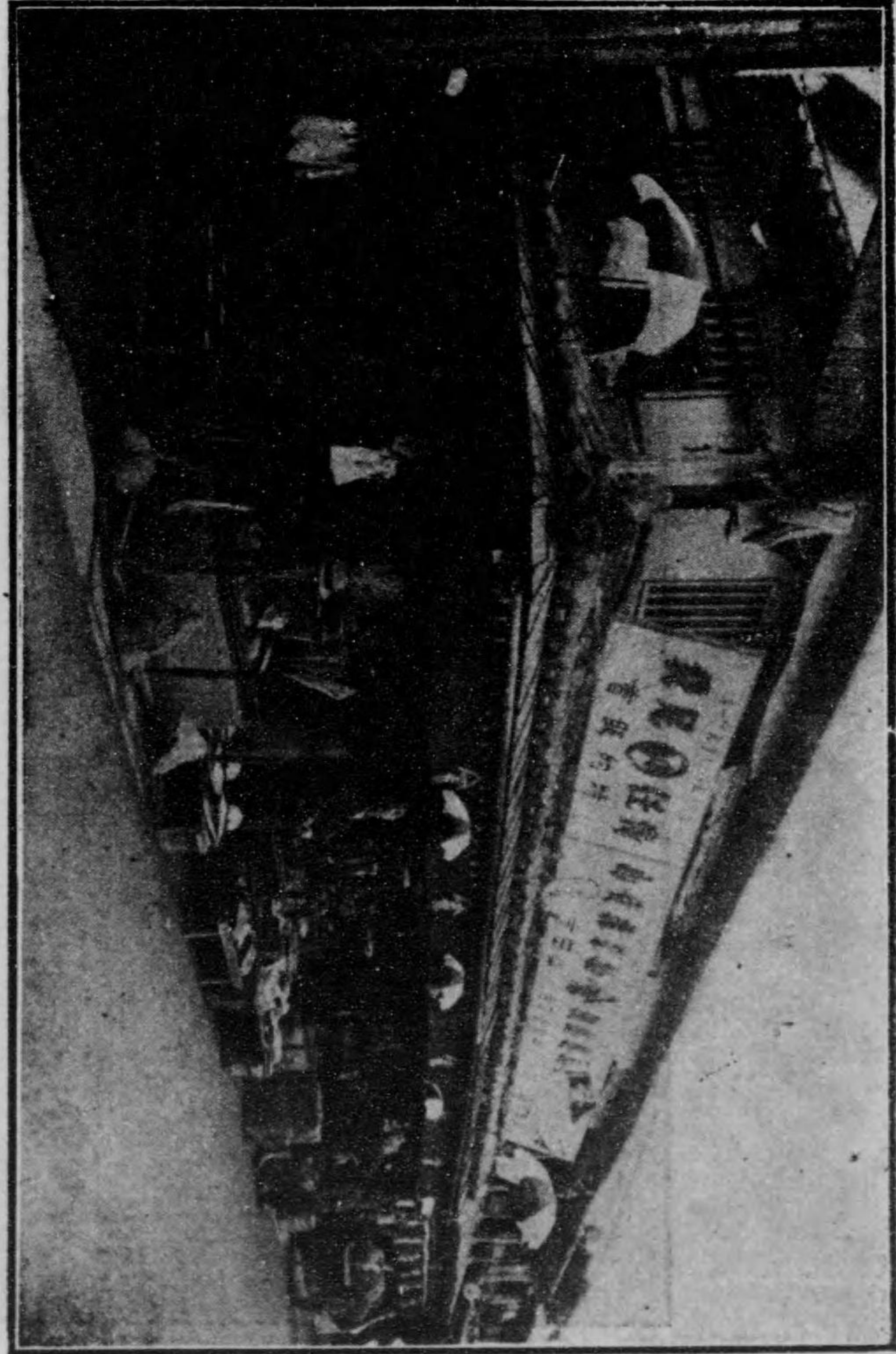
「電話」二〇一〇

山田源七商店

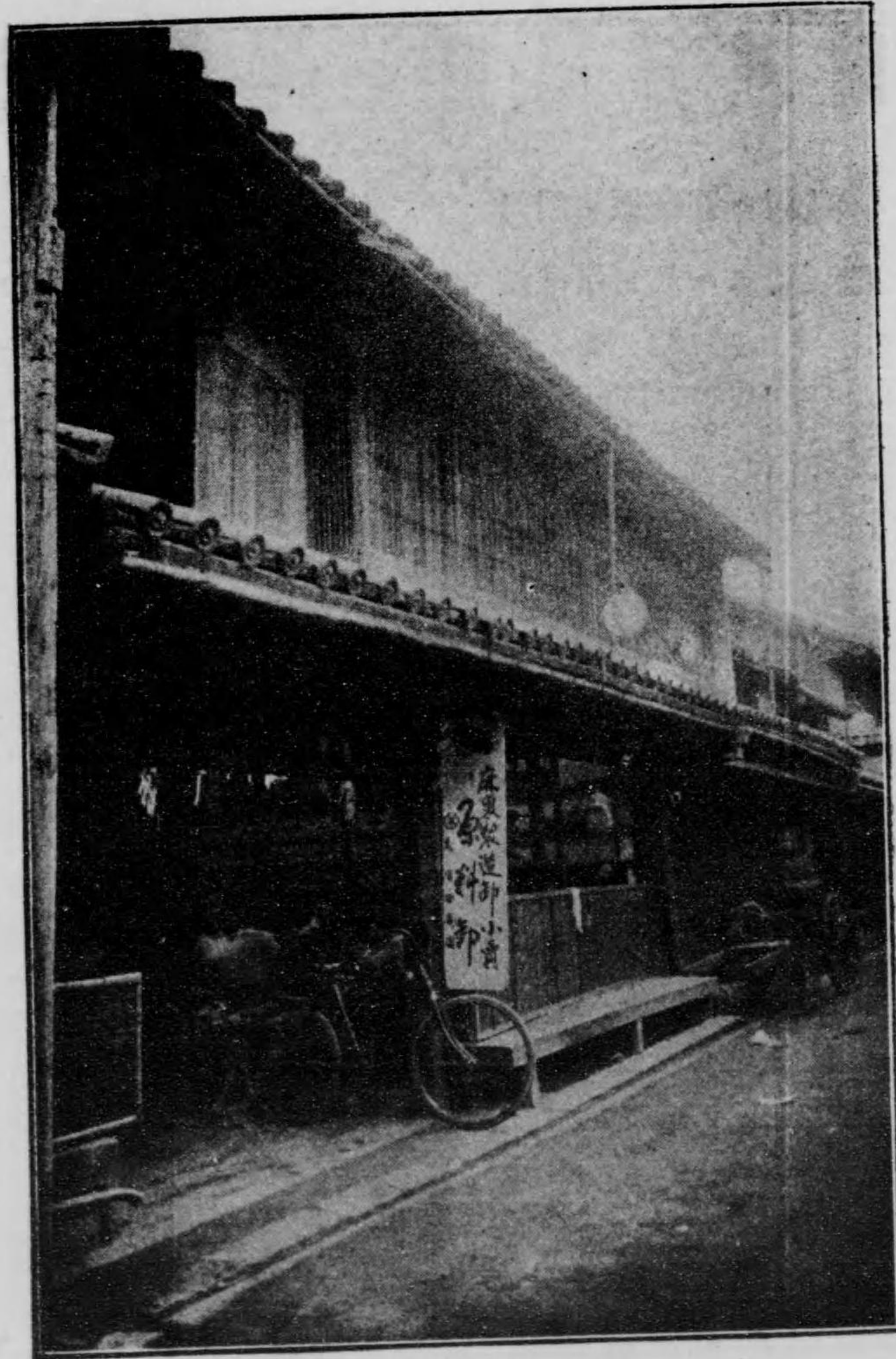


新 種 物  
和 洋 雜  
貨 類

角 日 丁 一 町 本 治 今



麻裏及原料卸製造所



今治本町三丁目

新居田柳三郎商店



伊豫今治早町一丁目

商業銀行

楠橋篤式商店

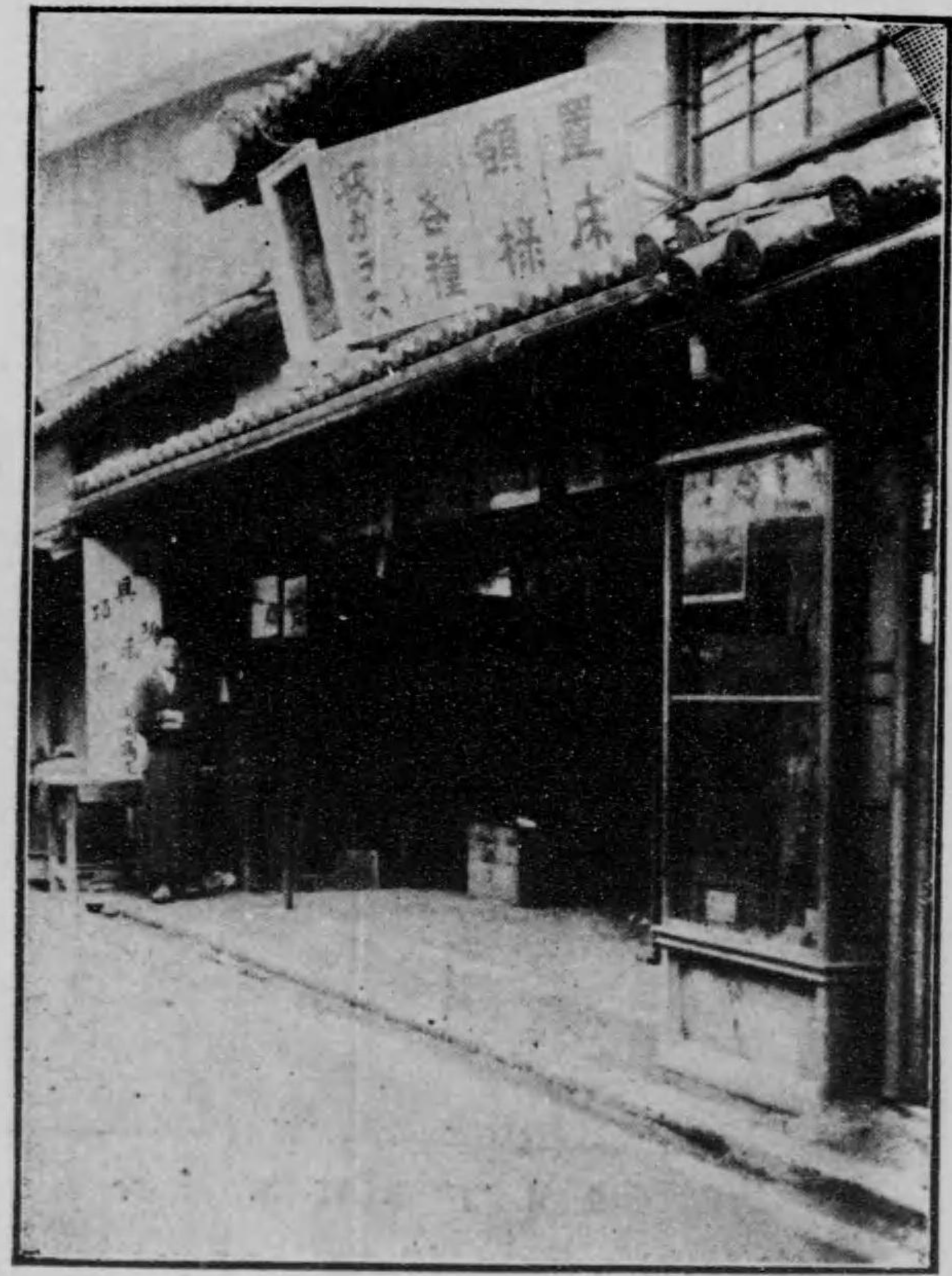
東 京 式  
高 等 御 菓 子 調 進 所

今 治 川 岸 端 通 り

勉 強 堂 吉 舖 本 ちも櫻治今  
ばつ金物名  
番七十六話電



造製々種椽額品用換 種各スラガ板  
造製管木ルワス用機鉄 式一類具建

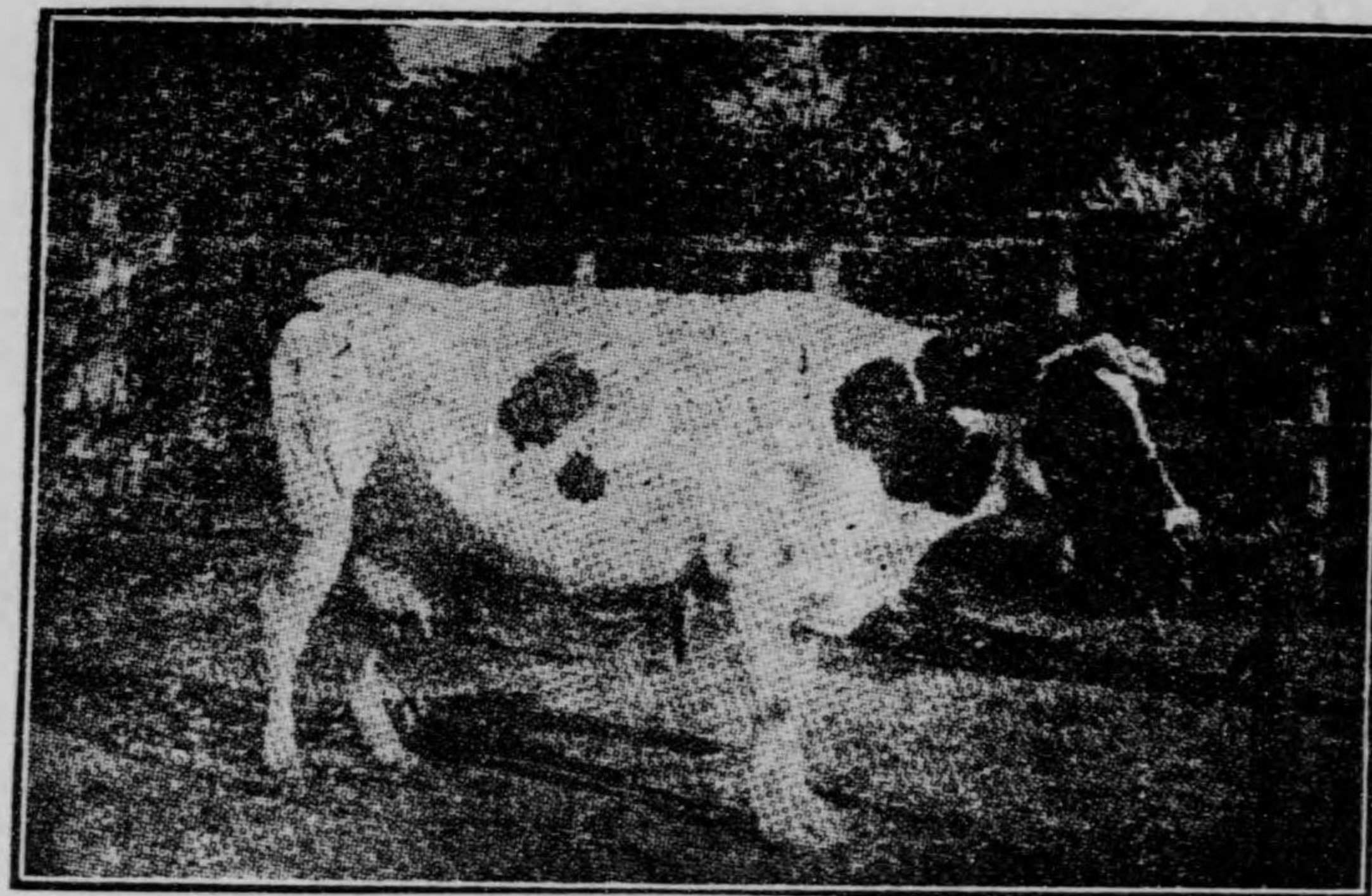


山 岡 商店

愛媛縣今治中濱町二丁目横



伊豫今風早町一丁目  
 一 笑 堂 本 店  
 電 話 二 百 五 十 五 番



今 治 畜 産 會 社  
 有 名 ナ ル 牛 乳  
 エ ヲ マ ン 號

滋 養 最 モ 優 秀

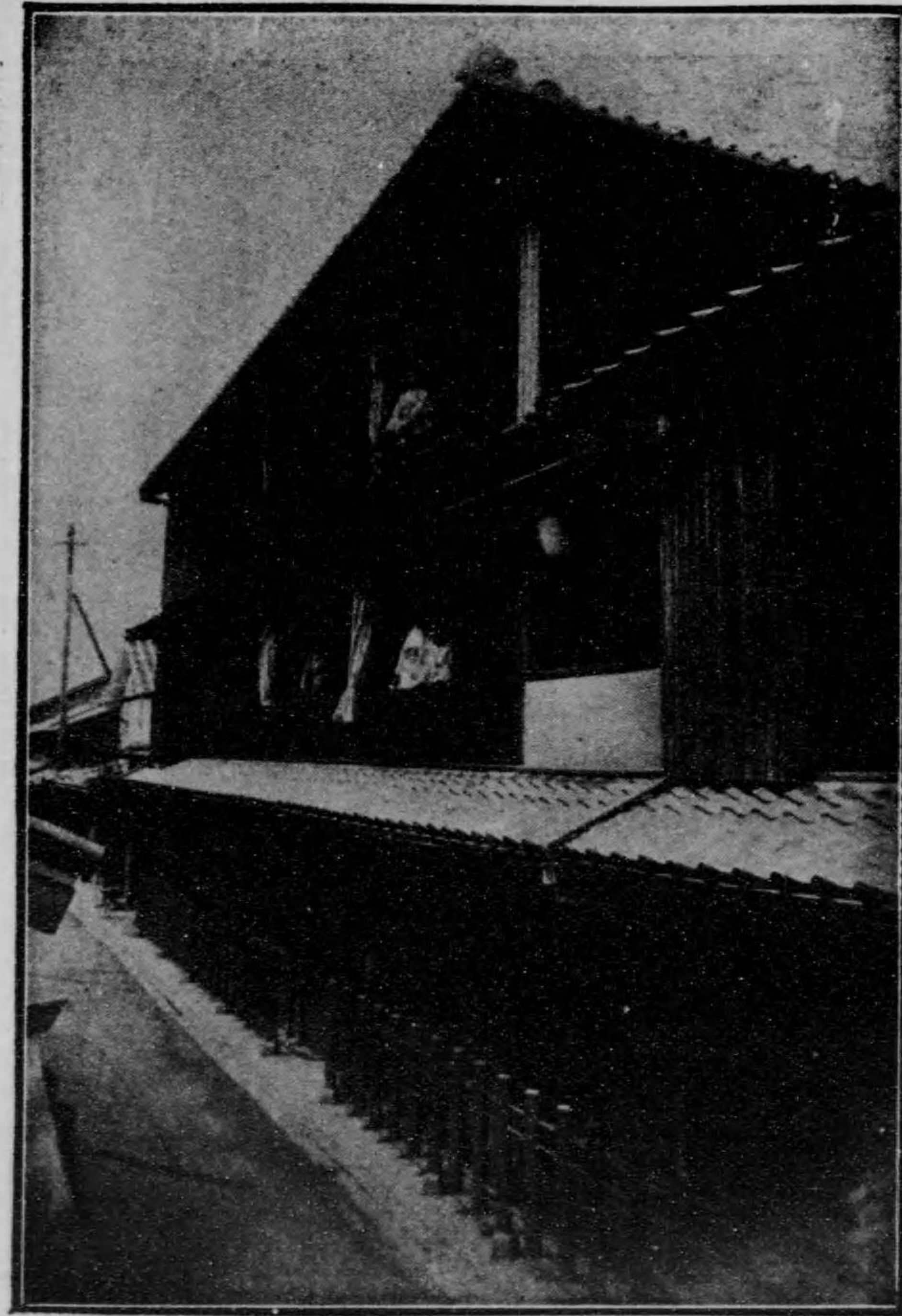
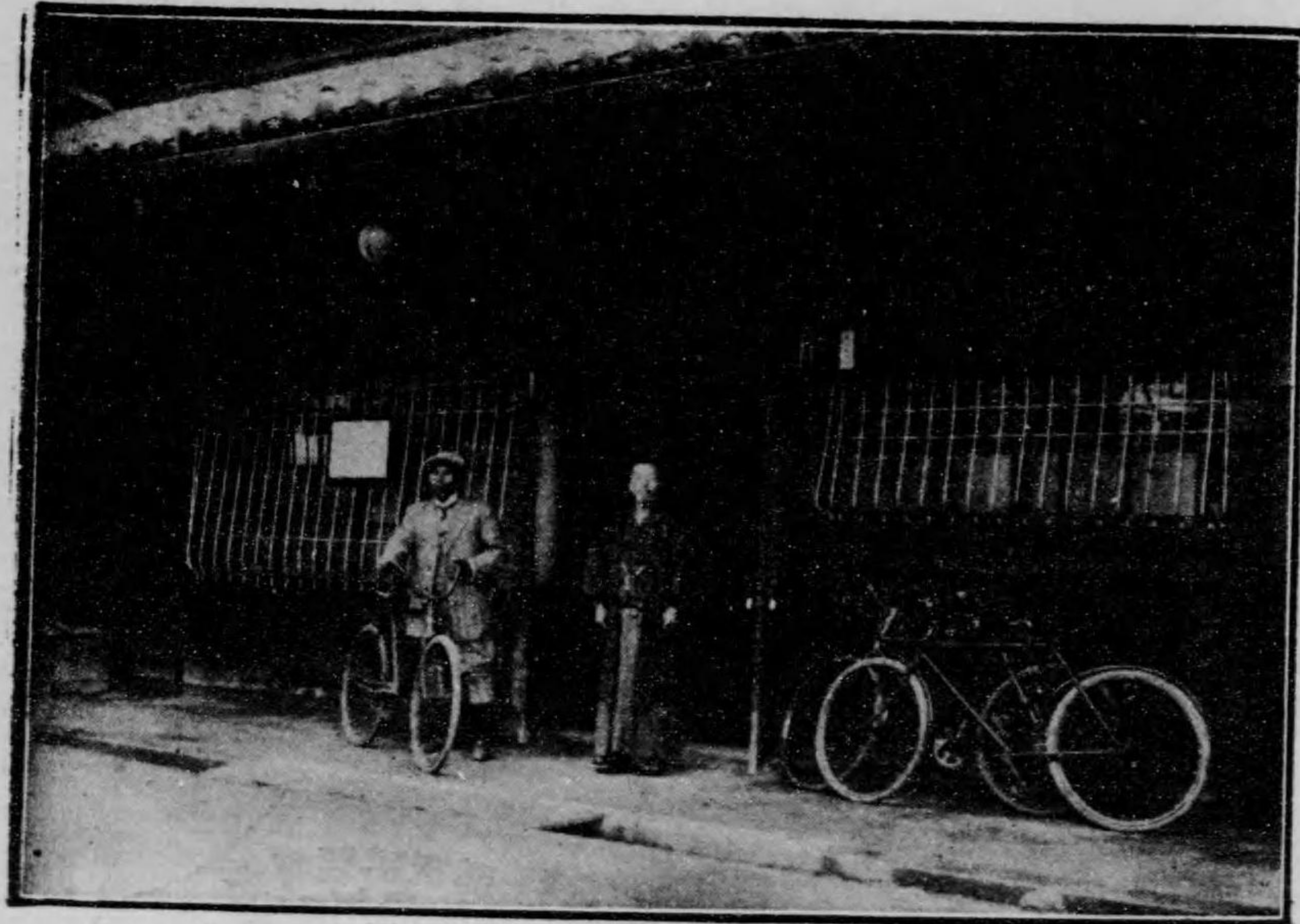
衛 生 消 毒 ノ 完 全 ナ ル ハ

本 社 無 菌 牛 乳 ノ 特 色

今 治 畜 産 會 社

電 話 二 百 五 十 五 番  
 牛 乳 部 一 五 四 番  
 販 賣 部





旅館々主 青野仙吉  
電話五十八番

伊豫今治港 旅館順成舍

營業目次

勸業證券、買賣、付金、介紹、商、品、運、受、託、取、立、資、金、及、掛、代、金、之、取、立、貸、金、及、賣、買、代、金、之、取、立、小、金、及、賣、買、代、金、之、取、立、額、外、及、賣、買、代、金、之、取、立、資、金、及、賣、買、代、金、之、取、立、動、產、不、動、產、主、代、理、及、整、理、引、受、財、產、不、動、產、主、代、理、及、整、理、引、受、委、託、二、日、ル、一、般、事、務、ノ、處、理

本社



愛媛勸業株式會社

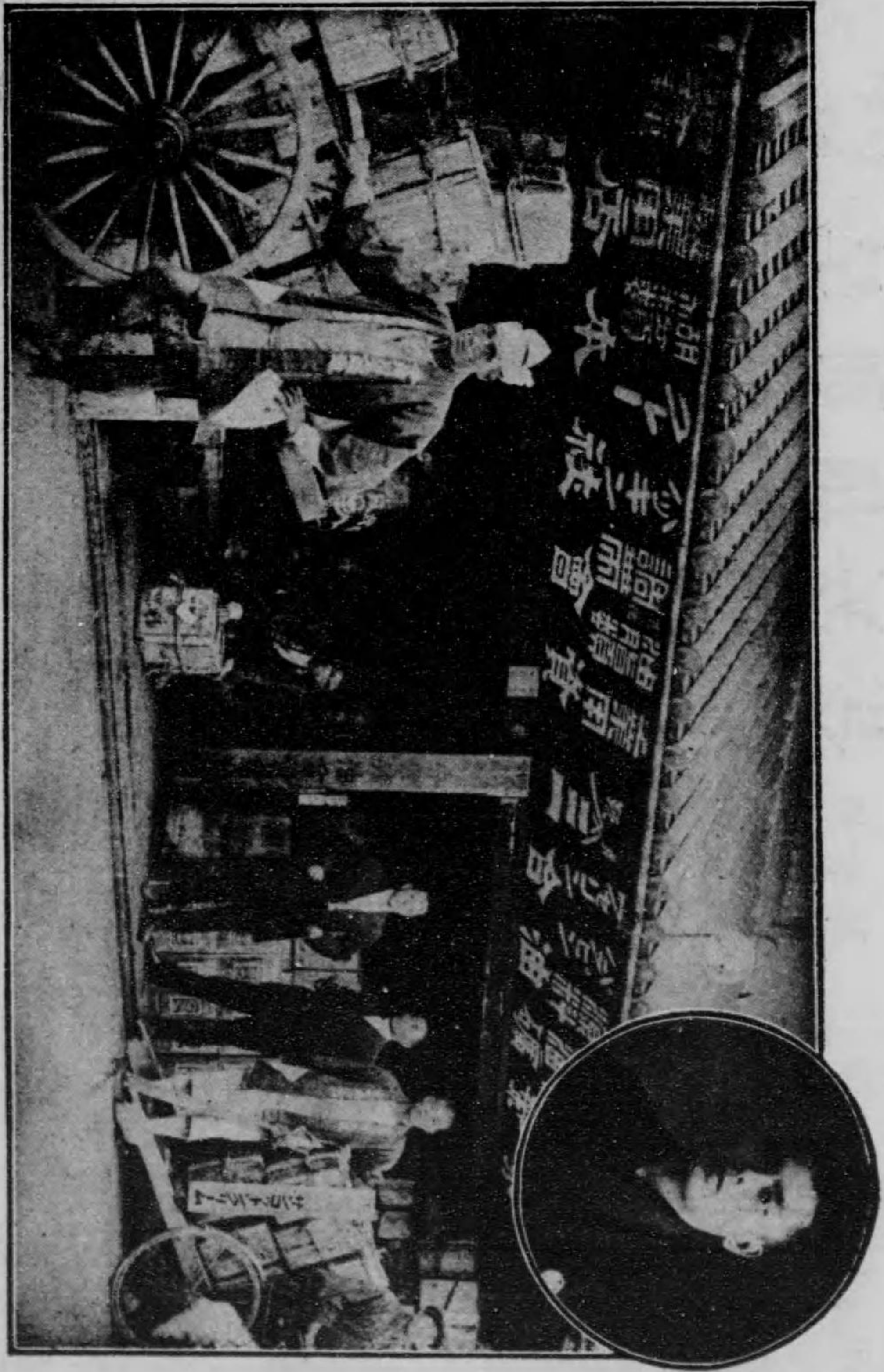
今治本町三丁目

電話二三三番

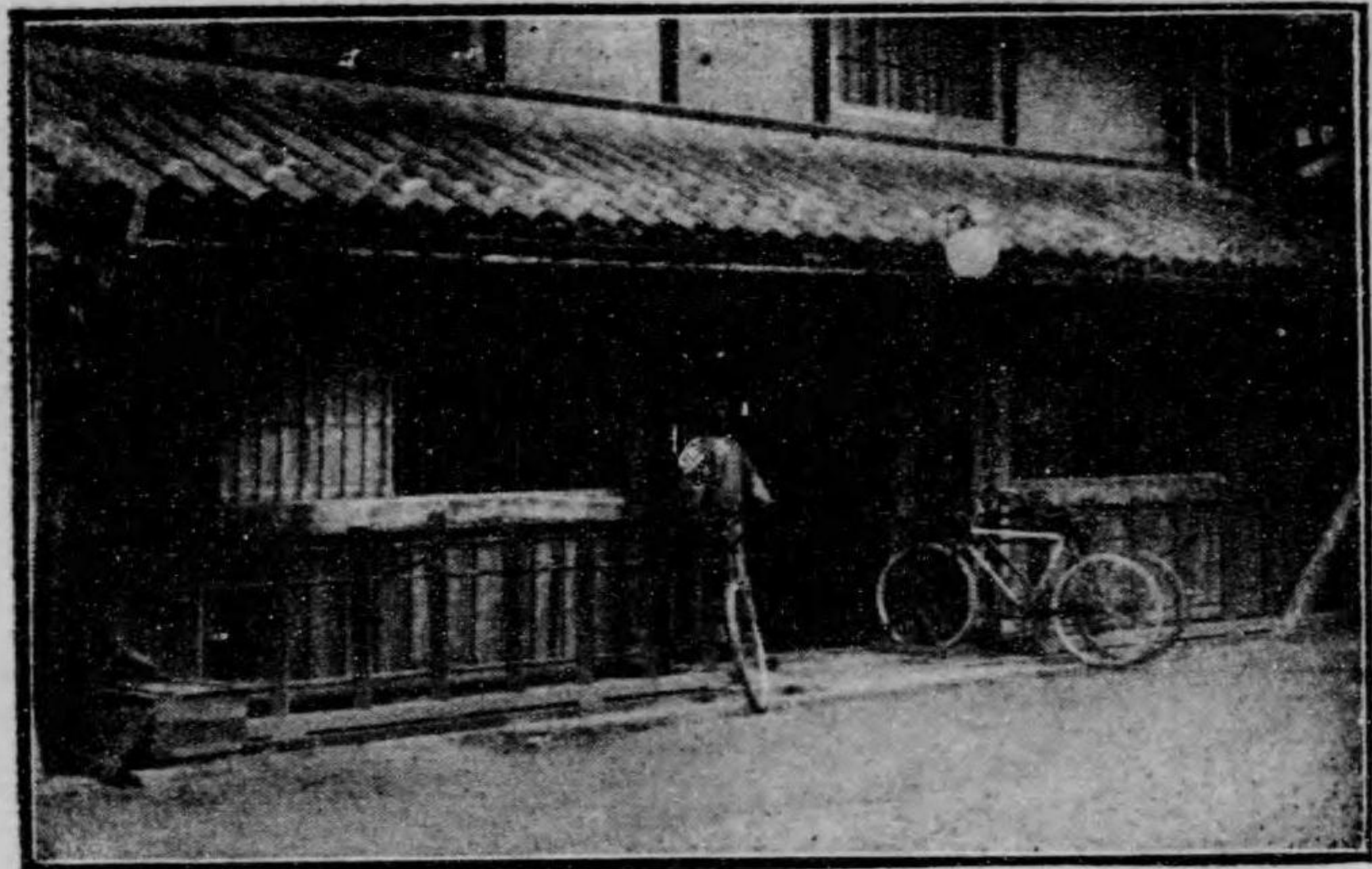
株式會社愛國貯金銀行今治代理店  
日本共立生命保險株式會社今治代理店  
帝國興信所囑托所  
帝國中央興信所囑托所

壬生川出張所  
西條出張所  
三嶋出張所

關西發賣元 秀榮礦油合資會社  
伊豫國今治港 常盤町川岸端通



番三八〇九二阪大發振 番六四一長話電



愛媛縣越智郡  
今治町川岸端通

今治出張所

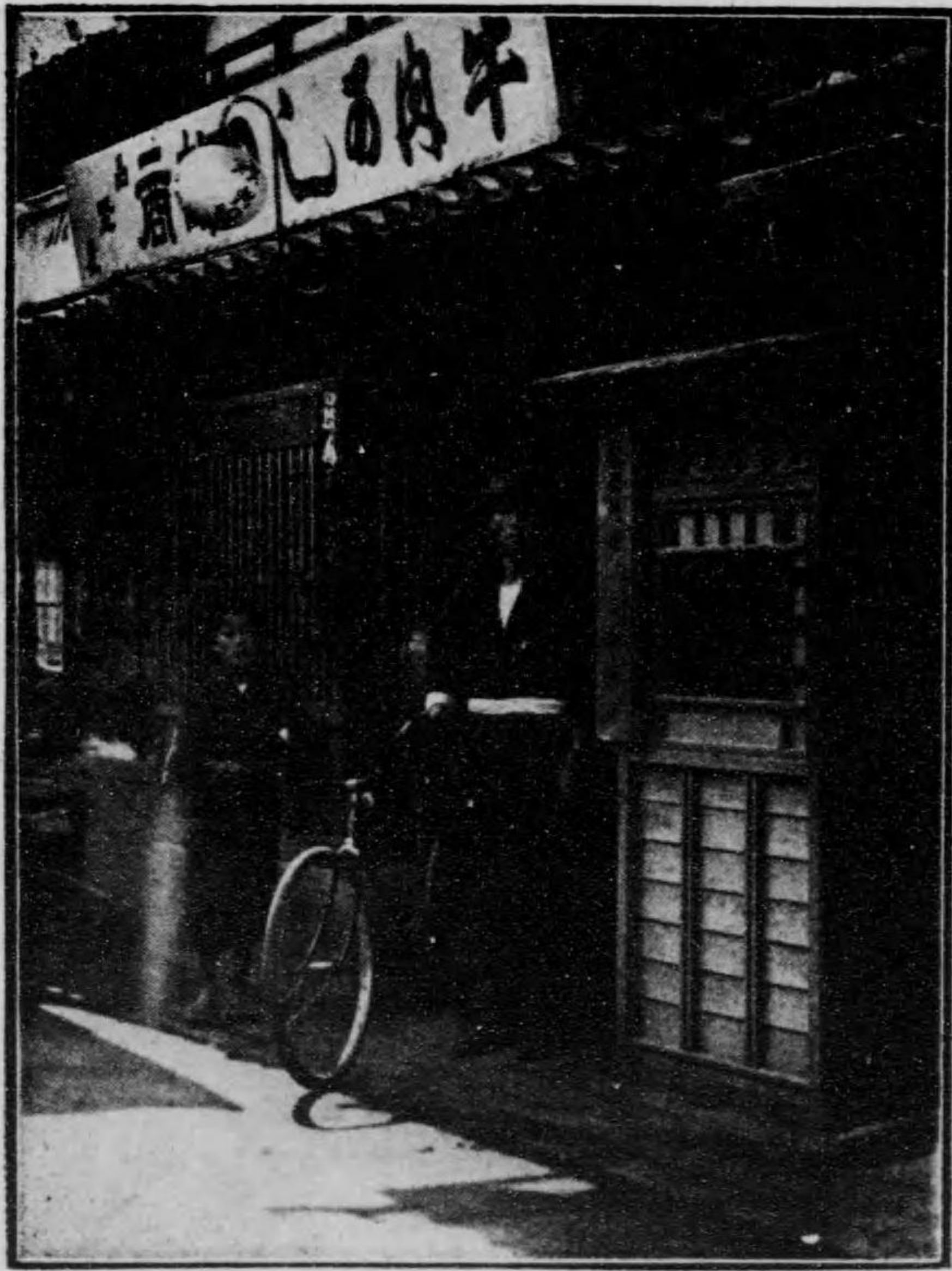
肥薩貯金株式  
社會松山支店



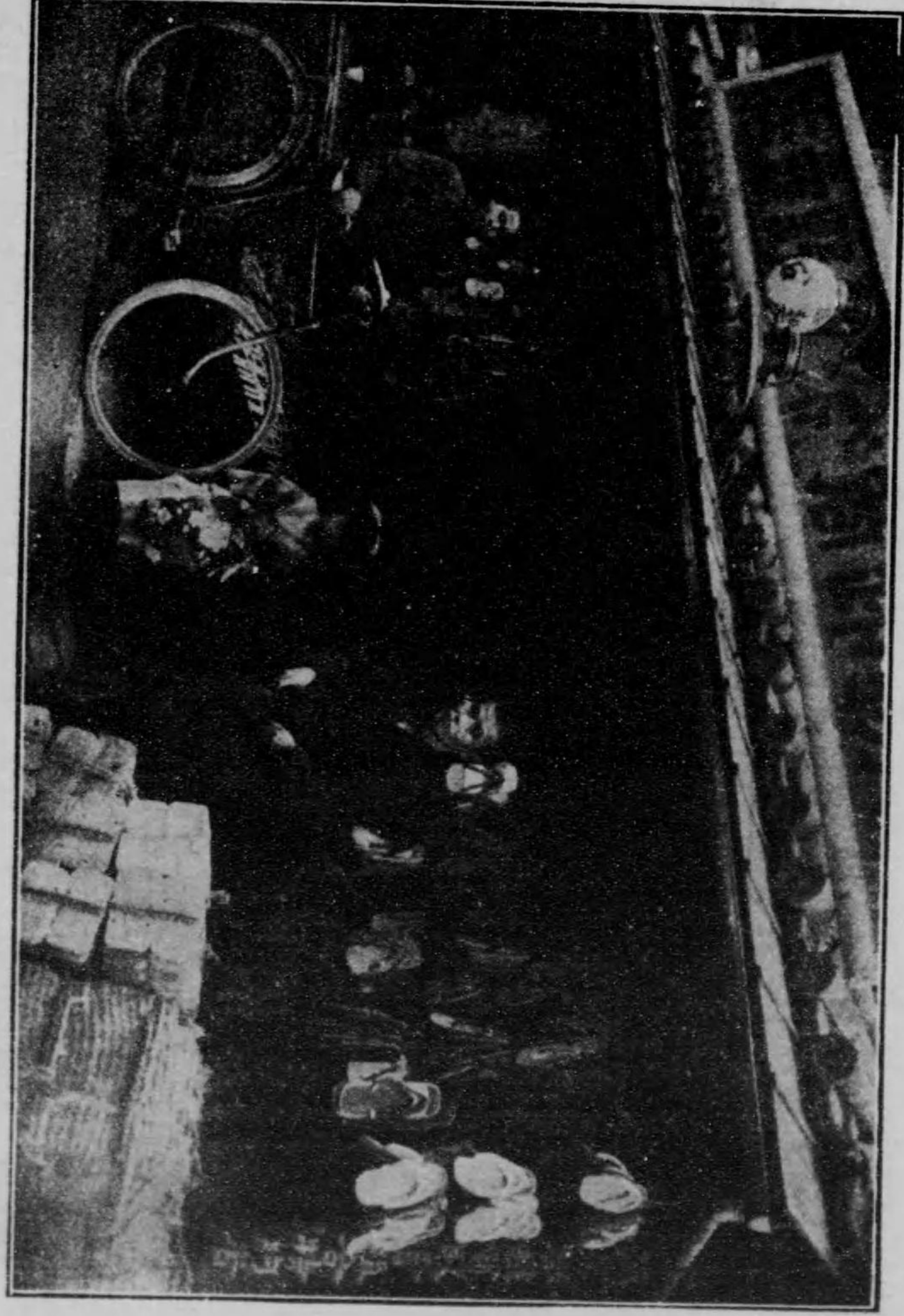
振替口座大阪二七九一三番  
電話(四六番)

# 精肉商

今治町新町三丁目



品 部 なし の や の 事  
造 菊 部 品  
百 十 八 番 戸



各國博覽會共進會ニ於テ金銀牌受領新ナル意匠優秀ナル技術流行ノ  
 辨子抜キタル本店ノ色  
 井ニゴラソンサヤード  
 石油瓦斯ランプノ一販賣及臨時點燈ニ應スルノ御便利有リ  
 申題アレ

號商  
「風井石」

吉野矢谷

商物履

今治本町一丁目東側

# 氷卸小賣商

並ニ桶杓製造

氷下達御座一

年中きれめなし  
生魚用  
御病人用

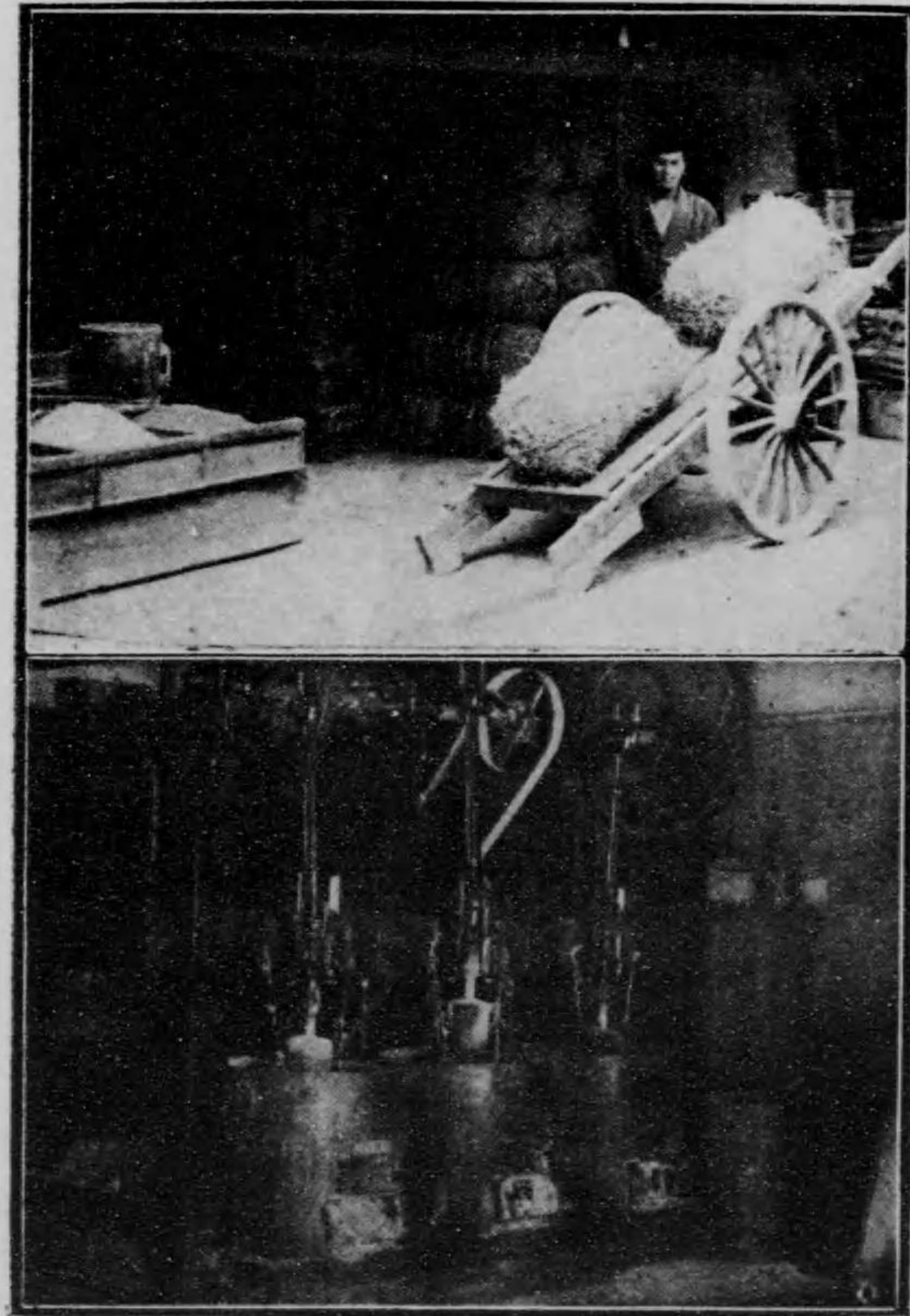


伊豫今治中濱町一丁目

吉村峯吉商店  
電話百二十三番

# 米穀商

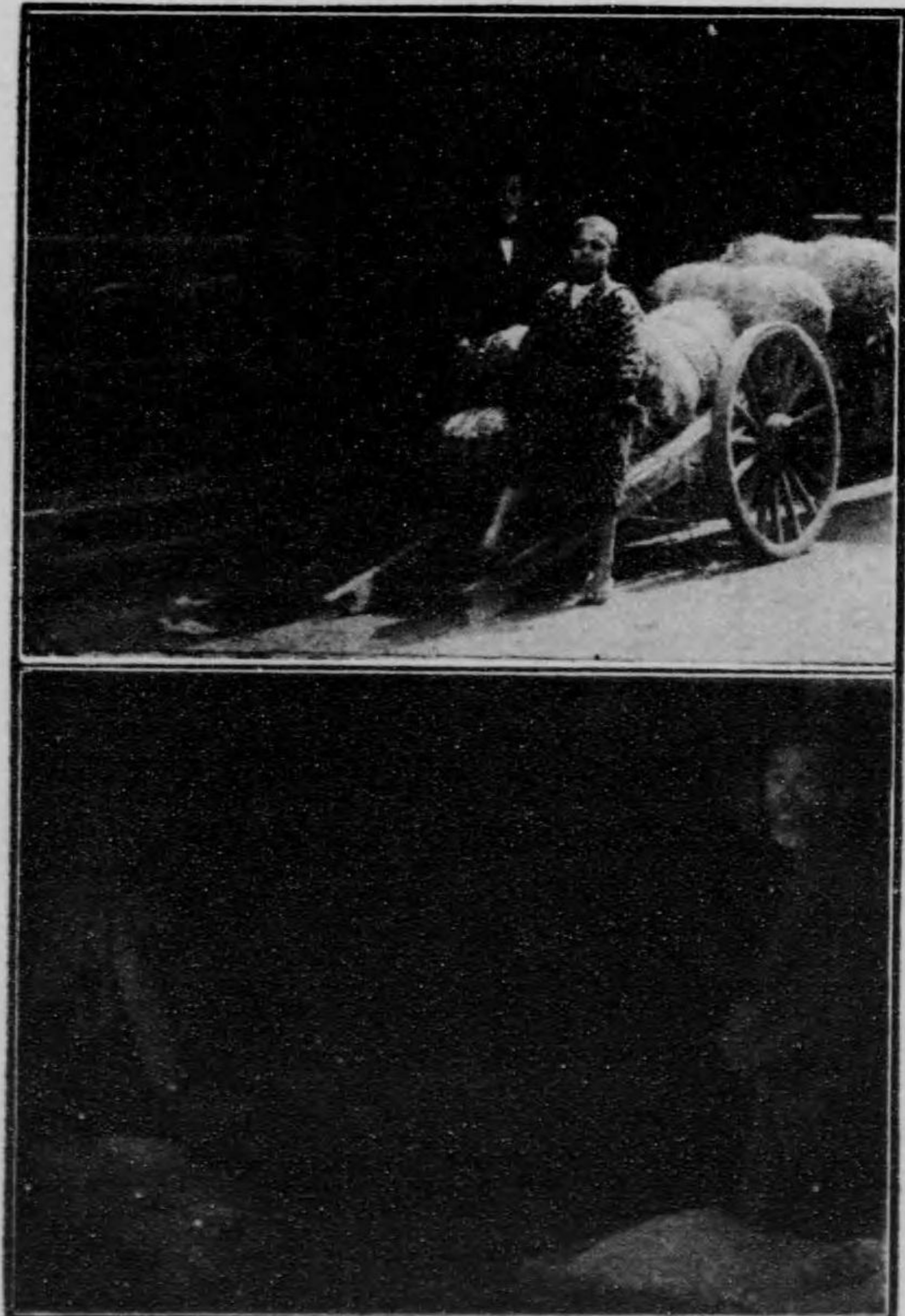
感智郡今治新町三丁目



山田精米所

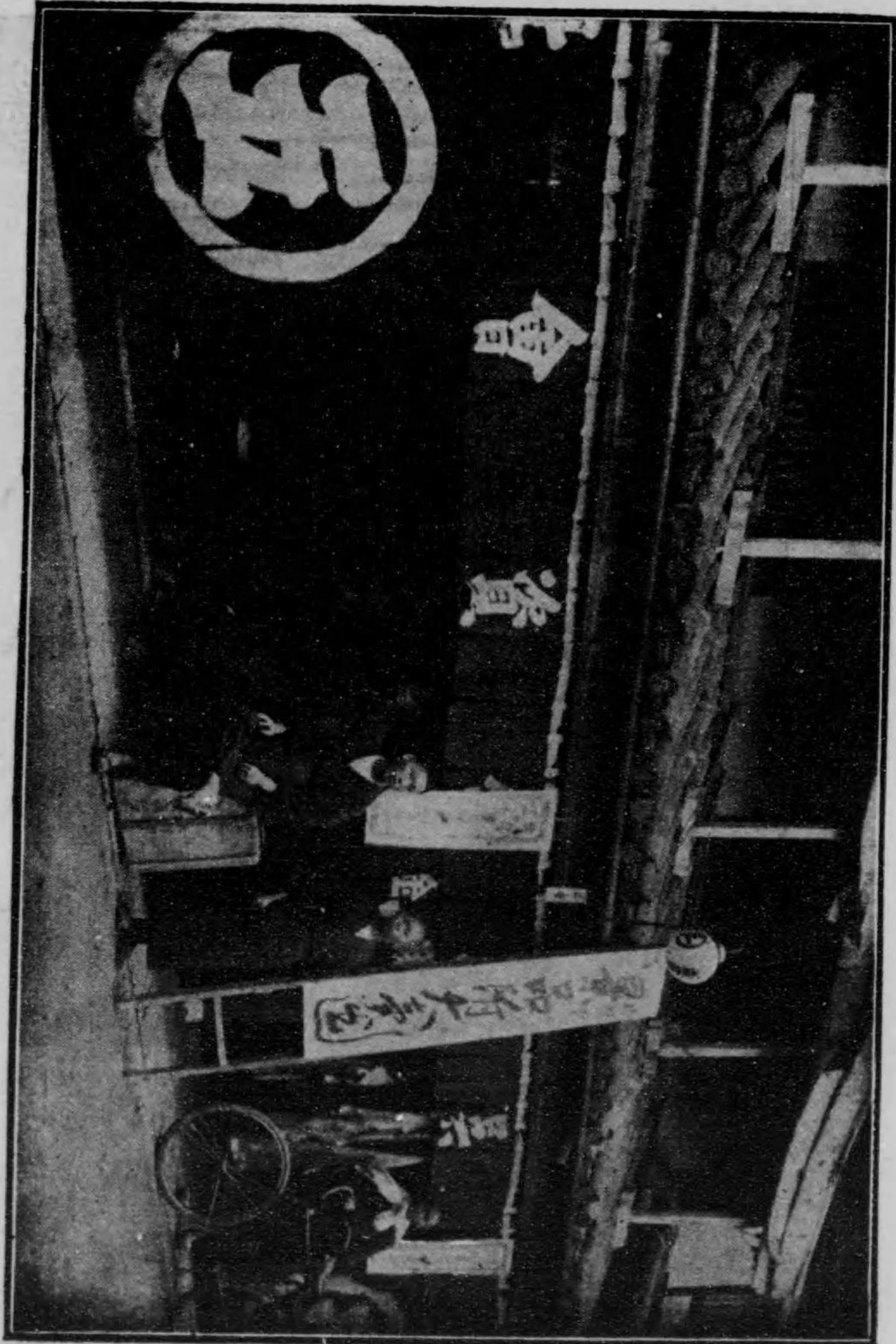
振替口座 (大阪一八〇六九)

米 穀 精 米 所



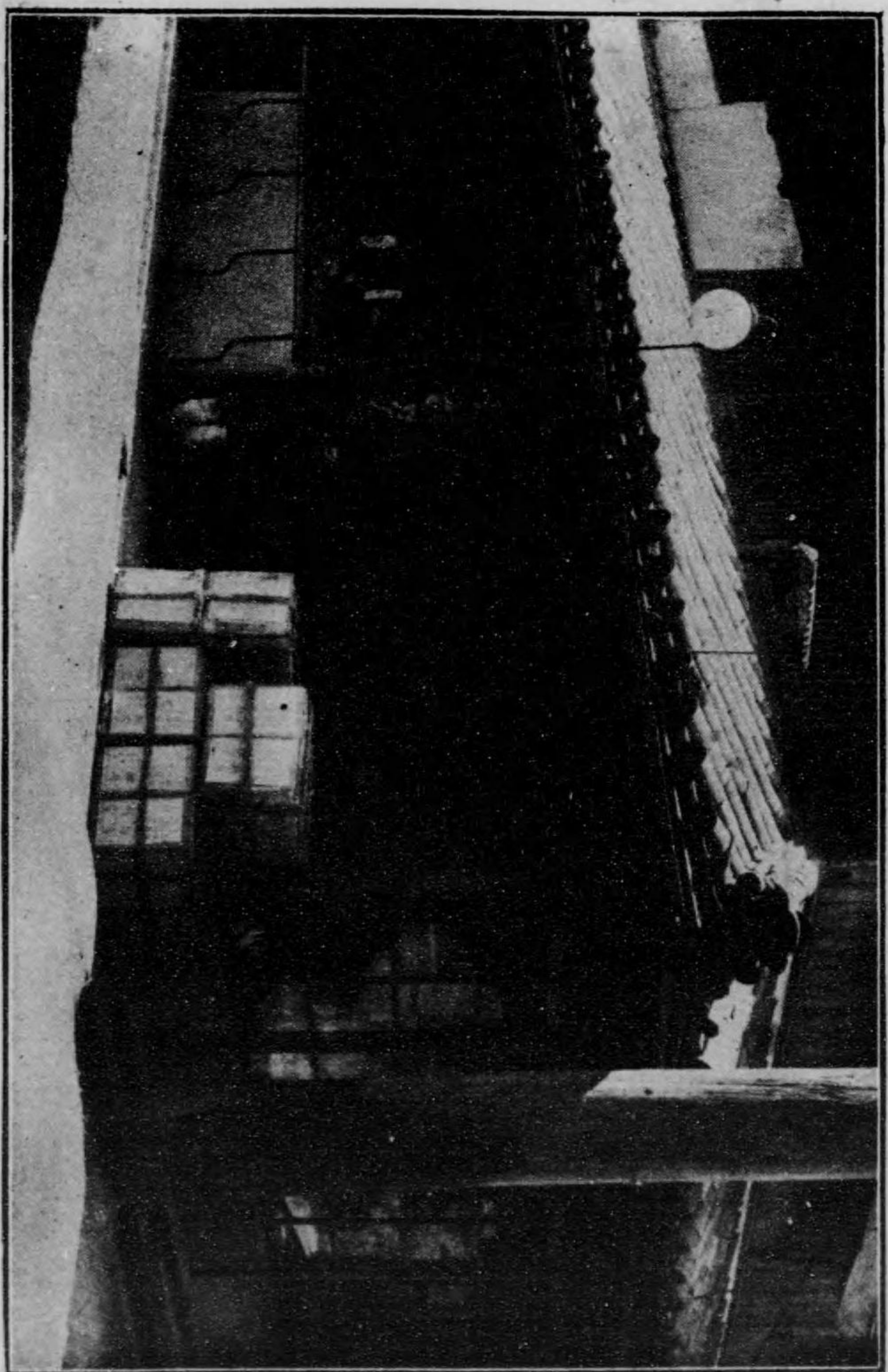
羽 越 智 喜 三 郎

越智郡今治町新町三丁目



目 丁 一 町 本 治 今  
 社 會 資 合 服 吳 治 今  
 冊 五 話 電

賣 販 造 製 子 菓 御



店 商 岡 北 目 丁 二 町 濱 中 治 今

\* 聲 芳 \*



今 治 家 愛 須 比 町 幼 笑 廼

\*\*\* 禮 美 壽 \*\*\*



今 治 米 屋 町 渡 邊 子 席 笑

◀ 園 庭 の 家 廻 笑 ▶



今 治 惠 比 須 町  
電 話 二 五 五 番

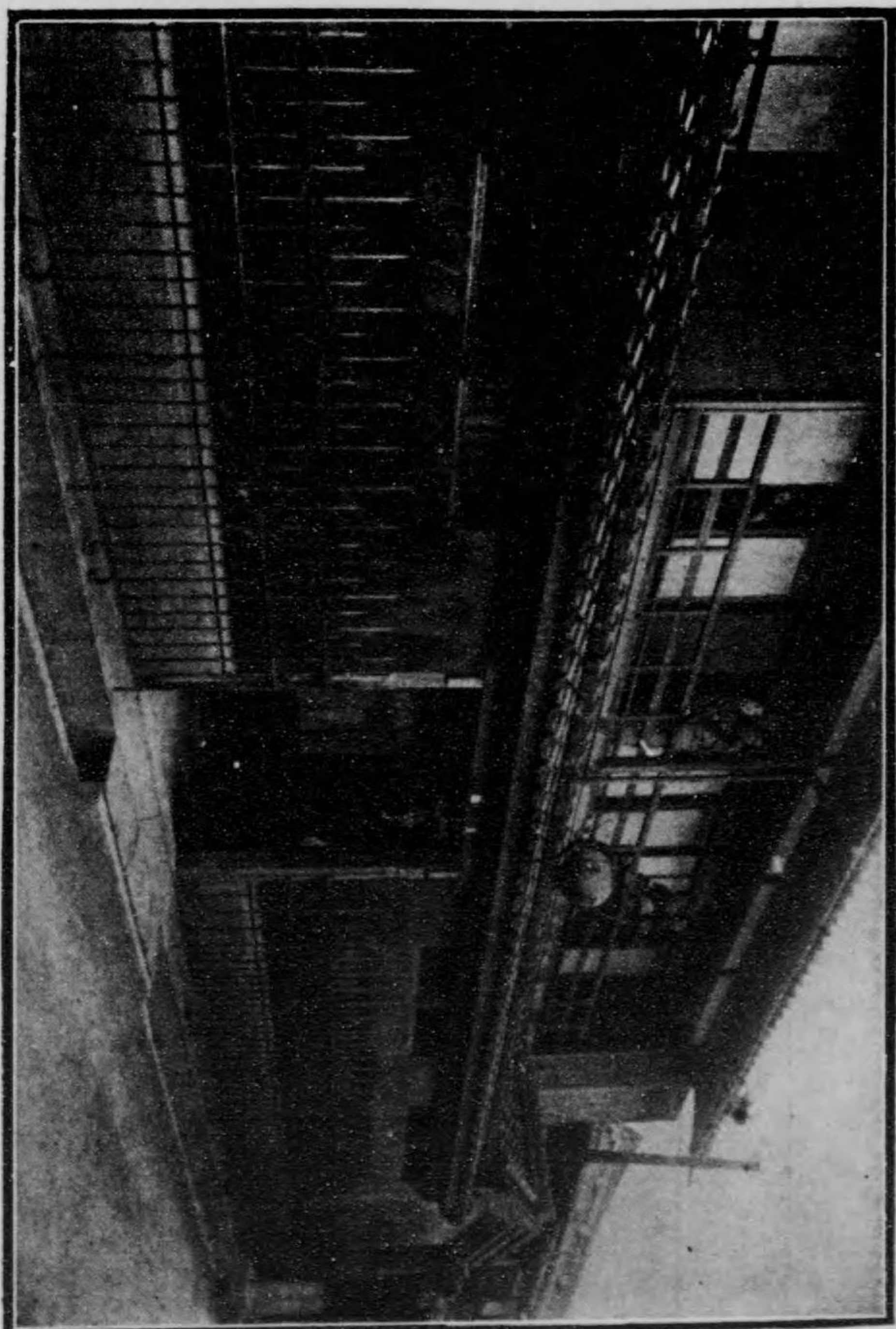
梅 櫻



今町波邊  
かろた

今治米屋町竹内  
蝶玉

家 高 濟  
屋 層 深  
御 旅  
料 館  
理



伊 豫 今 治 中 濱 町 一 丁 目  
華 山 電 話 三 一 一 番



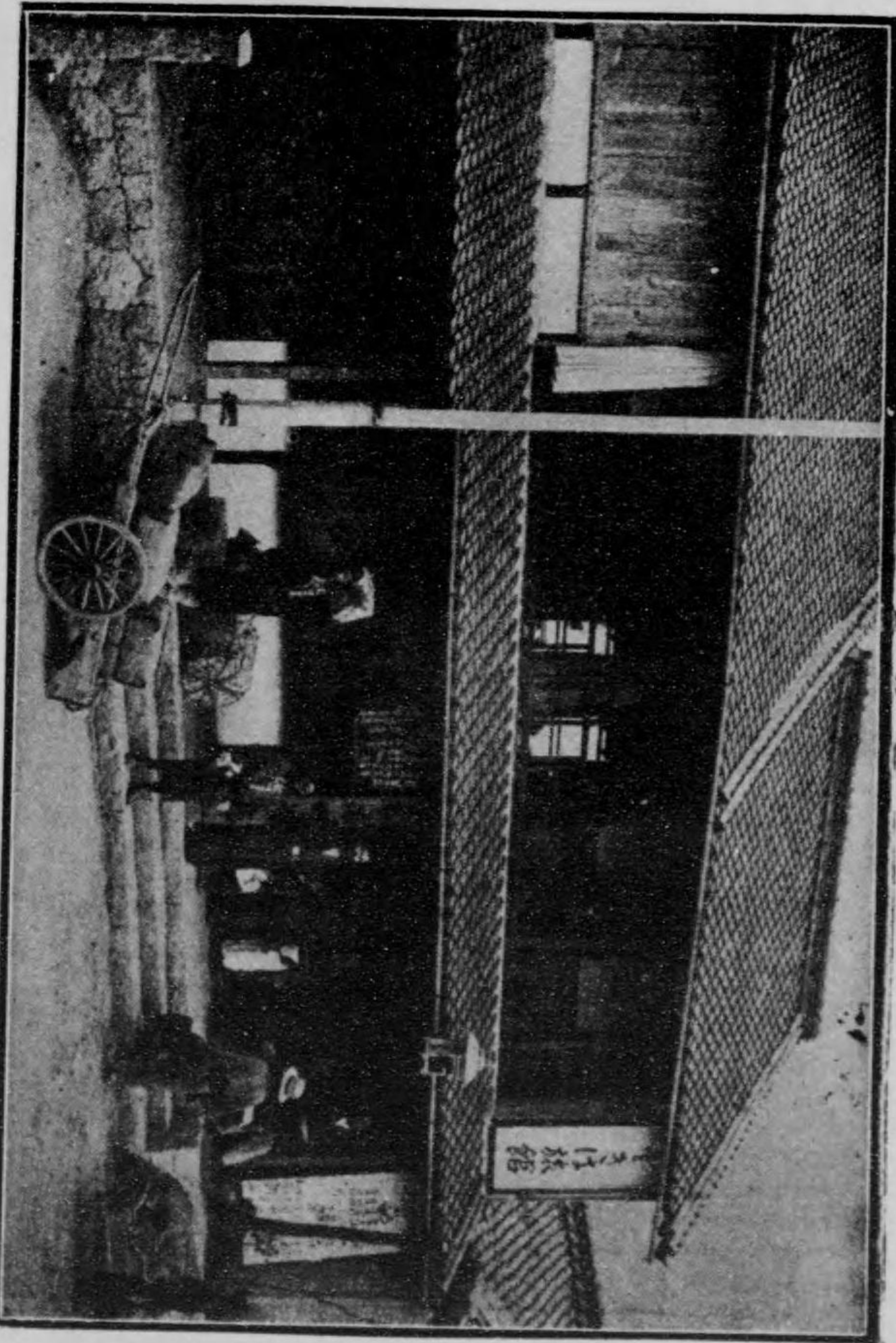
大 三 島 船 時 間 浦

七相生丸 午前七時三十分發 寄港地 休、竹原、三津、三ッ口、川尻、阿賀、音月、鍋、吳

今治行 午前七時發 寄港地 木ノ江、御手洗、菊間、北條、高嶺

六相生丸 尾ノ道行 午後八時

御島丸 午後三時

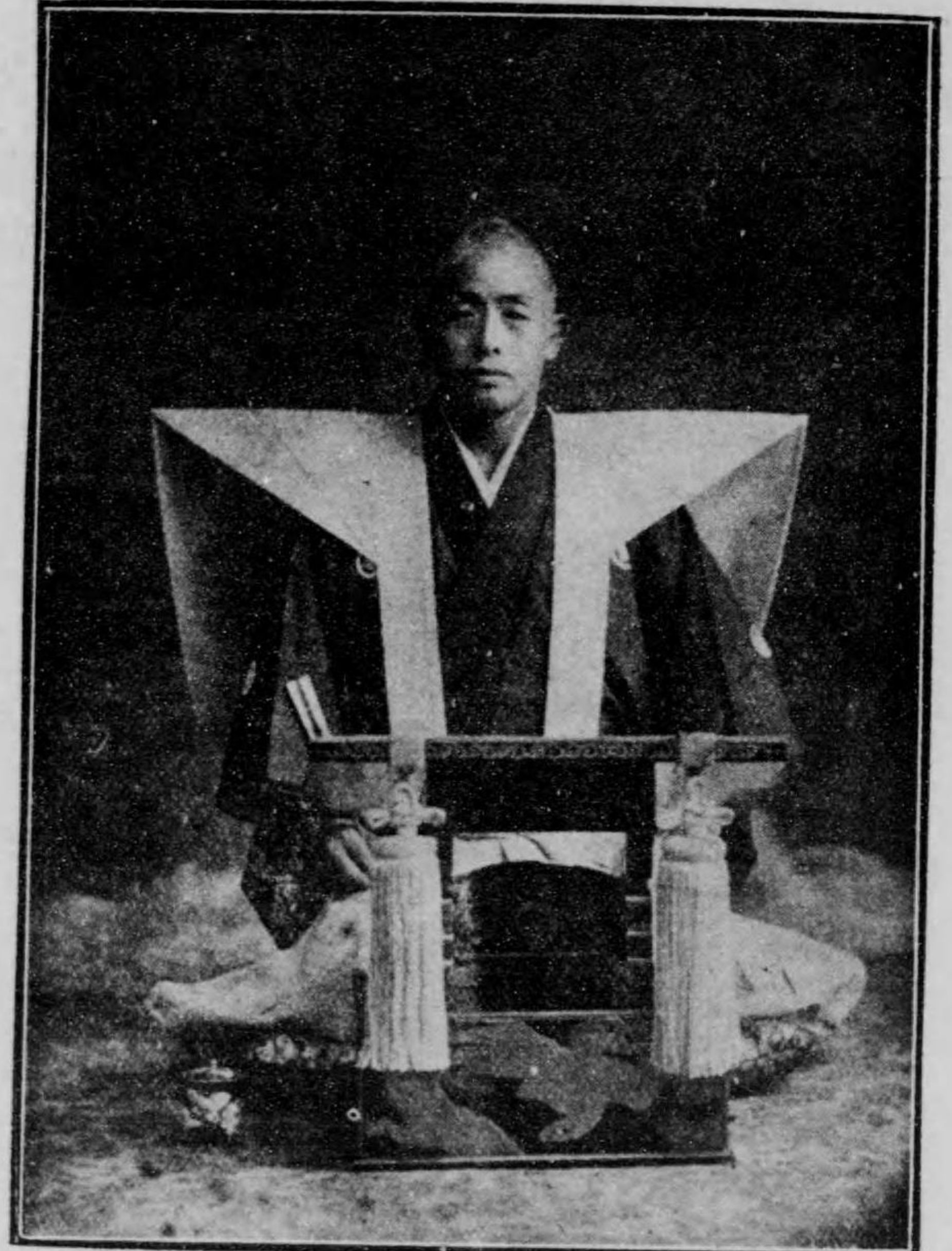


松 浦 回 館 智 越 郡 宮 浦 港 店

村上旅館主の畧歴

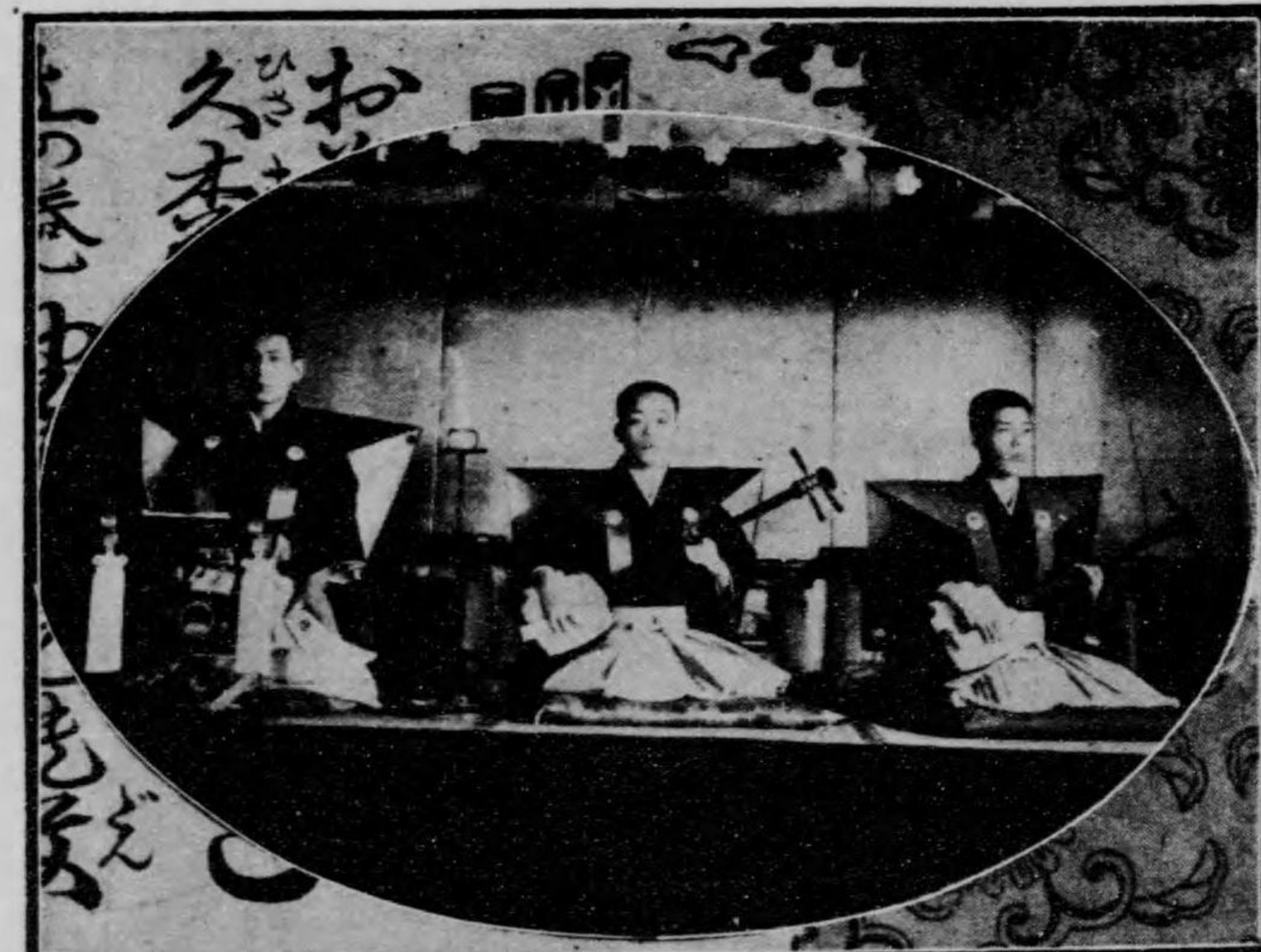
氏は越前守の道十味よに織今にミ篤す年住く潮明以りの轟に氏  
 全角越む専の道十味よに織今にミ篤す年住く潮明以りの轟に氏  
 ふを智今心大界三をり舉さ治能し實全現し流の治來一末しては越  
 し現郡や藝隅の年抱非ける町くて温氏在て失厄十農族係たる先智  
 てわ斯竹局太偉十き常らと旅責諸厚はの旅すに七氏大なる祖郡  
 盛す道本に夫人月熱にる全箱務衆の最所箱全逢年ひ六月下大島の其昔村字  
 なるの豫り聲稱都な太氏其合ふ亦し儀に開治に五日世泊城主英字  
 り。益泰夫にら上し界は取並す尊て正業始片原屋の榮ひ落の吉所出  
 其と拜を其願れりがに幼締に四敬將し益す全町財懸ひ室風もび  
 天し命を一する時の時位約一町志總擴廿に室風もび  
 職て命を一する時の時位約一町志總擴廿に室風もび  
 な頭す極意彼斯四趣代置組年事家て張五

夫 太 豫 隅 本 竹



今治の義太界の明星

鶴澤三郎 豐澤吉平 秋山肇子



豐澤仙三郎

檜垣峯雪

資本金壹百萬圓  
積立金貳拾六萬圓



株式會社

今治商業銀行

電話長二三番  
全二式五番

支店所在地  
波止濱支店  
西條支店  
菊間支店  
櫻井支店  
壬生川支店  
新居濱支店

支店所在地  
越智郡波止濱町  
新居郡西條町  
越智郡菊間町  
越智郡櫻井町  
周桑郡壬生川町  
新居郡新居町

内科  
産科

小児科

婦人科

楠岡醫院

(米屋町一丁目)  
(電話 七九番)

高穀米

日植松駒三郎

伊豫今治港中濱町四丁目

電話 〇七(又ハ)ウ  
振替口座 〇二八七  
電話 二二九番



四國酒類會金領各會會  
 品壹牌其博共優會  
 評券麥受他覽進等領



釀造元  
 越智郡菊間町  
 水田卯之助

請紙

西直治

舶來雜貨

電話百八十八番

今迄町常盤町

資本金七拾五萬圓

越智郡今治町

愛媛水力電氣株式會社

電話四〇番

新居郡西條町

愛媛水力電氣株式會社西條支社

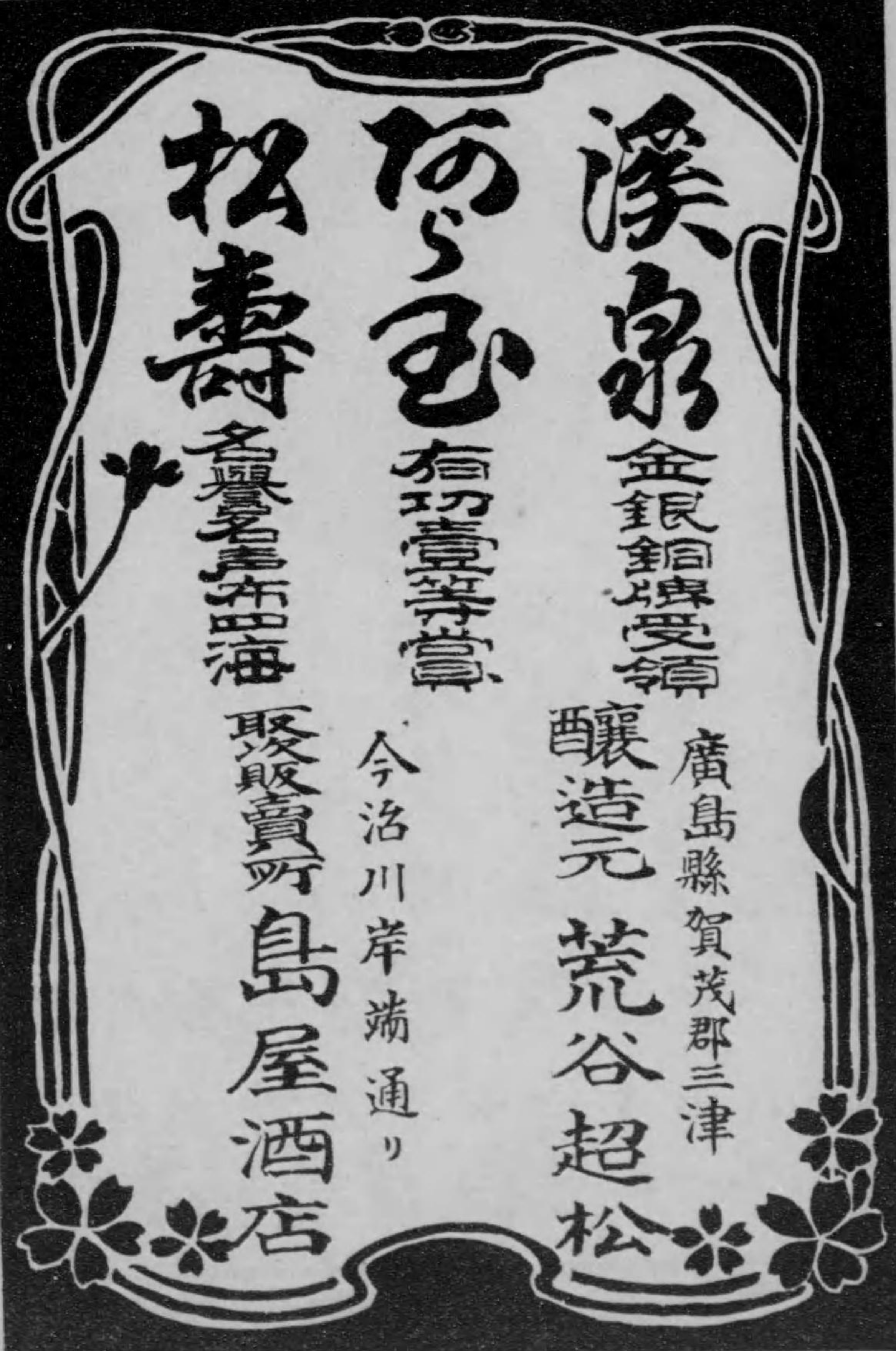
電話壹貳番



金錢家屋田  
畑周旋業並  
奉公人只入  
藝娼妓仲居  
酌婦紹以業

小 林 一 氏 本 所 今 後 傳

一 氏 林 小



溪泉金銀銅牌受領

廣島縣賀茂郡三津  
釀造元 荒谷超松

何之玉有巧賞等賞

今治川岸端通り

松壽名譽本庄海

聚販賣所 島屋酒店

京都府全國釀造品共進會壹等賞金牌受領  
 徳島縣主催國酒類聯合評議會壹等賞金牌受領  
 愛媛縣主催國酒類聯合評議會壹等賞金牌受領  
 第壹回東海聯合酒類評議會壹等賞金牌受領  
 越智郡酒造組合酒類評議會壹等賞金牌受領  
 大藏省釀造協會主催其他各地金銀賞牌受領

大正四年三月受賞

壹金本日  
 牌優本  
 等清等  
 領酒



釀造元 越智忠兵衛酒造部  
 愛媛縣今治町  
 電話四七番

八千代生命保險株式會社代理店



今治町

山岡寅造

(電話二一〇番)  
(原田十ノ上)

商標  
木  
及  
製  
材

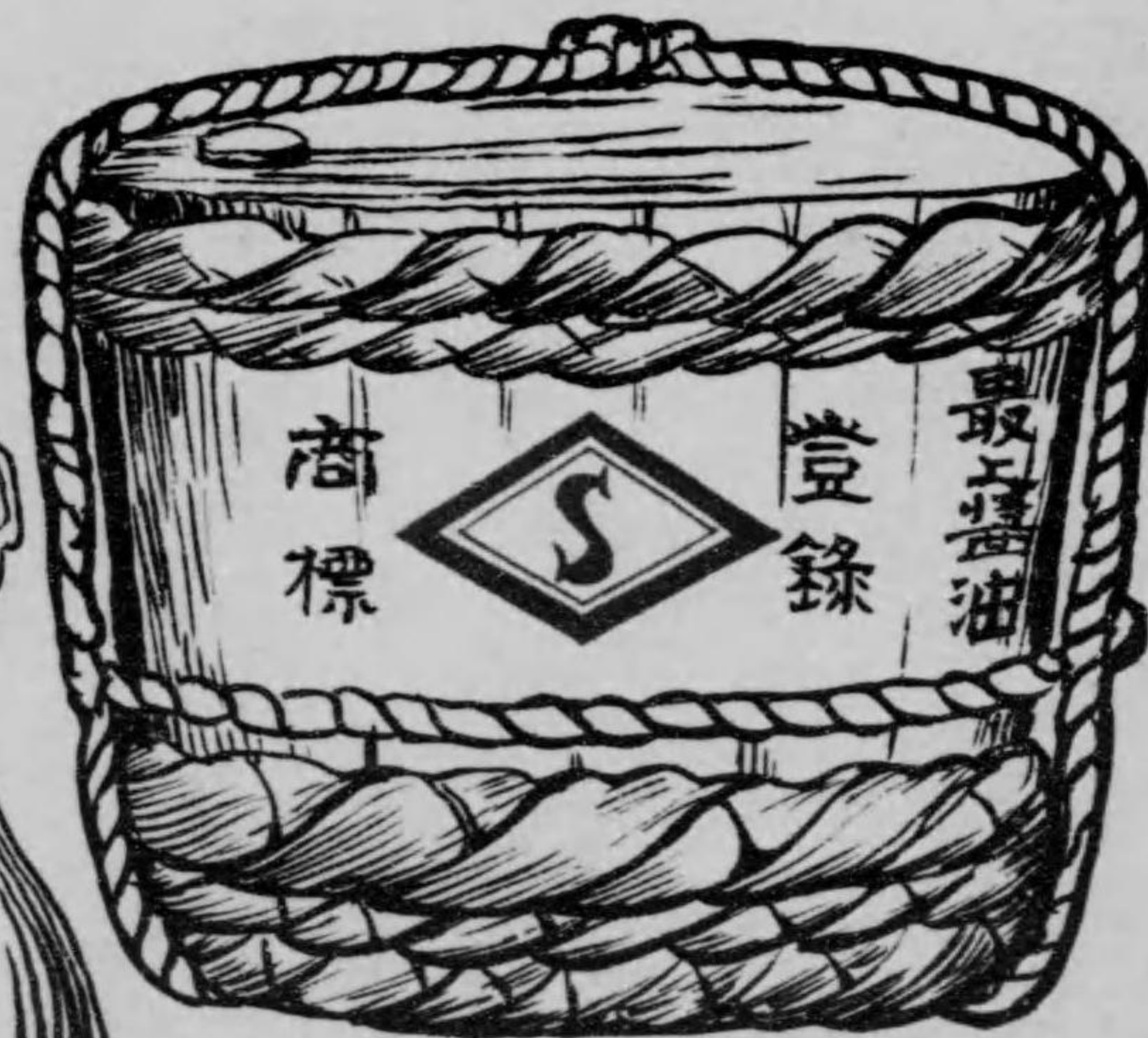
天



牌銀譽名賜會覽博外內

釀造元

讚岐小豆島 島醬油株式會社



販賣店  
島醬油株式會社

今治港片原町



株式會社

五十二銀行今治支店

電話

五二番

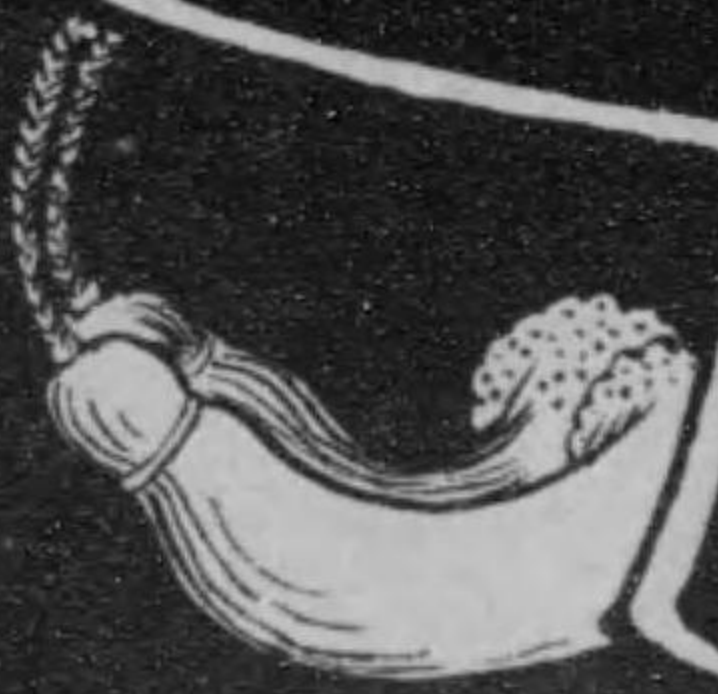
一三二番

電信略號(五二)

營業所

越智郡今治町

大字中濱町



石炭仲買  
官塩元賣  
以繩狐販賣

伊豫國越智郡津倉港  
尾越重三郎商店

今郡東伯方村大字木浦濱

尾越木浦支店

津倉港字扇濱

東豫丸  
福盛丸  
元扱  
尾越圓漕部

今治多度津行

尾道行

二回(午前六時  
午後六時)

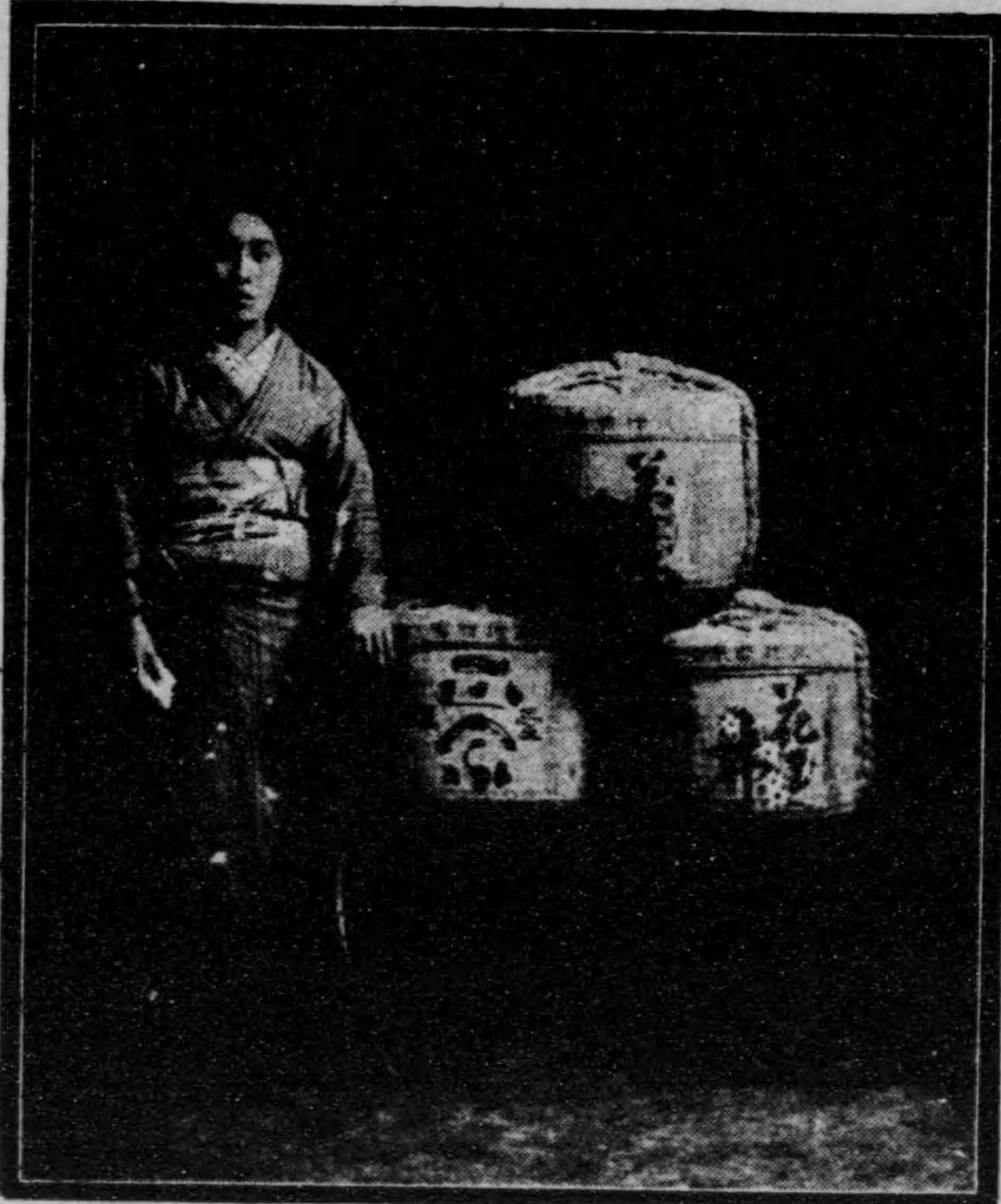
二回(午前六時  
午後三時)



於各博覽會及共進會品

領受金牌賞金會評

第一師團御用酒



今治特約店 惠比須町青井酒店  
新室屋町吉岡酒店

今治特約店 新室  
町町桑原酒店  
いりや酒店

釀造元 伊豫櫻井

油屋本家酒場

# ● 肺病助膜氣管病專門治療

越智郡櫻井村唐子山麓海岸

武田醫院  
呼吸器病專門

カラコハマカウヤ  
**唐子濱療養所**

▲診察午前限  
▲入院隨意  
所長トクトル **武田秀夫**

● 肺病豫防注射ヲ望ム方ハ午前中未院アレ  
● 療養所規定書入用ノ方ハ申込次第進呈ス  
● 今治港ヨリ東方陸路一里半

越智郡

菓子商 重延榮吉

菊間町字新町



大藏省醸造試験所  
 全國清酒品評會 優等賞金牌

京都市開催於全國  
 醸造品共進會 壹等賞金牌

京都市開催於全國  
 酒類共進會 名譽賞進歩牌

大阪市開催於第七回  
 日本産業博覽會 壹等賞金牌

中國聯合酒類品評會 壹等賞金牌

越智郡酒類品評會 壹等賞金牌

受 領 商標 登錄

清酒



釀造元 八木酒造部

電話貳七番



# 醇良日南酒

慶媛名産



釀造元  
 慶媛縣越智郡菊間町  
 猪野傳九郎

鼻咽喉科

氣管食道科

注 氣道并 食道、檢診ハ  
意 空腹時ニ来院セラルベシ

内診察時間 (毎日午前八時ヨリ  
午後六時マデ)

愛媛縣今治町大字通町

入院愼意 鈴木醫醫院

各店ニ告ク

米穀其他何 四坂島

品々も(アラユル) 松山支店

モノ買入居ハ 今治町

利口ものおれば 御相談可也

直に相應引 松山本店

取可申候

猪口付瓶  
新米時許才二六二八号



鏡付茶色壺分註



味淋焼酎 大阪 吉岡合資會社 釀品  
サメノ 兵庫 有馬鑛泉會社 製品  
醇良清酒 金露印  
專屬販賣代理店

# アラキ酒店

販賣所 今治米屋町三丁目  
釀造元 攝津灘魚崎



製綿ウエス  
製綿原糸  
高乃井不糸製造

藤高商店

伊豫合資會社

履板百四於二番  
原景(ノト)



文具紙類

并學校用品

赤根高店

伊豫今治町  
今治病院前

綿練製造業



住吉綿布工場

営業主 住吉澤太郎

伊豫今治町

電話一三九番

電器(○サ又(サ)

萬粉製造

卸小賣

麵類并ニ

酒類販賣

今治室屋町壹丁目角

ト桑原友吉

うごんや風一夜藥

特約代理店

あわびや餅

並二蒸物調進

今法本町四丁目  
あわびや子  
近藤正五郎

商類面

業粉製

方叶善太郎

叶浦商店

伊豫今治室屋町四丁目角



大日本優等清酒

登錄商標



特約店 於多福酒店

店主村上安太郎

今治町風早町  
電話貳貳八番

商標



登錄

醬油販賣

日本店油特約

生酢釀造元

伊豫今治本町

福永商店

電話貳五〇番

葛岡町二丁目

會垣呉服店

通稱井口屋



函館 氷卸町 氷室

天然 年中切れぬ

但し御病入用は他店より安値販賣

日本郵船會社 今沼新町二丁目角

生真御用達 町徳事 秋山徳造

井三魚問屋

長電話百拾六番



# 一名 郡案内富の今治

## 序 説

夫れ若し九州の地形を猿猴の立つて舞ふに似たりとすれば四國は即ち蝙蝠の飛翻せるに似て居る、地圖を披いて此の奇妙な蝙蝠に與かる人は蝙蝠の左の翼が長く伸んで有名な佐田の岬となつて居るのを見て更に一段の興味を覺ゆるであらむ此の蝙蝠の左の翼こそ即ち伊豫の國である其伊豫の國の中央を稍々東北によつて大隅の鼻を東南に折れて彼の有名な伊豫鳴門島瀬戸の轟々たる浪の音を僅か一里の西に聞く所が伊豫の大都會と云ふべき今治港である四國山脈が西より東に連亘して土豫の境をなし脈の中央、石鐵山から更に一支脈が北に延びて其餘波瀬戸内海に走つて多數の島嶼となり以て瀬戸内海をして世界の海上公園とまで稱へしむる美觀を添へた其の無數の島嶼を腹に拘へた處が今治で有る又建武の昔南朝の忠臣脇屋義助が勅を

治 今 の 富

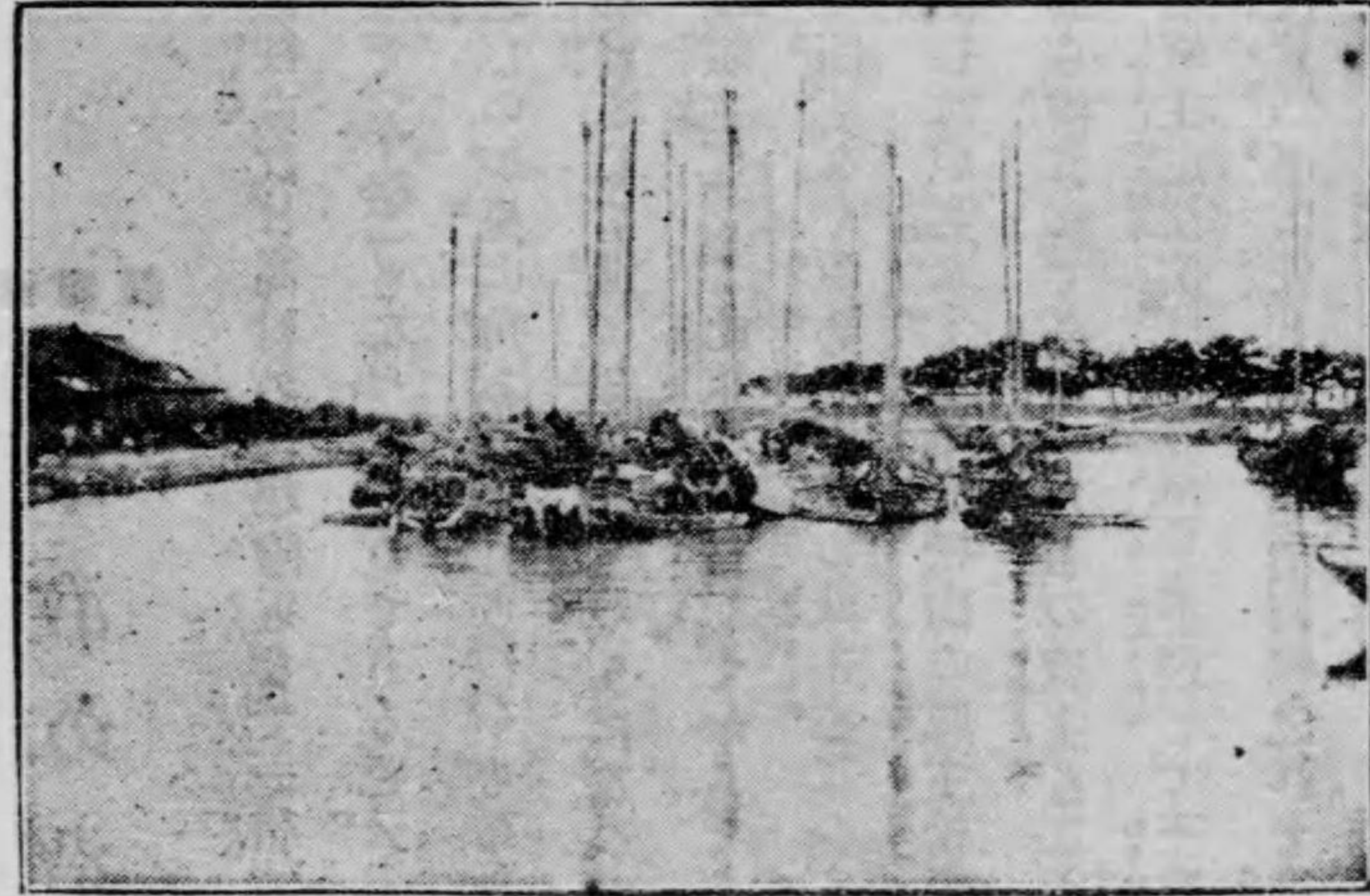
奉じて南海に下り土居得能等と義を謀るべく舟師を上陸せしめたところの(今張)は即ち此處である今治は伊豫の大阪と稱せらるる工業地である、工業の隆んな商業の進んで居ることに及んでは愛媛縣の第一である縣の中央都市として、縣行政の中心地として縣廳の所在地として愛媛縣の首府として戸數一万人人口四万を算する松山市といへども商工業の殷賑なことに於ては恐らく今治の右に出づる事は出来まい又本縣物産中の重要物産たる綿織物の總産額に對し今治は實に其三分の一を産出して居るので彼の日本に於ける大阪が日本隨一の商工業地として覇を稱せる如く、今治は又愛媛縣に於ける商工業の中心地たらんとして日進月歩發展し行きつゝある、否四國の事情と現在の有様とは、將來愛媛縣商工業界の中心地として大いに發展すべし運命を持つてゐる。今進で此の今治に就て歴史上から商工業上から交通上から或は風景と縦横に解説を試みるに際し此に先だつて暫時く瀬戸内海の航路が如何に興味ある航路なるかを述べてみよう。假に大阪の川口か或は又神戸港から船に乗て今治に向ふとす、まづ第一に横ぎるのは播磨灘だ、萬波漾々として回顧の光景既

に平凡でない、高松を過ぎ多度津を出づる頃から所謂瀬戸内海の特徴は次第々々に其の面目を現はしてくる、夏の朝、静かな緑色の波の上に幾十幾百の帆掛船が純白の帆を張つて列をなす様は水彩畫に見る地中海の光景そのまゝである、秋の夕暮、煙波蒼茫たる間に數限りもなき小島が船の進むに連れて前に現はれ後ろに消へ行く様は宛然是れ一幅の水彩畫である、かように美しい繪よりも美しい海上波の極めて穩かな海上を渡つて船は今治に着くのである、更に又宇品港を出た船は、先づ吳軍港に山の如き軍艦の威風堂々たる壯觀を眺め次で『船頭可愛いや音戸の瀬戸で一丈五尺の櫓がしはる』と謠に名高い音戸の急瀬を乗り切つて碧玉を延べたような海へ出る、風暖かに空晴れて幾百の漁船は彼方此方に點在して居るやがて伊豫地近くると伊豫の小富士が夢の如く目の前に浮び来る船は程なく今治に着く  
 其他宇和島方面からの航路も九州方面よりの航路も海上の美觀は言説の及ばぬ程で何れの航路を取るにしても瀬戸内海の航海は一度之れを試みたものは長く忘れ得ない興味ある航海である

◎伊豫の大都市今治の案内記を叙するに當り先づ順序として伊豫の國全体の歴史を極めて大略に語つて置かう古史によると、伊弉諾、伊弉册の二尊が始めて淡路島を作り給ふた後に次で作られたのが四國である其の當時はこれを伊豫二名島と稱し我伊豫の國は愛比賣と呼ばれて居た其後桓武天皇の皇子、伊豫親王が西南藩屏將軍として此の國に來られし一事は伊豫の歴史に大なる關係をもつて居る、さて親王の子孫は以來國中の各所に割據して種々の豪族となつた中でも河野氏の一族は最も勢力があつた、かの弘安の役に殊功を立てた河野通有も其一族である後河野氏が豊臣氏に亡はされた後は一時福島正則の所領となつてゐたが徳川時代になつて各所を五藩に分ちて大名を分置することとなつた、其後各藩に分家が出來て西條、小松、今治、松山、大洲、新谷、吉山、宇和島の八藩に分れ、遂に王政維新となつたのである

### 今治の沿革

◎往古は日高村の馬越附近まで一帯の入海であつたのを築きあげて田畑としたとやらで(今墾)となつたのであると云ふ其の往昔のあとは莫として的確に記述材料に乏しいが兎に角あまり町らしくもなき一漁村であつたのである其れが今治と云ふ一都會として世に知らるゝやうになつたのは確か慶長七年藤堂和泉守高虎が二十万石の領主として此地に築城してからである高虎は大洲から移つて今治城を創造してから間もなく伊勢阿濃津の城主となつて所謂榮轉したその後を藤高宮内が廿幾年間支配したが寛永十二年に松山の城主松平定行公の弟松平美作守定房侯が伊勢の長島から移されて今治三万石の城主となり代々世襲して明治維新に及んだ明治二年、時の城主定法侯は藩城邑を奉還して王政に復古するに至り政府は今治縣を置いて定法侯を知事に任じたが明治四年之れを廢して今治縣となり更に倉敷、松山、小松、西條の四縣と合して松山縣に屬したが其後伊豫一國を合して愛媛縣に變り明治廿三年町



今 治 港 川 口

村制の實施と共に町制を布いて今治町となつたのである今治は僅々三万石の城下に過ぎぬけれども地勢が東豫四郡の關門に當て、海陸連鎖の要衝を占めてゐるのと、近年綿織物業が益々勃興發展して逐日繁況に向ひつゝあるそのため年々戸數が増し人口が増へ地域は日に月に擴張せられて隣接村の日吉村の字倉敷、別宮は事實上の今治市街となつたのみか將に人家は蒼社川まで續かんとするの勢である

◎現戸數 三千六百〇七戸人口一万六千七百六十二人を算す之れに倉敷、別宮を

加ふる時は戸數に於て一千餘人口に於て約五千を増加す、今や遠からず市制を布くに至るの有様で現今の町長は阿部芳太郎氏である

### 今治海路の交通

(今 治 發 着 汽 船 航 路)

◎大阪若津線 大阪から今治を経て關門に出で玄海灘を乗り切つて筑後の若津に至る線で三日目毎に上下一回の寄港地は、神戸、多度津、今治、三津濱、關門、博多、唐津、呼子、伊万里、平戸、佐世保、長崎、嶋原、三角、若津の諸港である

◎大阪鹿兒島線 若津と同じく九州の西を廻つて鹿兒島に行く寄港地は神戸、多度津、今治、三津濱、關門、博多、佐世保、長崎、三角の各港で大凡四日毎に上下各一回の寄港がある

◎今治多度津線 毎日一雙は午前十一時に今治を出帆して午後八時に多度津に着き

一雙は午前五時半に多度津を出帆午後二時に今治へ着く

◎島廻今治尾道線 各諸島方の浦々に着けて尾道に達する線午前五時に今治を出帆し津倉、宮窪、木の浦、岩城、弓削、土庄、田熊、重井を経て同九時半に尾道へ着き午後二時半尾道出帆同六時半に今治へ歸船する又午前六時に尾道を出帆して重井、田熊、土庄、弓削、岩城、古江、伊方、甘崎、余所國、宮の窪、津倉を経て同十一時に今治へ着き午後二時半今治を出帆して尾道へ同七時半に着港する

◎大阪宿毛線 大阪、神戸より土佐の宿毛に至る航路で上り下り共毎日一回づゝ今治に寄港する高松、多度津を経て夜半の三時に今治へ着き高濱、長濱、川ノ石、八幡濱、吉田、宇和島、深浦、宿毛に寄港して上りは四日目の午前十一時に今治へ着く

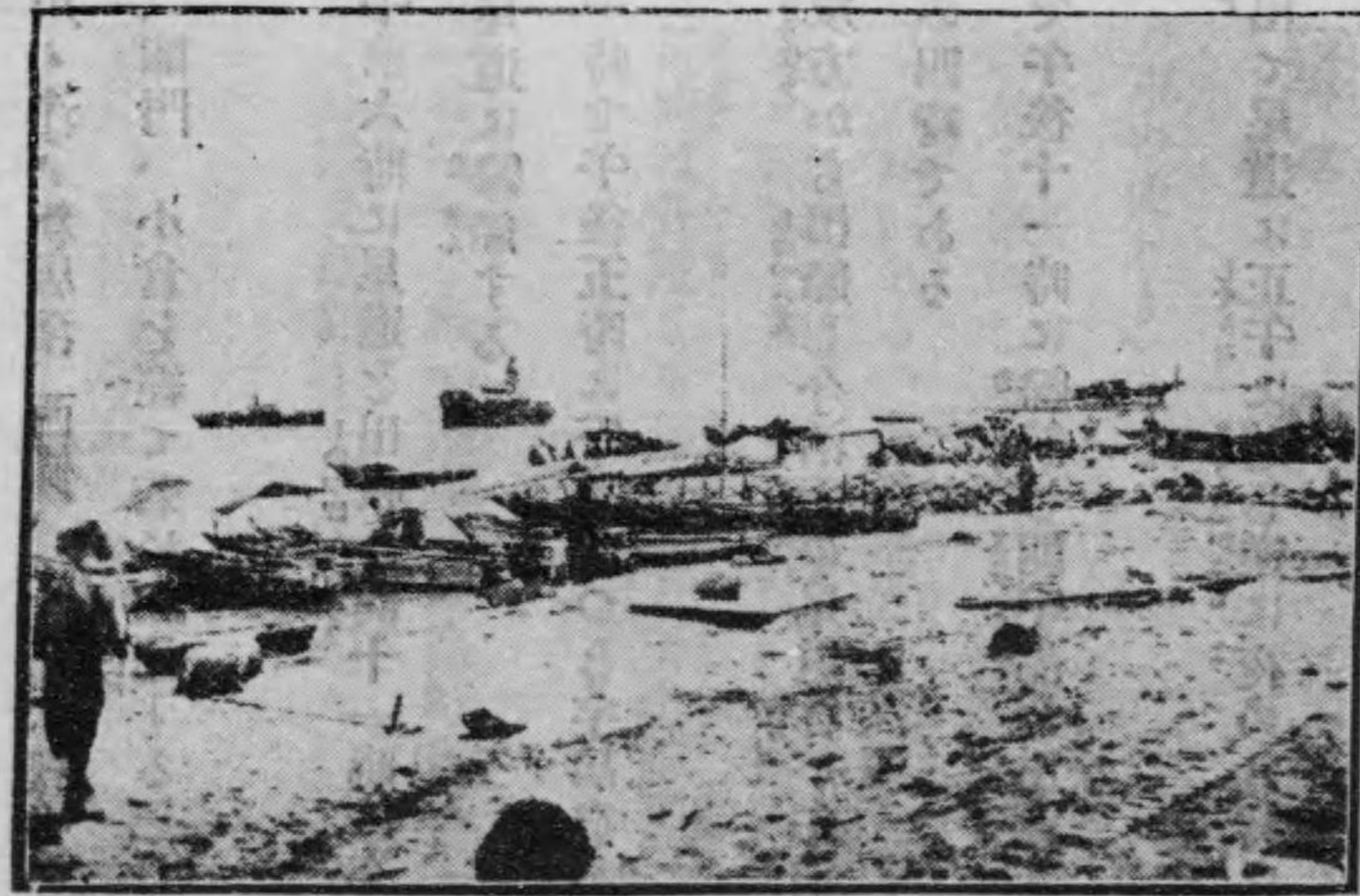
◎大阪内海線 大阪から日向の内海に至る線で、神戸、高松、多度津を経て午前十一時に今治へ着きそれから高濱、長濱、守江、日出、別府、大分、佐賀關、臼杵、津久見、佐伯、土々呂、細島を経て内海に至り復航は五日目の午後十一時に今治へ着く

く毎日上下各一回づゝある

◎大阪門司線 大阪門司間を偶日に航海する二日目の午前一時に今治へ着き高濱を経て門司へ直航し門司を其日の午後八時に出で今治へは三日目午前十一時に着く

◎大阪山陰線 大阪を午前十時に出帆して神戸、多度津を経て今治へ二日目の午前二時に着くそれより高濱、下關、仙崎、萩、江崎、濱出、温泉津、杵築、境、馬瀧、米子を経て安來へ四日目に着く復航は今治着が七日目の午前十一時である

◎大阪若松線 大阪より神戸、高松、多



今 治 海 岸

度津、観音寺、和田濱を経て東伊豫に入り川ノ江、新居濱、西條、壬生川、櫻井の各地へ寄港して今治へ着き三津濱、中津、宇島、關門、小倉を経て若松に達する三日目毎に一回づゝ上下の寄港がある

◎今治、宮浦、尾道線 之れも毎日航海で午前六時に尾道を出帆し同十一時に今治へ着き午後二時半に今治を出て同七時半に尾道に歸船する

◎今治、波止濱、宇品線 今治發が午前十一時で午後五時に宇品へつき宇品發が午前六時半で今治着が午後一時である

◎新居濱、尾道線 住友汽船の航路で毎日双方から出船し今治着の尾道行が午前八時と午後二時新居濱行が午前の十時と午後の四時である

◎今治、宮浦、宇品線 今治發は朝の八時で午後十一時に歸航し朝宇品を出たものは午後二時に今治へ着して直ちに復航する

◎今治、波止濱、尾道線 午前五時今治を出て尾道に正午に着し逆に夜の八時に今治へ歸着する

### 今治陸路の交通

(定期馬車及び人力車の便あり)

◎元來伊豫と云ふ國は昔小藩が割據して各々防備を嚴にした結果交通機關の第一たる道路の如きも完全を厭ふて殊更に開修を怠つた傾がある、今治地方も矢張り其例に漏なかつたが文明の進歩と共に日一日と交通の頻繁を加へるに従ひ一般に道路の必要を感じ順次其の改修を行ふに至つたので近時は各地とも坦々たる大道が開けて馬車や人力車の自由に通ふようになつた

◎松山街道 今治から日吉、万万、大井、菊間の各町村を経て温泉郡北條町に入り海岸に沿つて柳原、堀江を通り松山市木屋町に至る縣道で此間十一里九丁坦々たる大道で人力車も馬車も毎日通ふてゐる

◎西條街道 今治から一直線に蒼社川に達す立花、富田、櫻井の各村を経て蛇越の坂を越へて周桑郡に入り楠河、三好、國安等を過ぎて壬生川町に出て更に東へ進ん



で西條町に至り国道第卅一號線即ち讚岐街道に合する縣道で里程が八里十一町ある  
此街道は壬生川町で南に折れ壬生川街道となつて丹原に達し終點で矢張り国道第卅  
一號線に接続してゐる土佐に行くに便利な線である

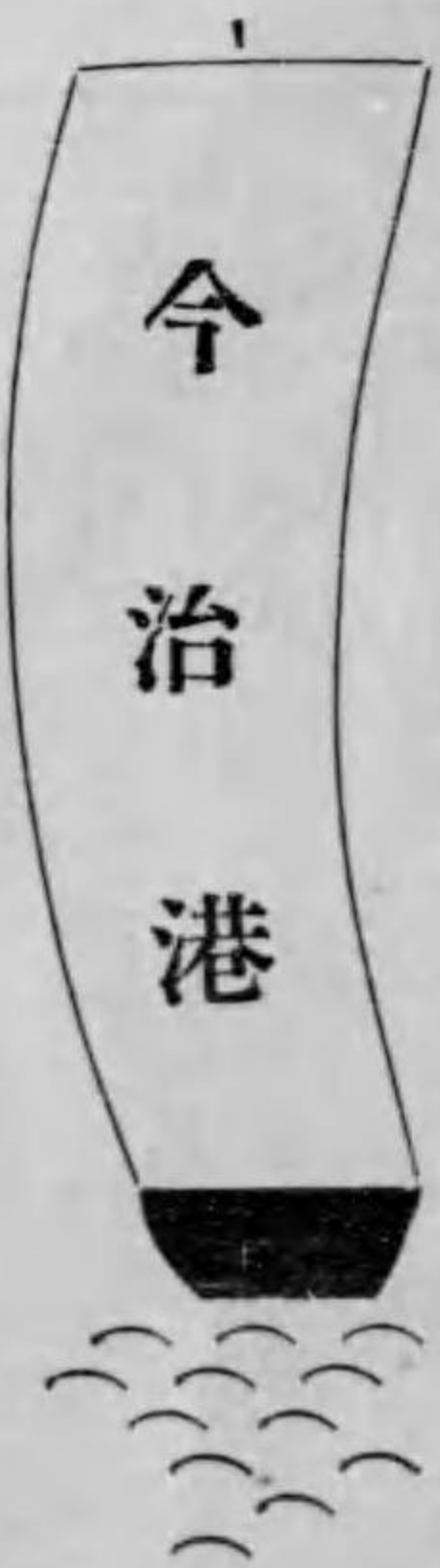
◎龍岡街道 常盤町から日吉、日高、九和、龍岡の各村を経て温泉郡に入り松山街  
道に接するものである、嘗て縣道豫定線に指定せられたが後關係町村の經營に移  
された、全村までは既に完く改修が出来た

◎波止濱街道 北新町から近見村を経て波止濱町に通ずる一里廿二丁の縣道で馬車  
が往復してゐる

今治町より各地に至る里程

波止濱	一里半	菊間	六里	櫻井	二里
壬生川	七里	小松	九里	西條	十一里十丁
新居濱	十四里二十丁	入野	十七里廿一丁	三島	二十里廿一丁
川ノ江	二十二里	和田	廿三里	觀音寺	二十四里半
北條	八里三十丁	堀江	十里三十丁	松山	十一里十七丁

郡中	十四里廿七丁	長濱	廿三里卅一丁	大洲	廿五里廿六丁
八幡濱	廿九里	宇和島	卅六里廿二丁	内子	廿二里十二丁
中山	十八里廿三丁	久万	十九里	多度津	三十一里



東に懸洋の激浪を受けてゐるが爲東風の吹き荒れると狂瀾怒濤岸に當つて、時として  
は全く船を寄せ得る事の出来ない事も有る、内港と云ふべき新地港は天保山の砂丘  
によつて數間の築港を爲し風波を遮るも港内が狭いので且つ水底が浅い爲主に和船  
の出入に應じ汽船は暴風の際のみ入港してゐる、汽船は何れも海岸より約二百間内  
外の所に碇泊する現狀である但し北に大島の礎淡く自然に一大浪除をなし西は來  
島海峡を迂つて深く灣入して居るので東風さへ吹かねば恰も鏡の海を見るように極  
めて穩かに波靜かである唯東の一方が濶と開けていることが最大欠點で地方人士は  
此欠點を補ふべく目下築港の計畫中である

かく港内としては不完全なる當港も尙は東豫に於ける海陸連絡の要衝に當り、東豫物貨の集散地なる自然の勢と、一面工業地にして且つ集散消費地たる關係よりして年々出入する貨客の數は頗る多く現に瀬戸内海沿岸の港灣中主要の位置を占めて居る故に早晚鐵道が



近三ヶ年間の統計による船舶の出入數は左の如し

汽船

帆船

和船

大正元年	一三、五九六隻	一、〇三〇隻	五三、三五四隻
大正三年	一八、二三四隻	一、八四二隻	一四、四五〇隻

備考 和船は五拾石積以上を計算す

即ち僅々三ヶ年間に汽船四千六百三十八隻帆船に於ては八百十二隻を増加して居る和船に於ては大正三年末調は五十石積以下を計算せざりし爲め數の上に右の相違あれども事實の上に於ては非常の増加を來して居る次に此等の噸數及び石數の増加は

大正元年	一、七一五、二九八噸	四一、二〇〇噸	二、五六七、七〇〇石
大正三年	四、四二〇、四四八噸	七、〇三七〇噸	一、五八七、一三〇石

實に汽船の多夥に於ては二百七十万五千五百五十噸の大増加を算す此れによつて觀るも如何に今治が日夜活動しつゝあるかをして察せらるなりされば日々の出入する汽船は斯の如くなれば瀬戸内海は固より九州、大坂、山陰の各地に亘り海上の運送交通は實に頗る便利である

今 治 町

(各町の會社商店の案内を記す)

町並は割合に道幅が狭いが、區劃は誠に宜く制頓して如何にも基盤の上に立つて目標を一直線に傳ひ得るやうに見るから歩くからに實に氣持がよく出來て居る町である東西九町、南北十八町に亘り町數は東から數へて通町、一番町、二番町、三番町、四番町、柳町、金星町、常盤町、住榮町、榮町、室屋町、米屋町、河岸端、本町、新町、風早町、中濱町、片原町、新地、寺町、北新町、漁師町及び今治村の二十餘に達し、昔廓内といつた、吐樋川以東、今の郡役所通り附近までは士族屋敷を建てられたもので、純然の商家は殆んど全部に集り、今も古の如く商業の中心地となつて居る、又近年多大の發展を來たした、今治の工業は多く近接地たる日吉村に發展し、今治工業界の粹は多く、勢ひこゝに集つて居る

◎片原町 今治港の關門に當る町で大坂より來るも九州より來るも中國より來る者

も其他何れの方面より來る者も第一に必ず此の町を通じて市内の各所に入るのである其れで汽船會社では東豫運輸會社、大坂商船會社、住友汽船扱所等があつて汽船の乗降する客が絶へず雜踏して居る、回漕店では、吉忠回漕店、昌榮舍等あり、客の便宜を計つて居る、其他村上酒及び酒具販賣店等あり

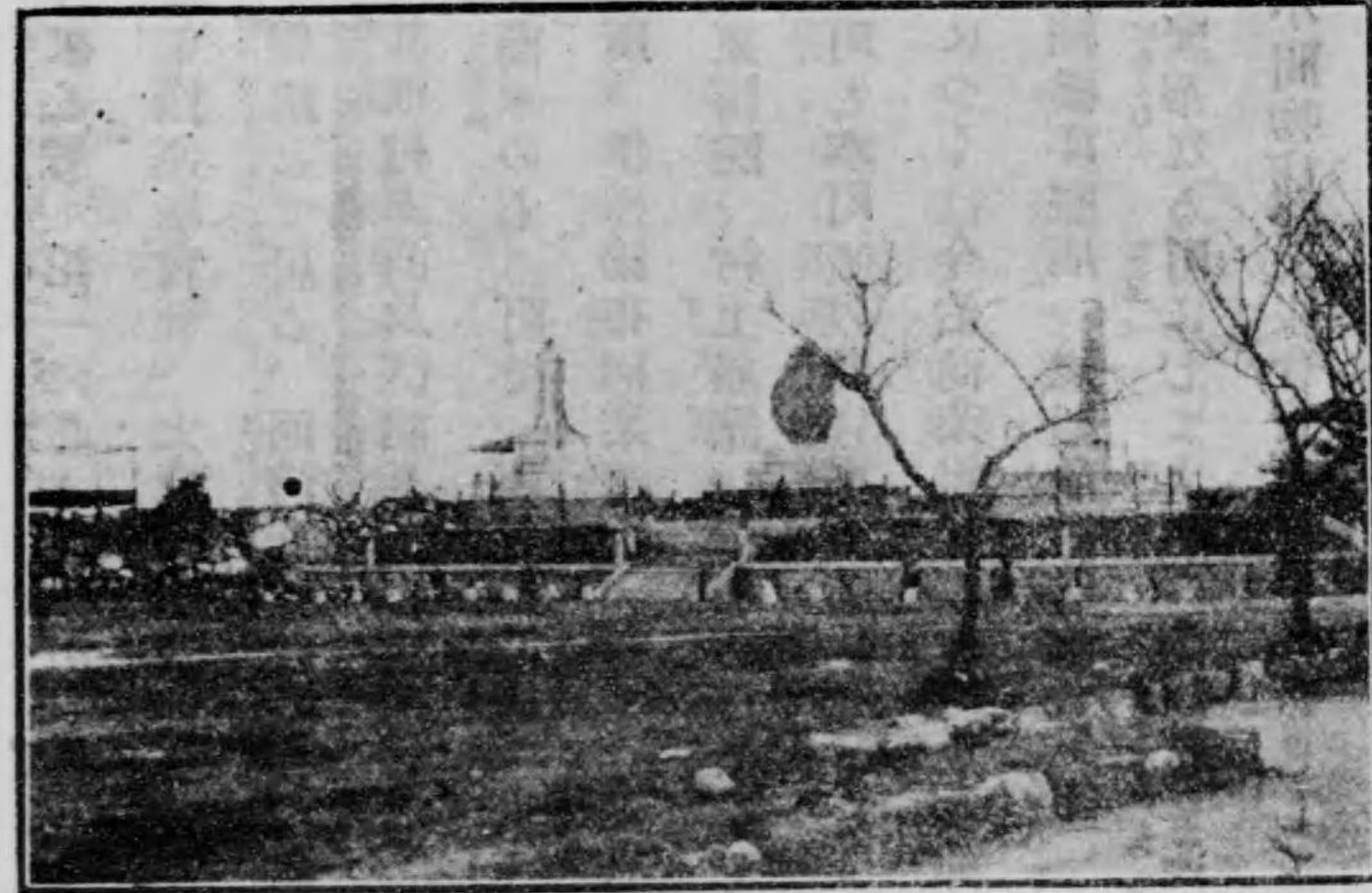
◎中濱町 此の町は大商家のある町で一丁目から四丁目まである、五十二銀行今治支店、今治商工會事務所、伊豫綿布同業組合、村上、白石材木店、旅館組合事務所(村上旅館内に有り)河東醫院、村上旅館、華山料理店等である

◎風早町 此町は中濱町と本町との間にある町にして一丁目より四丁目まであり此の町へ入り第一人の目につくは今治商業銀行の建物及び郵便局、八木酒造部、今治洋蠟會社、羽藤藥店、楠橋洋服店、旭屋旅館等がある

◎本町 は市中第一の繁華なる町にして大小の商店軒を連ね主なる商店では三原や木原、西川、大坂屋、小間物店、吳服合資會社を始めとして日吉や、高橋、まる一北へ四丁目迄突き抜けて居る、今治俱樂部、東豫藥品合資會社、八木染糸合資會社、實

業團體、組合事務所等を始め阿部書林、吉田時計店、近本書林、武田商店がある夜は美しい電燈瓦斯の下に多数の人の往來織るが如く商況最も活潑である

◎北新町 波止濱街道の入口にて本町に續いてある附近に丸今綿布株式會社、越智酒場、今治製材所



等がある

◎新町 商業の活氣あること本町にも劣らない程で本町の角からズット海濱へ直角をなした町である兩側には規則正しい軒燈が掲げられて夜の景が殊によく魚問屋、くすし屋が多い穀物株式會社、魚市場、青物市場、旅館順成舎、延忠、今治

屋、鰯屋、秋山魚問屋、越智精米所、品部肉屋、山田精米所、杉山砂糖店等ありて繁昌を極めて居る

◎常盤町 龍岡街道と西條街道とが柳町辻で交叉し海岸へ向つて室屋町の辻まで延びたものがこの町でそれから下の方東町辻までを河岸端といふてゐる、賑やかなことは本町新町などには決して劣らない其れのみか各近村落より町に來る要路になつてゐるから日進月歩益々繁昌に趣き將來今治の中心町を以て目されてゐる、越智郡購買組合事務所及び近くには縣立今治高等女學校、畜産株式會社、四村糸店、矢熊書林、西本や文具店、鴨川菓子店、秦下駄店、石丸酒造所、島屋酒店、羽倉活版所、山田肥料店、喜多川藥店、勉強堂、菓子店、津國自轉車屋、赤根商店、一色自轉車店等皆知名の商店のみである

◎舊廓内 通町一二三四番町の全体を總稱したので郡役所を始め郡農會、縣土木出張所、越智郡米券倉庫事務所、區裁判所、稅務署、稅監視署、第二尋常高等小學校等は皆此處にある又通町には株式會社興業舎、鈴木醫院、村上寫真館等がある

◎米屋町 此の町の一二丁目の間殆んど旗亭ばかりが軒を並べ藝妓置屋もあれば檢番もある三味の音がさへて歡樂の夢が漂ふてゐる町の入口には先づ楠岡醫院の洋館あり廣田寫眞館、松本鐵工場等あり

◎室屋町 米屋町の上通りにあつて四丁目まである豫讃日報社を始め祐源酒店、桑原うどんや等あり因に全店はうどんや薬を以て名あり

◎寺町 片原町四丁目の海邊から起つて縦に日吉村の別宮に至り松山街道に接續してゐる寺町の名の如く法華、西連、大仙、圓淨、圓光、隆慶、大雄、來迎の八ヶ寺がある附近には今治瓦斯株式會社、タンク機業合資會社、矢野綿練工場、高橋綿練工場等がある

◎役場通 常盤町と縣道松山街道とて間まれた裏通りで近年まで田圃續きの處であつたが町の發展と共に人家が増加し町役場を始め警察署、愛媛水力電氣株式會社及び第一尋常高等小學校、私立今治幼稚園、伊豫製布合資會社、富本合名會社等がある矢野長樂園も此の町にあり四季の植木草花はたへず咲きそろうてゐる

◎柳町 常盤町を突當つて東に曲り縣道を西條街道に沿ふてゐる、此の町は東南を通過する唯一の主要道路である常に人馬の往來はげしく、伊豫綿練同業組合事務所、福島紡績今治支店、模範染色工場、宇佐美酒場、八木工場等がある

◎藏敷 日吉村の分



であるが事實上は別宮と共に今治に屬してゐる通町の裏手吹揚城跡道には阿部株式會社、私立今治技藝女學校等あり松之本通りには松宮合名會社、西條街道に沿ふては縣立中學校、今治織物會社があり其上には伊豫織布會社、愛媛水力電氣火力發電所、大元紡績株式會社などの大建物があ

## 今治町の設備

(旅館及び料理店其他を案内してみよう)

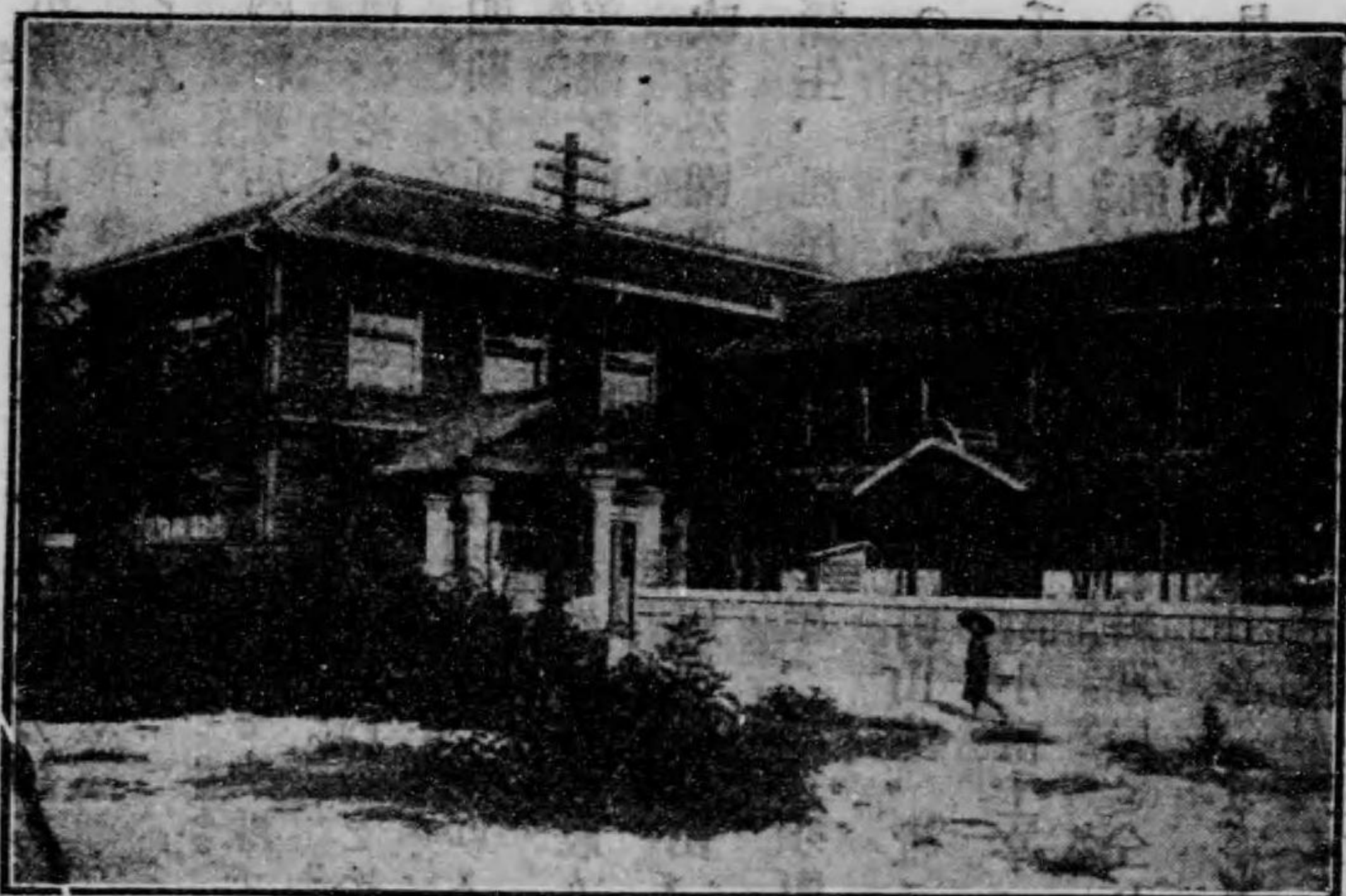
◎旅館 市内で宿屋を營む者は現在約六十軒餘あつて旅人宿と下宿屋との二種に分れて居る、宿泊料は大抵一泊五六拾錢から貳圓位迄である、今當市で重なる旅館は片原町では吉忠旅館、楠岡旅館、角熊旅館等此の町にあり、中濱町では村上旅館、華山旅館、風早町では旭屋旅館等で新町では順成舎、今治屋、鱒屋旅館等で此等の各旅館は港近くなれば乗船する旅客も汽船より上陸して先づ宿を求むる旅客に最も特別の便宜あり又當市の商人宿向きは總て萬事が簡易であるから長滞在する旅客には誠に便利なり因に宿屋一覽を掲ぐれば

先づ新地のあぶら屋旅館、中濱の酔月旅館、小池旅館、片原町西條屋、全町せにや旅館、中濱の伊豫屋及び松のや、片原町の井戸屋、新町すぎやま、竹本旅館等は凡て海岸近くなれば乗船客には最も便宜である、川岸端のふくみ屋、常盤町の小林旅館、東屋、中路旅館、四番町の渡邊旅館、寺町の一の谷などは殊に龍岡、西條等總て東

の方面より來る客や、又松山方面より陸路を來る人も行く人も滞在に最も都合よからん

◎料理店 關東地方の魚は凡て大味で風味に乏しいが關西の魚は味が繊細で風味が豊かだ、殊に波の靜かな瀬戸内海を控へ其れに魚島漁場を目の前に控へた今治には四期を通じて味の美なる鮮魚の絶ゆることがない、是等の鮮魚を肴に吹揚天保山の美觀を前に淺酌微吟するも旅客に取りては猶一般の興趣であらう、中にも重なるは吹揚公園内の美壽加園、風早町華山、玉屋、片原町の松屋、米屋町玉川樓、住元町彌生、旭屋、延忠、今治屋、惠比須町の惠美乃屋等は最も丁寧である、其他金星町の花屋、小澤、玉壽、米屋町山安、まろこ、柳下亭、浪和樓、君の屋、助月、圖久亭、千代の屋、金子亭、室屋町小富士亭、新屋敷の金龜、菊亭等である

◎藝妓置屋 此等殆んど料理屋と全じ様なものである、重なる置屋では柳原席、春月、まろこ、竹内席、朝日亭、まきうら、渡邊、山出、山地席等であれば紅裙の十二三各抱へて酔客の御機嫌を取つて居る



◎劇場 辰ノ口には活動寫眞の常設館があつて堪へず新物を輸入して観客の毎度大入を拍してゐる、今治座は室屋町にあり四期新舊劇あり、其他一二の娛樂席がある

◎水力電気 今治町の工業者及び商家其の他に對しては多大の關係を持つてゐる水力電気株式會社である、當町のみならず西條方面の電燈も悉く此の電氣會社の供給する電力に依るのである、發電所は蒼社川の上流永谷にあつて水力を利用して電氣を起して居る、此の電力は市内の電燈ばかりでなく更に機械力の原動力

となつてゐる、殊に織布精米事業は之が爲め日々に頗る盛大となり年々輸出する精米織布は非常の多額に上つてゐる

◎瓦斯 當町の有力者たる深見氏が發起となつて全瓦斯株式會社を設立し以來需用者多く町内至る所鐵管を布設して一般燈火及炊爨用に供給して居る

### 今治町の統計

#### 戸口職業別表

(大正三年末調)

種別	人口	戸數	農業	商業	工業	水産	其他
員數	一六、七七〇	三、八〇二	八五	九八三	七三〇	四二七	一、五七七

#### 納税額及人員表

(大正三年度圓位)

種別	地租	國稅營業稅	所得稅	縣稅(戸數割)	町稅(戸數割)
金額	七、〇二七	二四、六八一	一〇、三九二	六、六八九	二二、九二二
人員	一、五九六	六〇四	三九六	三、七九	三、七九

銀行報告	
種別	資本金
今治商業銀行	1,000,000
五十二銀行支店	248,000
	積立金
	2,671,880
	諸預金
	561,031
	貸附金
	2,074,819
	1,095,705

(大正三年末調)

利息割合表

種別	最高	最低
貸金利息(年利)	壹割	九步
日割日歩(百圓に付)	貳錢九厘	貳錢五厘

電燈數及び需用戸數

(大正三年末調)

種別	五燭	十燭	十六燭	廿五燭	卅二燭	五十燭	六百燭	千燭	需用戸數
點燈數	1,957	1,577	1,392	80	34	20	2	1	2,770
一月料金	35	50	70	85	100	130	800	1000	

備考右は今治町及日吉村の分のみなり

(大正三年末調)

瓦斯供給及需用戸數

製造高	送出高	ランプ	七輪	需用數	料金
六、八八九、七〇〇	立方呎	六、八八八、七〇〇	一、四一九	五六一	八〇四
定額	大七五錢	中六五錢	小四五錢	百立方ニ付二四錢	

(大正三年末調)

工場及び職工數

種別	綿子ル	綿布	紡績	鐵工	タヲル	精材	精米計
工場數	一七	四	二	五	四	四	六四二
職男	三〇七	三五	七二	八八	三	三	三、二一五
職女	二、八一三	三六七	二二二	八二	三	三	五五二

(大正三年末調)

工場動力

種別	綿子ル	綿布	紡績	鐵工	精米	製材	其他
蒸氣動力	八二〇	一九〇	一五〇	五〇	三五		一、二四五
電氣動力	三〇六	二五	五〇	八	五三	五	一三、五
瓦斯發動	五〇						四六〇、五
石油發動							六



## ■ 今治町の産業 ■

### ■ 重要輸出入 ■

○需要物産は綿子ル、タオル、米、麥、漆器、綿糸等である、産業の種類は十五種許りで其生産大正三年末調べで總額は實に輸出に於て六百九万四千六百六拾參圓に達す輸入に於ても五百參拾壹万貳千八百五拾五圓を算す、而して此等の産物は縣外は勿論の事遠くは海外にまで輸出せられるのである、殊に本年は露國方面より數万反の綿子ルの注文さへあり、是が爲め各工場は晝夜兼行製綿に勉めてゐる、實に今治の繁昌や推して知るべし左に重要物産の輸出入を掲げやう

#### 今治重要物産

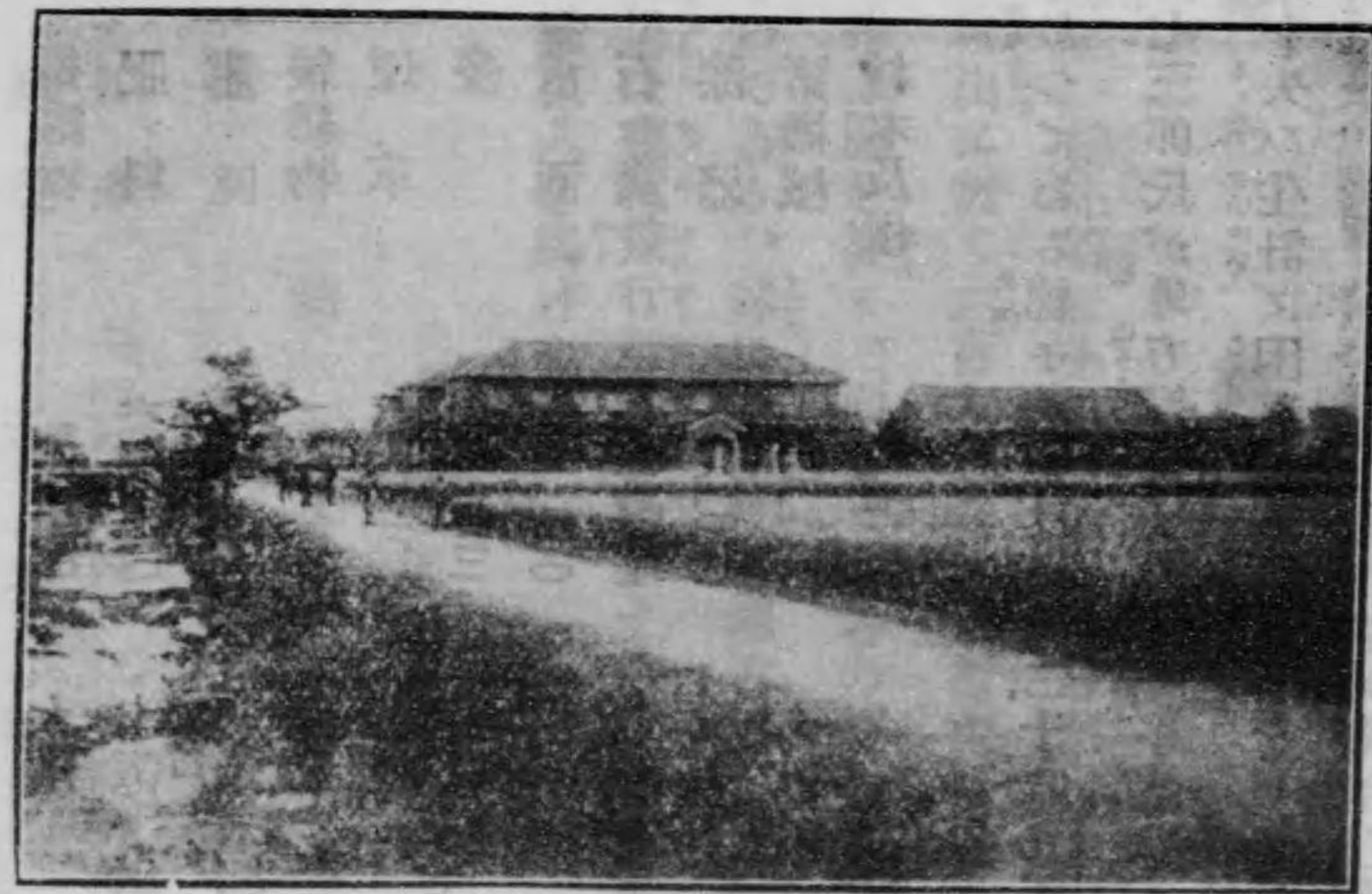
大正三年末調

輸 出		輸 入	
種 別	金 額	種 別	金 額
綿子ル	三三三、七〇〇	綿糸	二、四九、二〇四
白木綿	一〇一九、四九九	綿花	五九五、八八六
			神戸
			大阪、松山
			岡山、九州
			大阪、臺灣
			大阪、山陰
			九州、縣内
			大阪、縣内
			縣内
			南九州、縣内
			南九州、縣内
			九州、中國
			縣内、縣内
			廣島、縣内
			九州

米	七六、三四	絹織物	三九一、〇〇	大阪
綿糸	六五二、八八三	肥料	六〇四、七〇〇	大阪、神戸
麥	一六六、五三七	米	一三八、六九〇	神戸
生魚	六六、七五〇	雜織物	一三一、八〇〇	東豫三郡
タヲル	八、四四一	煙草	一五四、二〇〇	松山
肥料	一一六、二九一	麥	一〇三、八三二	東豫及ビ
絹織物	一一三、一五〇	清酒	一七五、二〇〇	島方
雜織物	一一三、六三一	石炭	三三三、一九七	廣嶋縣
漆器	一一三、五〇〇	漆器	八八、〇〇〇	若松、元山
木材	九三、八四〇	諸機械	一〇〇、〇〇〇	大阪
清酒	一〇三、二四七	材木及板	一八、七六〇	九州、縣内

○綿子ル 本縣の機業界に卓然たる異彩を放つてゐる綿子ル業は僅に二十八九年前の創立で、明治十七八年の頃今治町の矢野七三郎氏が地方婦女子の隨一事業たる綿替木綿の一朝金巾輸入のため壓倒されて業を失ひ生計に困難せる者多きを見て之れを救済すべく自ら紀州に赴き綿子ルの製織法を研究し全地より五十台の機台と職工

とを携へて歸國し十九年二月今治町に工場を設けて開業したるが、伊豫子ルの濫觴である氏は業半にして病死したるも柳瀬氏其の遺業を繼いで研究改良に勉めたれば、伊豫子ルの聲價は漸く現はれ特に伊豫の白子ルと云へば純白無比を以て其名市場に喧傳せらるゝに至つた、其他縞子ル等も原糸の精撰と織立の吟味と呷幅の改良に努めたれば好評を博して販路は次第に擴張し日本國は固より三十三年以後は遠く海外南清方面に輸出の途開け其れより漸次開發し滿韓地方より露領亞細亞に及び更に四十一年よりシンガポ



伊 豫 今 治 中 學 校

ル南洋方面にも販路を開拓するに至つた、さて海外輸出向きとして愛用せらるゝは尺六幅の白縞、色縞、藍棒、無地物と大幅白綾片毛及兩毛ものである

◎白木綿 天保年間今治の柳瀬義達氏が地方産業の萎々として振はざるを憤し綿替法によつて白木綿製造の業を始め資を細民に投じて奨励したるに基くものにして爾後漸次に發達して明治十年頃より綿替法を廢して総糸交換となつて更に分業の傾向に進みて一ヶ年四十万反の生産を見たが、十五年頃紡績の輸入と金巾木綿の舶來とは今治の木綿に大打撃を與へし爲め衰退の非運に向ひたれば茲に伊豫白綿株式會社を起し原料の操作を全部會社にて行ひ農家の婦女子には單に織上げのみをなさしめ以て品質の統一を計り改良の實を擧げ益々製品の精品に努めたれば市場に於て聲價は日々高まり産額も大に増進し營業者も續出し白木綿業は著しく進み販路も又日に擴大になつて來た

夕晴れて煙縷に

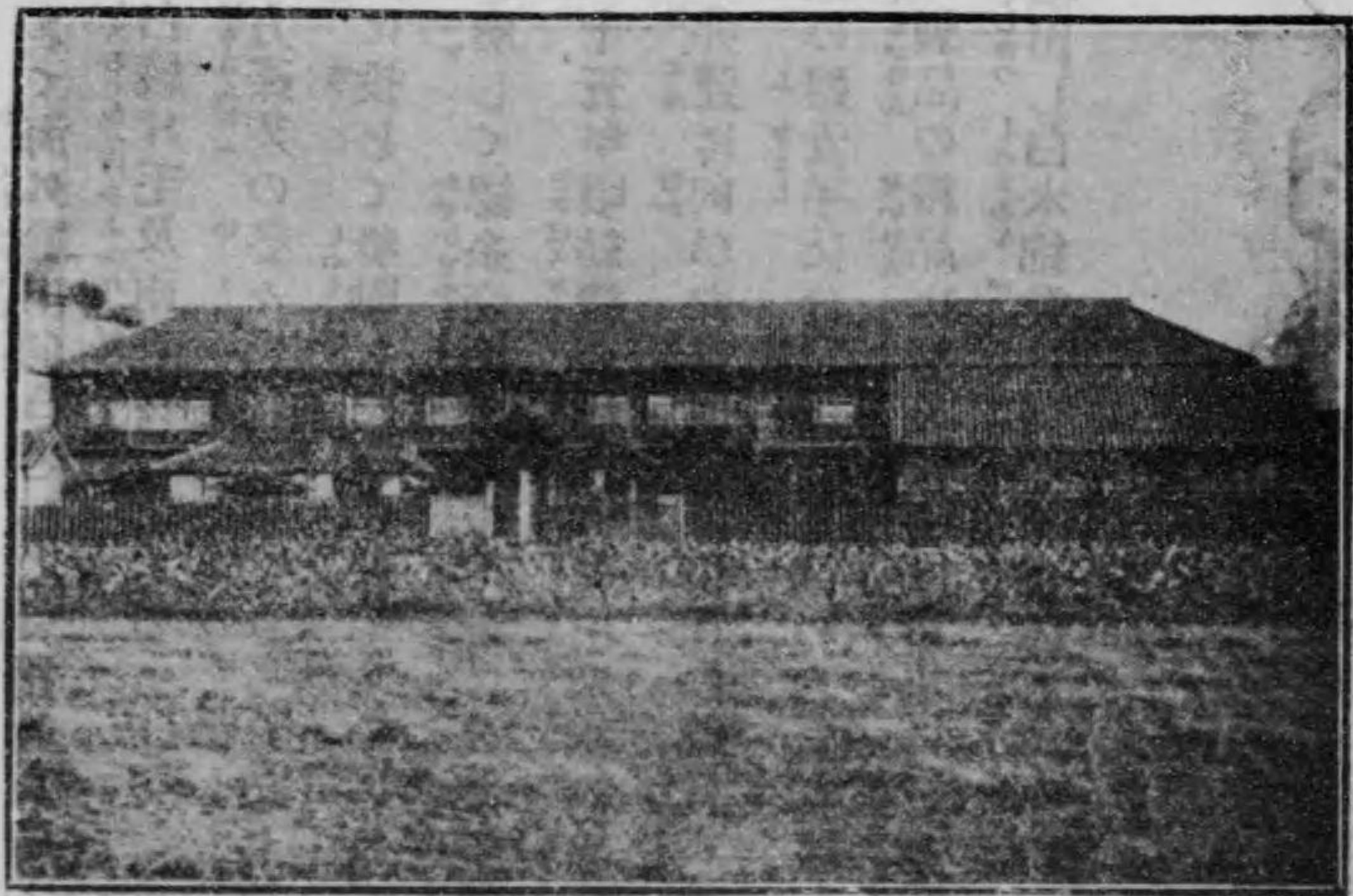
高し秋の雲

村雨



### 今治の魚市場

◎明治四十三年四月廿五日資本金五萬五千圓の株式で開業せられた以來瀬戸内海は勿論の事諸方面よりの魚船皆毎日此地に集合して全市場に於て賣にかけるので賣行は實に年額多大な物にして隨而利益も亦た巨大である今や開業以來日なを淺きにもかゝはらず現在の積立金も既に二千四百餘圓の多額に達してゐる大正三年の賣上金額の如きは、實に八萬圓以上であつた



今 治 高 等 女 學 校

### 御買物及ひ注文案内

- ◎呉服商 では先づ本町一丁目の今治呉服合資會社を始め二丁目角の吉田呉服店、高橋呉服店及び御屋では伊勢やモスリン専門の店では本町二丁目の長野洋反物店等は何時でも澤山の珍柄が取揃へてある而して確實なる事は勿論客扱も早速で丁寧なり
- ◎舶來雜貨 本町の森谷及び川岸端の各支店等なり
- ◎舶來小間物化粧品 では本町二丁目日吉屋檜垣商店及び一丁目の大阪やは最も最新なる流行物等をもたへず輸入してある
- ◎學校品文具及び書籍 では本町の阿部書林近本及び常盤町の西本や等は文具書籍は遺憾なく萬書取揃へてある
- ◎履物 本町一丁目の矢野商店山田常盤町の泰商店などは斯道に最も熟練なる職工を置き製造販賣して居るから品質体裁も上等であるから安心して買れる

◎和洋酒 先づ本町の八木酒造部越智及び祐源米屋町の金露荒木酒店風早町のおたふく川岸端の島や等は卸小賣共確實極く大勉強御注文等は多少に拘らず最も迅速に配達してくれる因に金露荒木酒店には斬新形の進物用瓶入もある

◎酢 本町福永は今治の製造元であるから味ひも精良で有り升

◎油 室屋町の秀榮礦油合資會社は石油機械油から食油に至る迄で數十種の油有れば種々買入の方は全社一軒で萬油買入れらるゝの便あり

◎魚 新町の 徳秋山は鮮魚のたへまがない

◎醬油 本町四丁目の藤田藏敷の越智及び島醬油株式會社今治支店等は最も獨特精撰の良品を販賣して居るから卸小賣り共安心して買入るゝと全時に多數買入れらるゝの便も有り

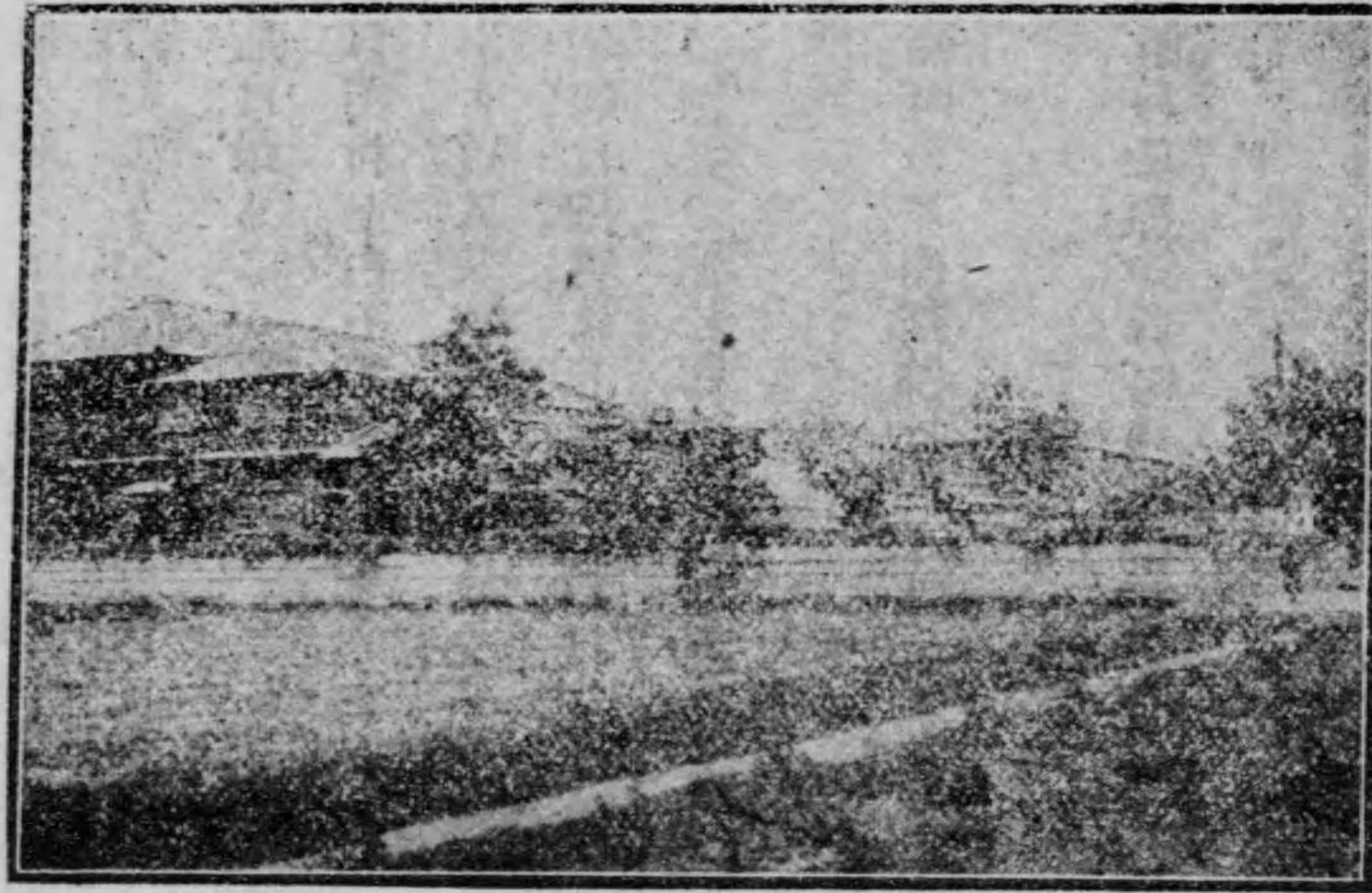
◎鶏卵さんじゆ 今治名物の鶏卵さんじゆは中濱町二丁目のともやは元祖なり

◎菓子 中濱の一笑堂中濱角の北岡川岸端の勉強堂鴨川等は和洋菓子其他カステラなど何れも多年の苦心と實驗とにより原料の精撰は勿論のこと製造法等に於ても

凡て現代式にかなつて居るから風味や体裁に至りては一點の否なし注文も最も迅速丁寧に應ずるよし

◎砂糖 新町の松山商店等は卸小賣共最も勉強なるよし

◎風邪一夜藥 室屋町一丁目桑原に有名な風邪藥あり、一夜に治る事また奇妙なり



◎藥 川岸端の中西は保存法宜敷故四季上藥あり

◎藥 本町三丁目横の吉松羽藤及び川端の喜多川等は有名な藥店なり

◎硝子及び額縁建具 中濱の山岡商店は何れ向きにも買入の便宜よし

◎麻裏 本町横の新居田店にして數十人

の斯道に最も熟達せる職人の手と原料に於ても伊豫特産の綿練を緒に用ひ製造せる故、堅牢にして体裁も優美なり全店の製品は縣内は勿論遠く海外迄輸出しつゝあり買入及御注文の方は全店は最もよからん

◎木材及び製材 山岡戸田村上白石等は最も多くの良材を取揃へてあるのと絶へず製材機を運轉してゐるから買入及び注文の方は全所等は最も確實なり

◎精米 新町の山田越智等は確實にしてつき料は安すく萬事簡便にして迅速なり

◎米雜穀 中濱の粕竹、粕谷、植松等は最も今治有名の穀物商店にして最も確實なれば賣買人共便宜なり

◎肉 新町の品部、北新町の窪肉店等は四季共に精鮮なる鳥肉、牛肉を最も勉強販賣す

◎麵類及び製粉 室屋町の桑原、同町の叶浦屋神尾の手打うどんなど此等は今治の名物とも云はれてゐる

◎製綿ウエスト及原料 室屋町藤高商店等にして全店は新式の綿機械をすへ附け絶

へず製綿してゐるから良品の割合に値段は格安大勉強である

◎洋服 楠橋金星町山下などは四季共に嶄新なる新形を輸入して最も熟練せる職工を使ひ調製してゐるから注文も萬事迅速優美に出来る

◎寫真 米屋町廣田通り町村上等は最も新式の寫真器を用ひ且つ映寫技術に長じてゐる故随分出來上りも速かにして体裁も誠に優美なり

◎漆器 では本町の木原商店等は最も確實な品あり

◎時計及び指輪、眼鏡 本町の吉田商店、矢野元吉商店、木安等は最も多くの良品を販賣す修繕等も速かにして獨特の特長あり

◎自轉車 柳町小林、川岸端の津國、一色、本町菊川等は車臺材料等は最も新式良品を用ひて居る修繕も誠に迅速なり

◎植木 役場通りの矢野長樂園は四季等のみの草花植木幾數種あり

◎傘 野村八木本店がよからん

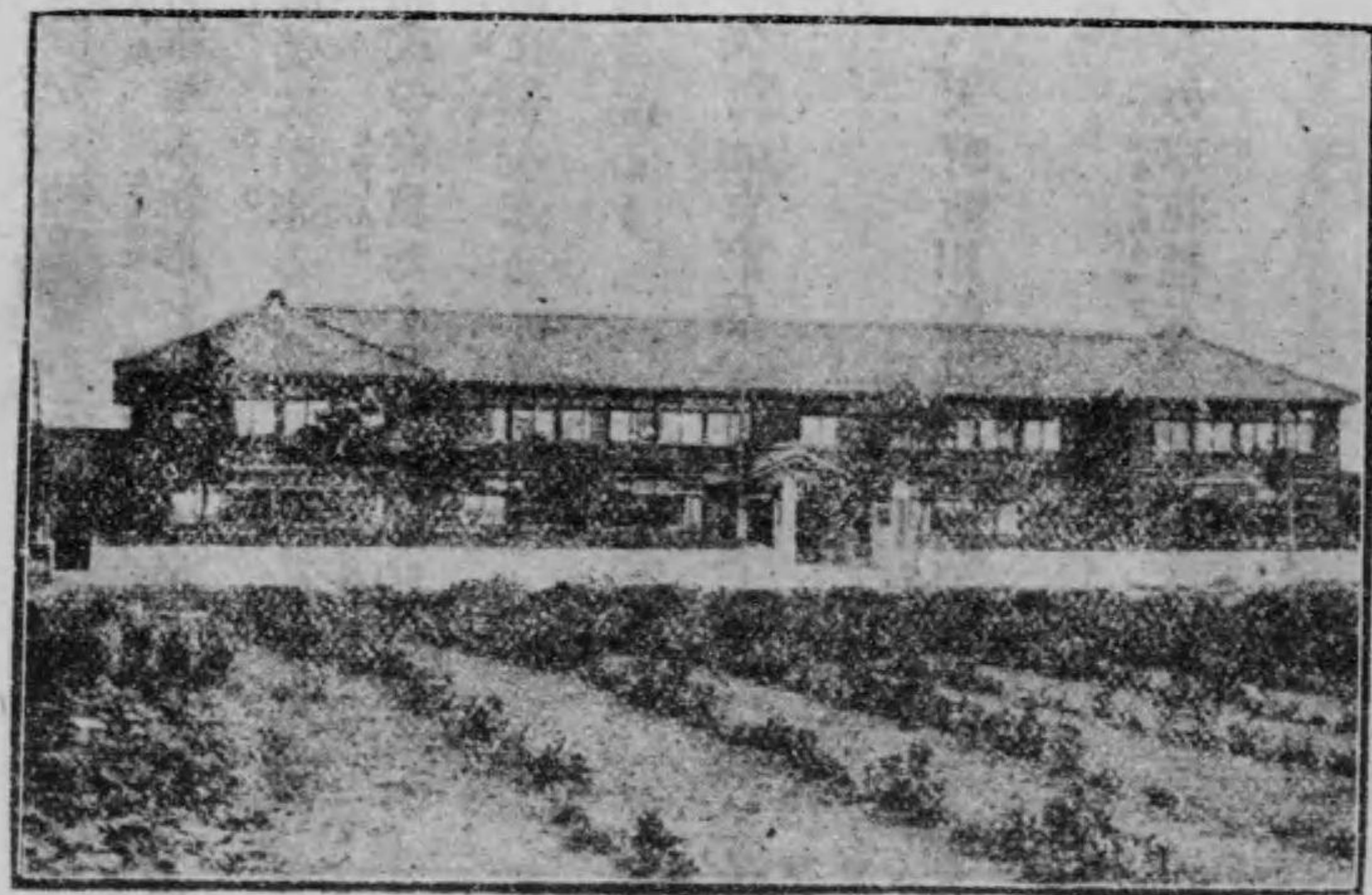
◎諸車及び藤椅子 本町の神尾、常盤町の阿部商店などは最も確實に製造販賣す

◎牛乳及豆乳 今治畜産會社等は精良なる無菌牛乳配達す、城中奥田の豆乳も滋養最も多し

◎水 中濱一丁目吉村は四季たへず蘇永の設備あり

◎洋蠟 風早町の今治洋蠟合資會社卸小賣共確實にて品質上物揃ひの割合に値段は最も勉強

◎諸樂器系類 米屋町一丁目横の河近樂器店にして全店諸販賣の諸樂器は堅牢体裁のみならず音調と云ふ事には最も氣を入れ尙ほはりかへ、さをなをし等も誠に迅速である、因に同店には其他橋流の筑前琵琶の研究會もある入會は隨意なり



今 治 第 二 尋 常 高 等 小 學 校

○ 今 治 土 産

今治へ來た旅客が、歸りに國への土産とすべきものは先づ左の如きものである何れも伊豫土産として誇るに足るべきものである

◎綿子一ル、タオル (今治産業の内に添へてある)

◎高市籠 最も優美なる竹細工にして帽子巻、煙草入重箱等、其他種々な細工物あり

◎雞卵饅頭 風味最もよく且つ當町ともや製は數日を圍ひ置くと風味決して一變せざるは元祖の特長で、隨て腐敗の憂いもなく箱入とし貳拾錢より壹圓位であり土産物として体裁もよい

◎濠がき 吹揚城趾の濠に繁殖す味ひ最もよし

### 今治町會社及組合一覽

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 愛媛水力電氣株式會社 | 愛媛綿布株式會社   | 株式會社興業會    |
| 株式會社今治青物市場 | 株式會社今治商業銀行 | 阿部株式會社     |
| 丸今綿布株式會社   | 今治畜産株式會社   | 東豫運輸株式會社   |
| 大元紡績株式會社   | 愛媛勸業株式會社   | 今治瓦斯株式會社   |
| 伊豫織布合資會社   | 株式會社今治魚市場  | 今治織物株式會社   |
| 株式會社今治俱樂部  | 今治製布合資會社   | 今治穀物株式會社   |
| 今治機業合名會社   | 合名會社今治製材所  | 松宮合名會社     |
| 今治洋蠟合名會社   | 富本合資會社     | 秀榮礦油株式會社   |
| 東豫藥品合資會社   | 今治吳服合資會社   | 矢野合名會社     |
| 福島紡績會社支店   | 五十二銀行支店    | 燧洋米油合資會社支店 |
| 共益貯金會社支店   | 肥薩貯金會社出張所  | 愛國貯金銀行代理店  |
| 戊申貯藏銀行代理店  | 共榮貯金銀行代理店  |            |

#### 一、組合細別表

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 伊豫綿練同業組合 | 重要物産同業組合 | 越智郡酒造組合 |
| 伊豫綿布同業組合 |          |         |

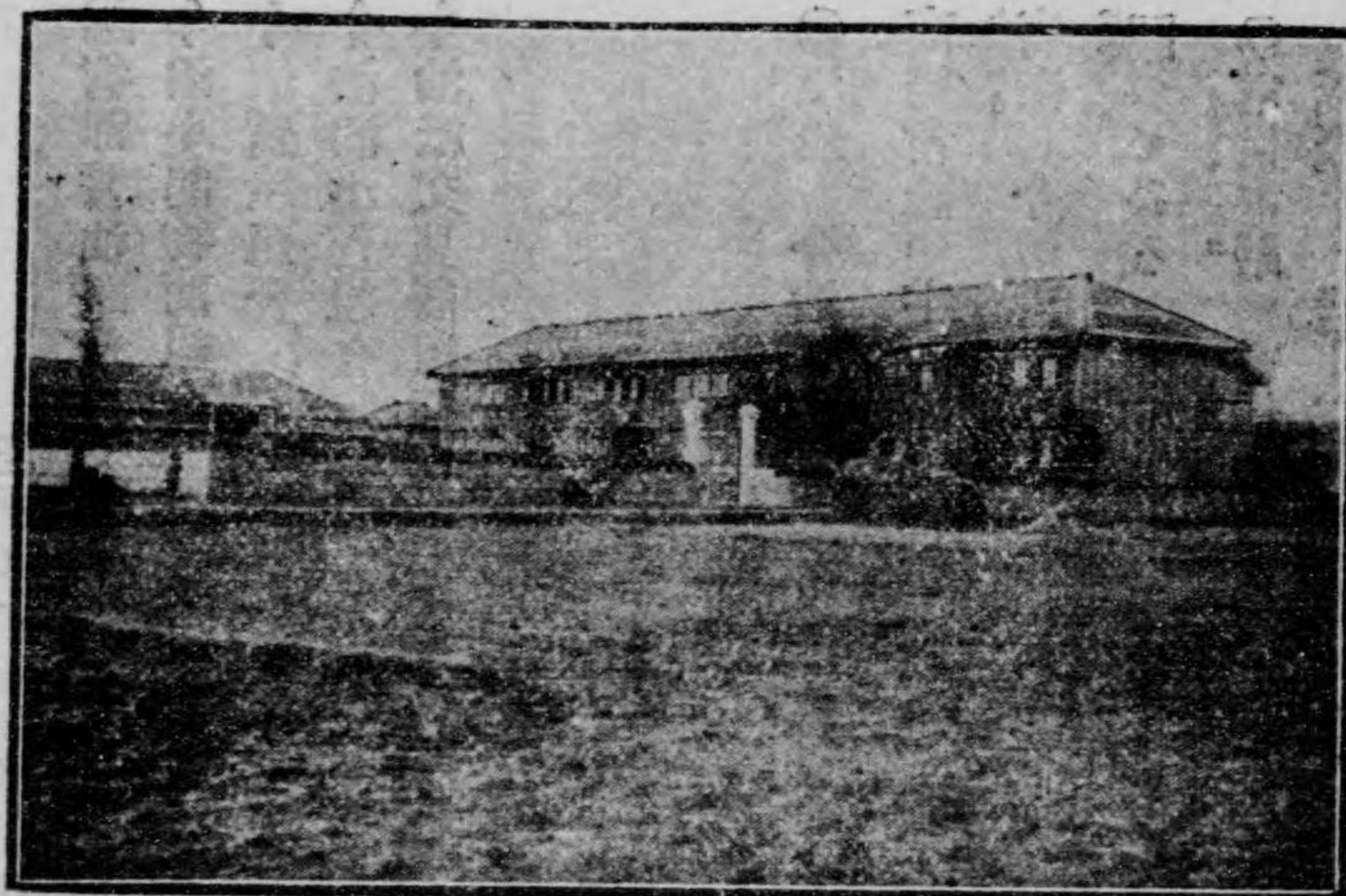
#### 任意にする同業組合

- |           |         |            |
|-----------|---------|------------|
| 越智郡醬油釀造組合 | 今治吳服物組合 | 今治菓子物組合    |
| 今治小間物商組合  | 今治陶器組合  | 今治履物商組合    |
| 今治質屋組合    | 今治金物商組合 | 今治魚市場仲買人組合 |
| 今治酒小賣組合   | 今治材木商組合 | 今治藥種商組合    |
| 今治紙文具商組合  | 今治荒物組合  |            |

### 今治の交通機關

◎汽船 今治にて重なる交通機關といへば内海航路を走る各汽船であるそれは大阪商船會社、宇和島運輸會社、住友、村上等の所持船が十數隻毎日上り下り往復共に寄港し今治港よりして伊豫沿岸、中國、九州、京阪の各方面に向ふ旅客貨物の便を圖つてゐる

◎電信電話 電信の設備が整ふてゐるとは今更いふまでもない人口の増加と商工業の發展とは更に電話の加設を見るに至つた電話交換所は風早町の郵便局内に設けて



日吉尋常高等小學校

のる目下の加名者は既に二百以上に達してゐる松山、三津濱、八幡濱、宇和島、波止濱、廣島、吳、尾道、郡中、櫻井、西條、壬生川、草津、川之江、三島等の各所に通じて居るから座ながらにして所用を辨ずる事が出来るやうになつた  
◎馬車 今治町から西條町に通ずる街道七里廿五丁目吉村精米所の前より松山市に通ずる街道十一里三十五丁あれども縣道になつて居て夫れに馬車が毎日數回往復して居る其他人力車、荷車などの設備も充分に整ふてゐる

### 今 治 の 教 育

◎中等教育の機關としては縣立今治中學校がある其れに女子の教育機關として今治高等女學校、女子技藝學校等あり次に初等教育には今治高等小學校第一、第二の尋常、高等小學校である猶ほ通俗教育としては圖書館が役場園内に設けあり一般公衆の閱覽に供してゐる現在の圖書總數は受託圖書八百九十七部、冊數は三千百五十八冊寄贈圖書は百五十四部冊數は千百七十九冊購入圖書は二百十六部冊數三百十冊外に雜誌地圖寫真等あり

### 今 治 附 近 の 名 所

◎吹揚神社 日吉村字藏敷にあり今治城本丸の跡にして明治五年十一月今治村明神社嚴島社藏敷村八幡社中濱町美保社の四社を合せ吹揚神社と稱し郷社に列す藏敷村八幡宮は舊の今治一藩の産土神なり八月廿五日を祭日とす或はいふ越智の祖神を祈れりと是れ又大濱八幡の類なるべし別當正福寺舊地は城中井上某の邸中に在りとい



ふ現今は公園として四季ともに賑はへり園内には美須賀園等の料理店の設備あり

◎今治高野山出張所 日吉村別宮にあり樞要の地に高野山出張所を設け大に祖徳を宣揚し布教利濟の實を擧げん目的を以て明治十四年之を起し全十六年堂宇の建立を告げ今年三月四日高野山總本山金剛峯寺より高祖大師の御尊像を勸請し奉り本山より高岡教正御下向最も盛なる入佛慶讚の法會を厳修せり爾來年を閱すること卅有餘年に及び其間高祖の慈雨に浴せし者幾百千なるも知れず實に靈德彌新なり香煙常に絶へず賽客日夕に盛なり因に現時當出張所は止むを得ざる事情のため大正二年春より日吉村別宮南大門に移轉の事業を起し目下工事中なり而して現住職谷本忍雅師は嘗て眞言宗聯合布教師として各地に法輪を轉せられ又幼稚園の保育事業を經營し近時は専ら自坊の移轉事業の完成を念とし日夜精勵せられつゝあり

◎來迎寺 今治室屋町にあり往古は國分山に在り今より七百有餘年前宗祖圓光大師御留錫の舊跡たり本尊の阿彌陀佛は運慶の作にして靈驗顯著なるを以て皇室の尊信篤く御所の尊牌を安置し其の御供養料として年々六十六石を拜領す又た福島正則、藤堂高虎及び安心院殿等歴代の城主當寺を菩提所と崇め尊信深し東豫四郡の本宗寺院は皆當山の末寺なり(現今は其半に過す)万延元年四月廿五日文久院殿の御嫡子尊超親王在住の目縁を以て尊牌を當寺に納め永世の位牌所と定められ同時に菊御紋章の筋塀許可狀並に打敷、幕、提灯、法等下附せられ仍て爾來今に至るまで菊御紋章を使用する所謂なり明治六年四月十九日よりは久我宮誓圓親王御留錫二週間に及ぶ、如見寺勢強く盛大を極めしも明治十二年二月十九日玄關より出火し大伽藍並に一切の珍寶悉く灰燼に歸す其後再建するも颶風の爲め吹倒され其の殘木を以て此に仮建せしは現今の堂宇なり

◎幡勝寺 今治風早町にあり、往古聖德太子創營の地にして上宮山太子堂と號す境内は四町四方あり寺領もまた多く曆應中火災に罹り堂宇悉く災す後十年を経てこれを再營す應仁中再び兵火に遭ひ寺領も沒收せられ衰廢して空坊となること久しかりしが播州の武田源八郎播勝剃髮して僧となり淨圓と稱し來て空坊に居住せしが寛文九年十二月遂に眞宗に歸し播勝寺と改む

○鴨部神社 日吉村字藏敷にあり越智益躬の靈を祭る豫陽盛衰記に推古天皇の御宇  
鐵人といふ者八千の軍兵を卒へ九州を攻め京に上らんとするとき越智益躬播磨の國  
蟹坂といふ  
所にて大將  
鐵人を打ち  
取り其の屍  
を持歸り府  
中の樹下に  
埋葬し鴨部  
大明神と號  
し其傍に



今 治 本 町 通  
し本禪寺殿  
と號し藥師  
を安置すと  
いへり、さ  
れども國史  
には鐵人の  
事なれば疑  
ふべし。

○鳥生屋敷 立花村字鳥生にあり、鳥生又三郎貞實元弘建武の頃これに住す貞實は  
河野の末裔にて寺町十郎忠貞の後胤なり、元弘の亂官軍に屬し武勇を顯したるが、公

家より何の恩賞に與らず依て備後國より尊氏に屬しけり此時河野通治免許を蒙り歸  
國せしが西伊豫は從へども東南は土居得能を先鋒として官軍に與みし嫡家をも敢て  
構はず依て曆應元年官軍の討手として細川頼有發向せり時に彼れは細川の手に屬し  
勤くといふ。

○媛坂神社 日吉村字宮下にあり

○近見山城 日吉村の西南近見山の頂にあり一に石井山城ともいふ三島社鎮座の  
故なり此城主は河野十八將の第一として知られたる勇將重見通親なりといふ。

○南光坊 日吉村字別宮にあり光明寺と號し四國順拜五十五番の札所なり

○天保山 日吉村にあり砂白く松青く前に鏡の如き海を控へ海水浴場、石風呂等わ  
りて夏季は最も賑ふ。

○乘禪寺 乃万村大字延喜に在り當山に安置し奉つる大聖如意輪觀世音菩薩は人皇  
六十代醍醐天皇延喜年間に佛師安阿彌に勅して當國鯨山にて尊像を彫刻せしめ玉ひ  
一字を草創し延喜の乘禪寺と稱し當時の高僧宥然上人をして住せしめ後遂に御遺骨

を當山に納め玉ひて宥然及世代の住僧をして回向を受けさせ玉ふ今尙境内に納体の御陵現存せり九十五代後醍醐天皇の時北條高時の爲めに天下亂れ震襟を惱ませられ諸國靈場に勅して國家安穩の御祈誓あり時に當山は名僧頓乘上人の住せしかば深く御飯依ありて特に勅命下り三七日の御祈願あり後高時亡びて天下一統するに際し帝之を徳とし玉ひ御綸旨と共に寺領を下し玉ふ尊氏將軍之に教書を添らる、後河野家より寺領五百石を寄附せられしも寶曆五年伽藍焼失し歴史を燒き朱印を失ふ然りと雖も觀音菩薩の靈驗は赫々として四方に高く慈眼視衆生の本誓は蕩々として十方に遍し誠に往古より現當二世の巨益を蒙り大悲利生の感應を受けし者枚擧に遑あらず現時越智瑞光氏住職す

◎延命寺 乃万村字阿方にあり四國靈場五十四番の札所にして往古は全村近見山に在り不動院圓明寺といひしが天正年間の兵亂に際し全寺の梵鐘を拉し行きて軍用金に充てんとせしも海上に到りし時佛罰のため怒濤俄に起り船覆りて梵鐘自ら海中に沈み去りしと云ふ事ありて其後現今の個處に移轉し寺院號を改めしなりと、全寺

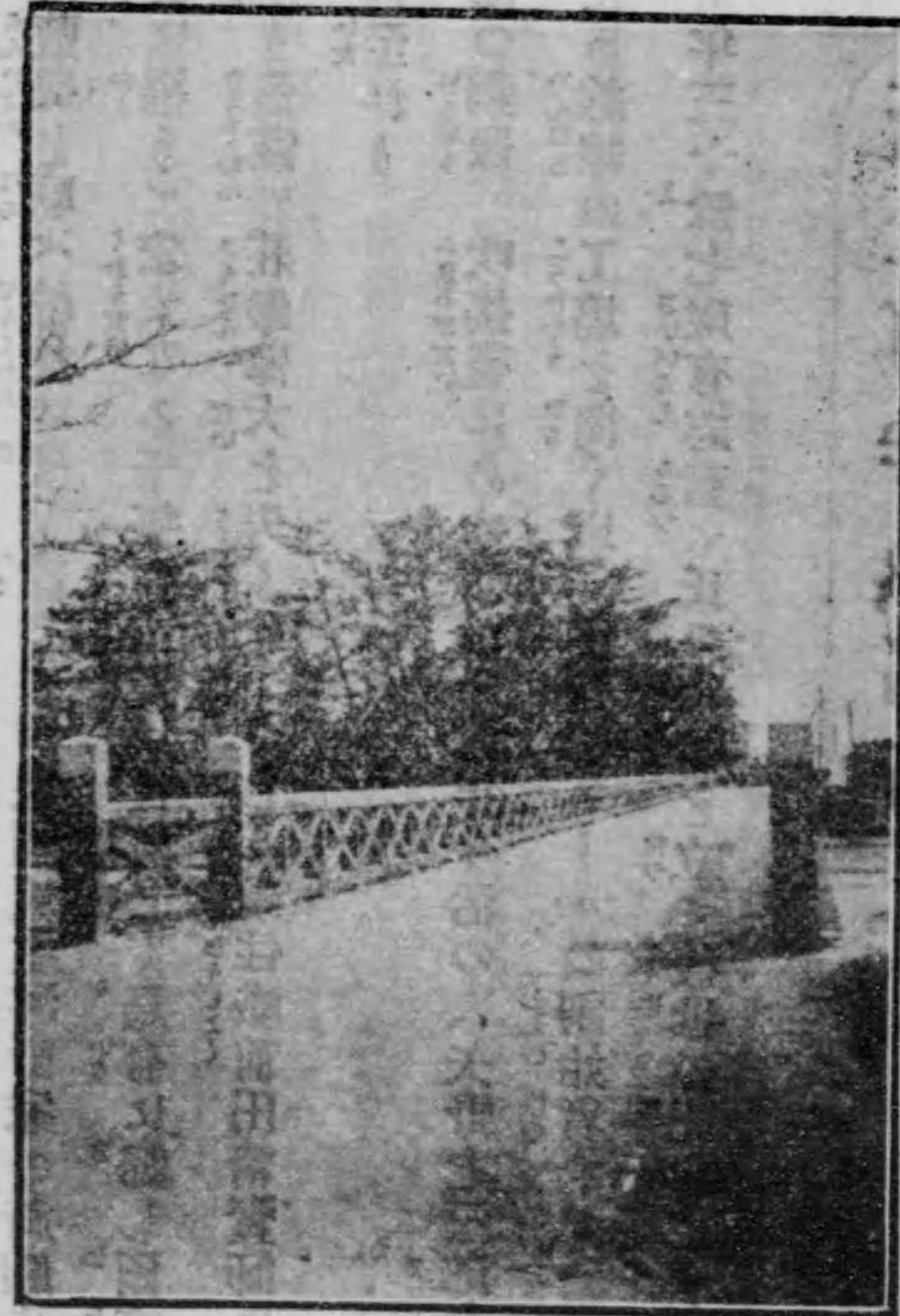
は人皇五十二代嵯峨天皇の勅願弘法大師の開基にして古來靈驗顯著なるを以て四國の關所と稱せられ往古近見山に在りし時は近見神社の別當を兼ねたる百坊の大刹にして七堂伽藍甍を駢べ輪奐の美を盡して伊豫國城主河野家の祈願寺たりしが天正年間屢々兵燹に罹りて宏大なる千年の古道場は空しく烏有に歸し爾來轉々移動して遂に現在に至り舊觀の莊嚴偉大を失ふに至りしも現住職前田精賢師に至りて大に面目を改むるに至れり

◎矢野七三郎の銅像 吹揚臺にあり明治十九年今治の人矢野七三郎全地の細民婦女子を救はんため綿練の工場を開く以て伊豫綿子ールの創始者とす、氏憐むべし賊刃に倒れて死す年三十餘七歳有志奮て氏の銅像を立て後世の記念とす。

蒼社河畔の名所

蒼社川の水源は温泉郡と越智郡の境なる北三方ヶ森の深谷を出で、奇岩快石に激り

西北岸、九和、日高、日吉、東南岸、託川、鴨部、清水、立花の村境を流れて海に注ぐ郡内第一の大河である更に水源地たる龍岡村字木地奥山中には村上、正岡兩氏の經營する有名製材工場があつて多くの人々は都はなれて別世界の如く其の業を營むでゐる。修學旅



行者などは一度この山中に入りて幾百千年を經たる森林木製材の有様危険極まる山中の懸路などは確

に見て參考となるの價値がある。  
◎水大師石 下朝倉村字南笠松山の麓鶴の巢にありこの地自然の岩石ありて方八寸

の窪みあり炎暑旱天の時と雖も水たぬることなくよく病を治すといふ土人以て異となし水大師と呼ぶ

◎朝倉木の丸殿 上朝倉村字行司原にあり古歌に（あさくらや木の丸殿にわれをれば名のりをしつづつ行くは誰か子ぞ）とあるは即ちこの地なりといふ

◎多岐神社 下朝倉村古谷にあり延喜式帳にゐる古社にて明治十三年七月七日縣社に列す

◎鷹取城 全村鷹取山上にあり正岡紀伊守經長曾て河野氏に致す全氏は重見來島等に討しむ經長謝罪して軍門に降る天正十三年小早川と戦い落城す此の村内清水姓の者鷹取祭と稱へ今に氏の靈を祈る

◎川上の巖 全村大日谷にあり多岐神社の奥の院にして七町ばかり登り之れより峻路險阪絶壁數千刃中央に大なる奇岩あり早のときこの岩を薫ふれば潤雨あり依て薫岩とも云ふ

◎淨寂寺 鴨部村別所にあり四國巡拜五十八番の札所なり小市守與天智帝の勅を奉

して創營す本寺は全帝の守護佛觀音佛山上には全帝の假御陵あり蓋し後世帝の御徳を尊み慕ふものよりこれを造りたるものならん

○奈良原神社 鈍川村奈良原山の頂にあり例祭八月初丑の日なり、舊藏王權現と稱へ牛馬を祈る農民の參詣するもの多し。

○鷹ヶ森城 全村の西南鷹の森山にあり、一族越智河内守通能居る天正十三年小早川と戦ひ城中に自刃す。

○桶窪冷泉 全村にあり、岩石の間より湧き出す吸て浴するに能く百疾を醫す。

○龜切の瀧 龍岡村南方三里餘三方ヶ森熊ヶ谷川の中流にあり、夏季雅客の杖を曳くもの多し。

○幸門城 全村下村幸門山頂にあり、正岡右近太夫通高の男經政天正十三年討死す

○重茂城 九和村與和木の北方重茂山にあり、岡野十郎居る。

○泰山寺 日高村別名にあり、空海の創營四國五十六番の札所なり

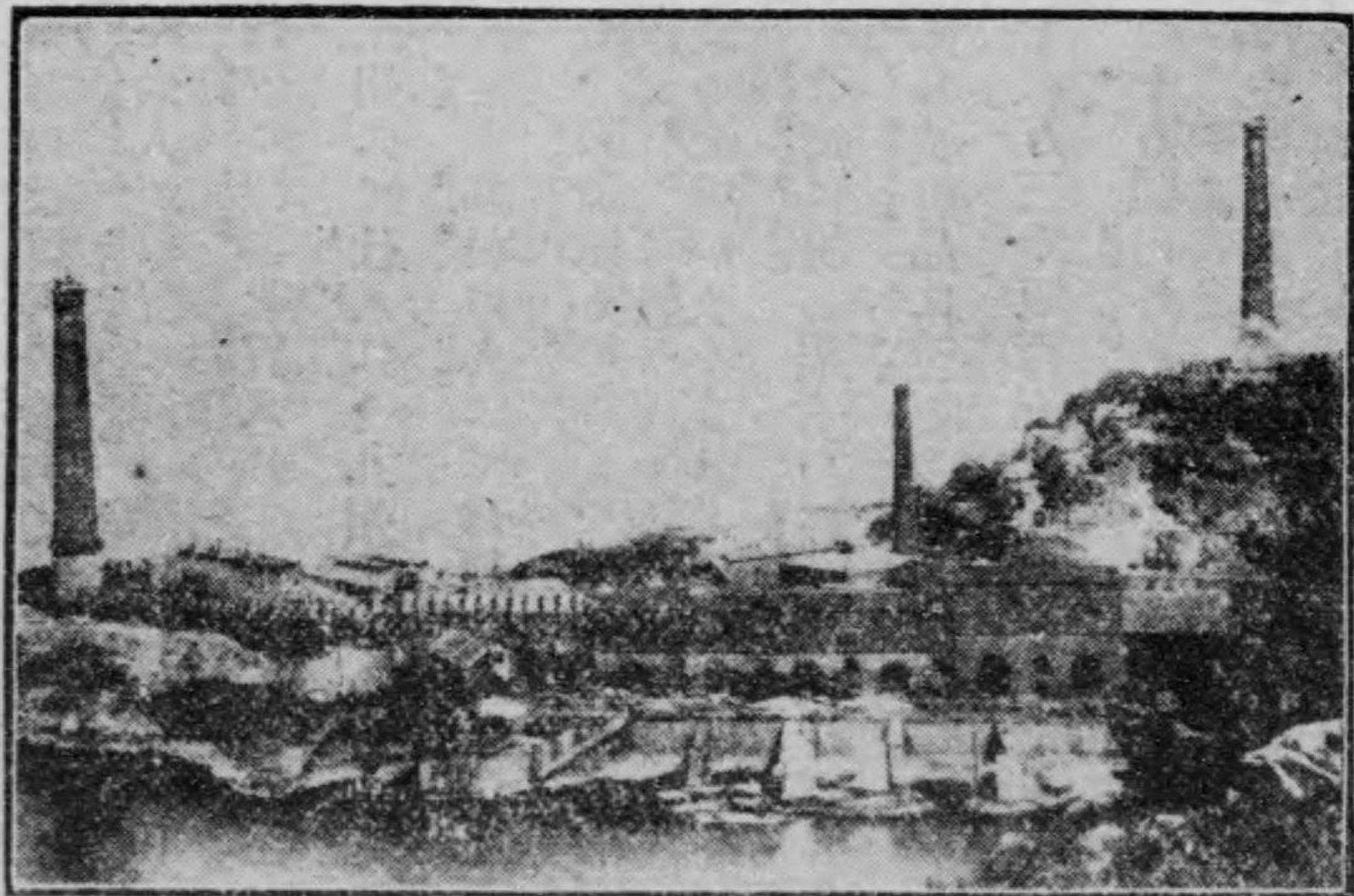
○鯨山 全村馬越の田の中に茂りたる小山ありて安養寺といふ寺在り、往古はこの

邊まで入江にて潮の淺きときは馬にて越す、よつて其名起る此山入海の中にあつて鯨の跳るが如く依て鯨山と呼ぶ。

櫻井町

漆器 其他名産有り

○町は今治町を距る東南三里餘あり、松青く砂白く前は一望際涯なき大海原で遠く白鷗の飛びかよう有様は繪を見る如くである、今治よりは毎日定期馬車の便あり、海路は半時間にして一日數回の汽船の便も有る。



四 坂 島 精 練 所

◎櫻井漆器の沿革 本縣下の漆器を代表するものは櫻井の塗物といへば今を去る、凡そ百餘年前、文化、文政の頃二三名の本村商人が簀笠の類を船に積込み紀伊、淡路地方に行商した途次、紀伊國黒江にて些少の漆器を買入れ之れを歸國の道に賣捌きたるが、抑もの初まりにて當時は單に紀州にて仕入れ、九州地方に賣捌くに過ぎざりしが、其後四十餘年を経て弘化年代に至り本村の人にて月原政左衛門と云ふ者自ら其製造を開始したるが徐々に發達して、製造家も増加し、殊に維新後は長足の進歩をなし販路も擴張するに從ひ事業の規模が大きくされて、製造家は競ふて各地より漆器工、畫工、匠工等を聘し製品の改良に努め製方、蒔繪、沈金等も頗る巧妙となり、單純なる食器ばかりならず、家具裝飾品に至るも製出せらるゝに至つて、本村の漆器名聲は大に揚り今や一ヶ年十六万三千四百五十圓の産額を見て居るのみならず尙紀州、加賀等より仕入來るもの十萬圓内外ありて、此の二十六七萬圓の漆器は碗船と稱する本村商人の手によりて中國、九州の各港及び四國沿岸の港々に行商せられつゝある伊豫名産の一つと謂ふべきである。

◆◆◆ 櫻井附近の名所 ◆◆◆

◎網敷天満神社 櫻井村大字古國府に鎮まり坐せり延喜元年の春菅公太宰府に配せらるゝ時風浪の爲めに其が茲の浦に漂着したるを今の社司清水氏の祖先海岸に在りて、これを見るより走りて救ひ船の纜を圓坐に作り菅公を奉じ濡れたる衣を見て岩に懸けて乾しやがて、己が家に迎へ奉ず菅公船を修理しける間宿留せられ主人の忠實に仕ふるを喜ばせられ、古りたる楫柄をもつて自分の像を刻まれ、これを與へて、筑紫へ發せらる、後に小祠を營み其像を安じ網敷天満宮と稱して齋き祈りたるを城主社殿を宏麗にし、社前に銅牛銅馬等を備へ神威ますます赫灼たり菅公の衣を懸けたる岩は今海岸を距る五町餘の海中に有りて形屈曲し屏風を建てたらん如き岩なり、衣干岩と名づく神社は海に面し白砂道をなし青松枝を交じへて清籟颯々たるどころ境内に多くの梅樹を植へ花時は多く幽香を送る。

◎國分寺 同村の大字國分の龜山に在り、もと金光明寺と稱したるより金光山と

號す、眞言宗にして行基菩薩の作れる藥師如來を本尊とす四國靈場第五十九番の札所なり寺域千九百五十三坪ありて本堂、大師堂、鐘樓等あり、往古聖武天皇の勅によりて國々に創建したる金光明寺の一にして



宮 滿 天 井 櫻

稱徳天皇の天平神護二年に州人大直足山私稻七万四千八百束、鍬二千四百四十口、墾田十町を寄附したりしかば、伽藍の構造諸國の國分寺に摺き出で、

宏壯を極めたりしが一條天皇の御宇灰燼に歸し爾來再造に及ぶこと數回、盛衰もこれに亦伴ひて天正の兵亂に烏有に歸したるまゝ若干の寺領も寄附狀にてこれを知る

のみにて名にし負ふ國分寺の趾も殆ど絶へんとしたるを、寛政十三年に幸く今の堂宇を建立して僅に名利の名を襲ぐに至ると云ふ往古の七重塔の遺跡とて該寺の東一町許の田の中に大さ凡そ七尺四方にして圓柱を切り箝めたる如き凹穴ある礎石十一個互に並べり、聖武天皇天平十三年の詔によりて營建したるものにて國分寺の昔を追想するものは此の礎石の残れるのみ詔に曰く。

詔宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂勝王經、妙法蓮華經各十部、朕又擬寫金字金光明寂勝王經、每塔各置一部、所願聖法之盛與天地而永流、擁護之恩被幽明而恒滿、其造塔之寺兼爲國花一必擇好處一實可長久一近人則不欲薰鼻所及、遠人則不欲勞衆歸集一國司等各宜務在嚴飭兼盡清潔、近感諸天庶幾臨護、布告遐邇、令知朕意

◎脇屋義助の墓 國分寺の東二町にして字谷の口の丘上にあり碑の高さ五尺石を築きて台とす高さ三尺方一丈碑の正面に脇屋刑部卿源義助公神廟の十一字を刻し右の肩に清和天皇十七代と刻し左側に曆應三年五月十一日と刻す寛文九年法印快政外

二名の再建する所なり蓋し曆應は北朝の年號にして其が三年は南朝の興國二年にして即ち義助の卒したる年なり識者其の南朝の年號を用ひざるを諱る、廟前に石礎二基を建て側に一碑を建て、貝原益軒の贊文を刻す其が文に曰く

舉兵廟算 伏義速驅 桓々雄武 可レ起懦夫

戰巧籍甚 名與兄俱 病終南海 時乎命乎

義助、四國西國の大將を奉じて吉野を出で直ちに紀州の田邊の浦より淡路の武島に渡り、武島より兵船三百艘をもつて備前の兒島に渡れる事は既に既知せらるゝ所なるがこゝに當國に着船して國府城に入り卒に病にかゝりて卒したる事を太平記及び南海治亂記をもつて略記せり

太平記の兒島とあるは小豆島の誤りにて同記前段には小豆島に記したり義助の病は土人の口碑に瘰疾に罹りたるものと言ひ傳へて土人の瘰を病む者は公の神廟を祈るに立ちどころに應驗ありと云ふ

◎國分城 國分寺の東十町にして唐子山の絶頂に在り本丸天主閣二の丸等の跡歴然

として四方の壘石今に存す、礎石は藤堂氏今治城を築ける時取りて用ふるといふ、古へ國府を置きたる地は和名抄に在り越智郡一とのみ書して郷名を知らざれば蓋しての城地其の所ならんと云ふ、山上の眺望極めて佳なり北は綠波渺茫として大小の島々遯く遯く點綴し西は今治の阡陌を望み東南は峰巒層疊し石槌山の高嶽雲表に聳へ立ち大館氏明の籠もりたる世田山の古城は相距る遠からず蓋し此の山を唐子山と名づけたるは瘞城の後山巔に生茂れる松樹の宛然艸童の頭に似たるより然く名けたるものとぞ

◎石風呂 全村字浦手にあり坑口堅八尺横二間奥行十間有り毎年四月一日に開坑して七月十日閉す其間に入室するもの幾千人疝氣腰痛を治するの功あり、海水浴場あり此石風呂の上に薬師堂あり、昔弘法大師爰に遊び石風呂の功能顯著なるを見て薬師佛を彫刻し石頭に安置したりと云ふ

◎志島ヶ原 東は海に臨み北は櫻井町西南は田圃及川に接す砂白き所古松枝を垂れ葉を交へ清籟颯々翠霞蒼々たり其の中に綱敷天神の社前面に石標敷基ありてこれに



伏見敦良親王千種有効等の詠歌を刻せり陸地は曠原を隔て遠嶺松梢に露はれ海上には平市比岐の嶋及び越智郡の島を遙かに望み四時の遠望絶佳にして遊客常に多し  
◎衣干岩 全村志島ヶ原より東南五町餘の海中にありて石上の老松は龍天に雲を呼ぶの狀頗る奇にして快なり菅公風難に遇て船をこゝに停め衣を此の岩上に乾す故に其の名傳ふ

◎國分寺 櫻井村字國分にあり聖武帝天平十三年二月十四日各州に勅し鎮護國家道場を置き國分寺と爲せしもの一にして開基は本性上人なりこの寺四國順拜四十九番の札所なるが古の七重塔は全寺より東二町ばかりの所にありしものと見へ田の中に大さ六七尺四方ばかりの礎石残れり石面の中央にはりたる圓き柱の切込口あり石の數十一個に及ぶといふ

守護のため建てゝながむる國分寺いよくめぐむ薬師なりけり

◎櫻井泉 全村字國分の東南櫻川にありて古來傳へて名勝とす是れ櫻井村の名起る所なりと云ふ

### 櫻井村の五名勝

◎櫻井濱の夕網 石風呂の海水浴 冠岩の釣魚 櫻井の石風呂 志島ヶ原の衣干岩

### 諸群島の里程及ひ人口

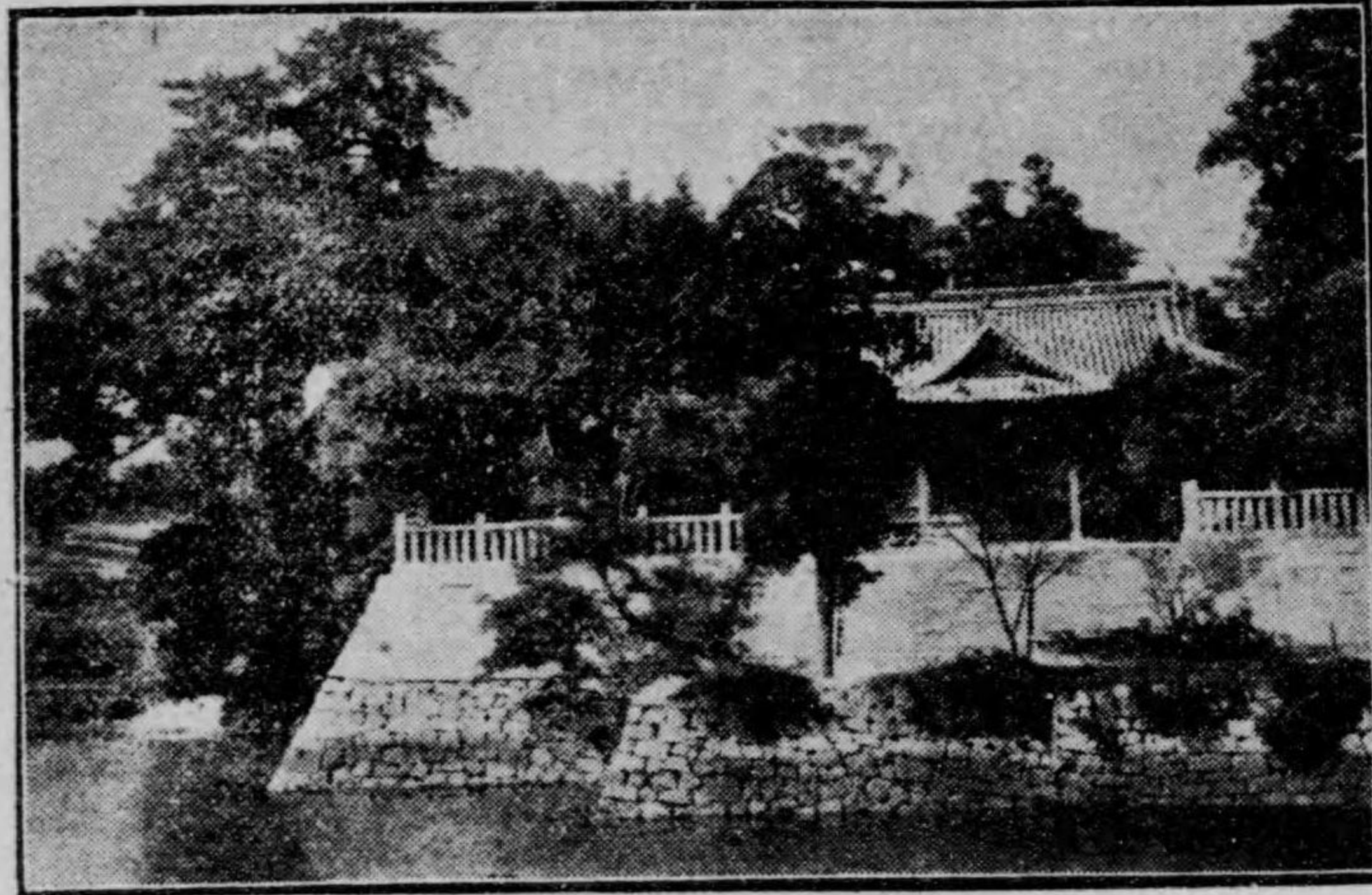
今治の海上二里十八町にして大島あり周圍十一里十六町にして人口一万四千あり大島の北十五町に大三島あり周圍十四里三十一町にして人口二万あり又大島の東北九町に伯方島あり周圍十里五町ありて人口八千あり伯方島の東北十五町に岩城島あり周圍三里二十六町餘人口四千あり岩城島の東六町に生名島あり周圍三里二町餘人口千五百あり生名島の東十三町に弓削島あり周圍五里一町人口三千六百あり此の他無數の小嶼碁布す大三島より安藝の大崎島まで廿四町岩城島より同じく生名島まで五町弓削島より備後の因島まで七町ありて諸島の人口は殆ど本郡人口の半を占めり本郡の人口は十三万三千ありて一市三十六村に區畫す

### 群嶋及び名所

◎美しい海うららかな島と来る人も行く人も感嘆をく能はざる越智郡の無数の群島は大島、大三島、伯方、岩城、生名、弓削、佐島、四坂、比岐、平市、關前、大下奥島などで其他名の存る幾多の小島がある島の重なる物産は甘藷、石材、石灰、鹽、麥稈、真田、海産では鰹、鯛、干鰹等である次に重なる島々について述べることにする

### 大 嶋

◎今治を距る海上二里、島は、大山、宮窪、津倉、龜山の四ヶ村に分れ島四國八十ヶ所があつて春季には順拜者が多く集つて来る、主なる物産は花崗石、鹽、鰹にして殊に花崗石は其の石質の良好なること他に多く其比を見ず曾て東宮御所の御造營に方り敷石として使用せられたるは實に大島の産石にして大島の花崗石と云へば東京、大阪地方にも其名高く響き建築用材として注文常に絶へず一ヶ年の産額優に十五万餘を切出すのみならず大山村字餘所國には優良なる青石をも産する



大 嶺 八 幡 宮 境 内

◎能島城 大島字宮窪村の東北海中に在り村上掃頭武慶居る  
◎誕生石 大島字泊村字二番所の海濱に在り石面に胞衣の形見へたり土俗傳へて三島明神誕生し玉ひし跡なりと云ふ安政年間碑をこの島に建つ安産の神として近郷に聞ゆ  
◎布施石 大島字泊の西方荒戸の海面に隠見して恰も千龜の波上に浮ぶに似たり其石は布を曳ものゝ如き痕あり俗に三島明神布を經玉ひし所なりと云ふ

村 雨  
入日大きく此の風や小春鷗飛ぶ

大三島

◎世界三景の一なる瀬戸内海の中央、藝、豫、要、塞の置かれたる伊豫越智郡群島は古來三島列島と稱ひ上島と呼び風光の明媚にして雄大なる天然の粹と云ふべくこの大小無数の島嶼の順列圍連の中大三島と呼ぶは鏡、岡山、宮浦、瀬戸崎、盛口の五ヶ村に分れ物産には甘藷、石材、石灰等である

◎國幣大社大山祇神社 宮浦村字神山に在り國史を按ずに稱徳天皇天平二年四月當神社に神位神戸を授けられたるは宇佐神宮の品位に次で神位の初見なりと仁明天皇承和四年名神に預りて宮社に列し延喜の稱名神大社として伊豫國一宮として或は踐祚、大嘗會、或は國家の大事には神寶幣帛を献せられ帝國の安寧を祈願せられ國家の崇祈たる禮を盡し給ひ歴世皇室の御崇敬淺からず下國民として武運長久を祈願し航海者に海上守護神として渴仰され千古の昔より三島水軍の神として殊に近古支那朝鮮を戰慄せしめたる倭寇總司令部の本據地として日本水軍大將軍の守護神として

崇敬無比なりき祭神大山津見命は皇室第二の後家にして薩摩國に在り天孫降臨に際し伊勢の猿田彦の命に謀りて皇孫は薩摩國に降臨せらるゝ事と成り而して万世一系の皇基を樹させらるゝに至りたる其御功績極めて莫大に在せり御祭神は航海に御神徳おはせば御名を和田志大神とも稱へ大御武徳に依りて雷神とも草萊を開き水利山林の神徳に依り大水神とも大里神山神とも申し天瓊々杵尊の皇后木花咲耶姬命の父神にして彦穗々出見尊の外祖父に有せは大山津見御祖命とも崇め奉れり本社は天授四年(五百三十四年前)造營せられたるものにして境内は數百千年の大樟樹蒼々として神垣古く神代も偲はれていと神々し寶物は殊に夥しく孝謙天皇の納め給ふたる圓鏡、天智天皇の納め給ふたる長命、富貴鏡、小松重盛の納めたる太刀及長刀、能登守教經の納めたる弓、源義經の鎧、佐藤忠信の太刀、河野通信の兜直衣、足利義政の茶瓶等種々あり此島は古へより名所としてよめる歌多し左に歌集により

人ならぬ岩木も更らにかなしきはみつ小島の秋の夕暮  
あけぼのを霞のよそに漕ぎいで歸るみしまの春の舟人  
順徳院御製  
曾根 好忠

範國朝臣に具していよの國にまかりけるに正月より三四月までいかにも雨の降らざりければ、苗代もせでよるすに祈りさわぎけれどもかなはざりければ守能に歌よみて一宮にまいらせて雨いのれと申しければ参りて祈り申しける

天の川苗代水にせきくたせ天降りますかみならば神 能因 法師

又岩城島は古へ岩木に作つて盪瀆の名所とするも歌集に見へたり

いよの海岩木の島は我れなれや逢ふことからき盪のみぞ焼く 洞院左衛門督

いかにしていかなる世にか盪たれし岩木の濱の海人の狭衣 同 左大臣

◎芋地藏 瀬戸崎村大字瀬戸の向雲寺境内に在り其昔甘諸種を此の地に傳へたる下

見吉十郎秀譽の靈を祀りたるなり今なを有名な芋地藏の名聞ゆ

◎全島の名物としては煎餅、ろくろ細工、びつくり團子等なり

### 弓削嶋

◎商船學校の所在地にして此の島の弓削神社と云ふがゐる土俗に弓削道鏡を祭る因

て法王宮とも號しこれを額に書き拜殿に掲ぐ又た所の習はせとして村民伊勢に參宮するもの有れば其時必ず此の社に通夜して夫の恙なく歸るを待つと云ふ其此の何神たるを知らねども必ず道鏡を祭れる神にはあるまし而も彼は大逆無道の奸僧にして決して神に祭るの謂れなく因て神官も心附き今は其祭神を改易めたりと云ふ

### 伯方嶋

◎東伯方 西伯方の二ヶ村に分れ麥、麥稈眞田等を産出して居る

◎禪興寺 東伯方村字木の浦にあり永享二年村上掃部頭創營す

◎枝越城 西伯方村字伊方にあり天正の頃今岡木衛允連次居る有名なる海賊方の人なり

### 岩城島

◎今治港を距る南方八里大島の東北、弓削島の西北此島は古へ神野左近三條壬生配

所の地なりと云ふ又た鹽垂比丘といふ石礪高さ五尺餘傳へいふ比丘は日向の人に於て京に遊ばんとして此の地を過ぎ忽ち病に死したるなりと名所方角には岩木とある

◎八幡山城 岩城村字龜山にあり一に龜山城ともいふ明德三年村上修理亮敬吉これを築き天正中に至るまで代々の居城たり

〔波止濱町の概況〕

◎波止濱町は今治町を去る西北一里半新道が通じて居る、風光明媚にして前には來島が長く横はつて三面山を負ひ天然の良港を擁し大風雨の時と雖も灣内更に風浪を見ること無く中國との連絡航路最も便捷安全なれば港内出入淀泊の和船常に船檣を保持して林の如くなりされば豫讃鐵道竣工の曉には町の發展當に注目し値ひすべし

抑々波止濱町は舊松山藩久松氏の所領にして天和三年より元祿四年に至る間に鹽田四十二戸を開築し食鹽の産額夥しく實に良港と併せ稱せらるる明治二十三年波止濱、高部、杣田、來島の四ヶ村を併合して波止濱村を組織し全卅年電信開通し四十

一年町制實施四十三年電話開通大正二年瓦斯及び電氣燈の設備を見るに至れり現在の戸數は一千百十四戸人口五千四百三十三人あり物産は米、麥、甘藷、果實、小豆其他鹽及醬油は最も有名なり。

波止濱町の會社及び金融

社會行銀		名	稱	設置年月	資本金
株式會社今治商業銀行支店	船渠	船渠	株式會社	廿九年九月	壹百萬圓
伊豫鹽合資會社	鹽合資會社	伊豫鹽合資會社	伊豫鹽合資會社	卅九年四月	四萬圓
矢野八合名會社	合名會社	矢野八合名會社	合名會社	卅九年四月	參萬圓
保險會社出張所	出張所	保險會社出張所	保險會社出張所	卅九年四月	六千圓
貯蓄					
郵便貯蓄	郵便貯蓄				金
預人員	預人員				金
金高	金高				金

預人員 一一、一四一圓九八八

預人員 五、一七七

預人員 高 二五、二五三圓五八

預人員 一、一九四八

◎章魚釣陶器 慶長の昔豊公御用船九州の陶器を載せて大阪に歸る途中この港外里餘の海に沈没せしが後文政年間漁夫章魚を釣るに偶々陶器を抱て浮ぶ爾後工夫して器用記念品として賞用

章魚を繩に  
て結び海水  
に沈ましめ  
、これを釣  
ることゝな  
つた。

樂燒美術の  
考案新に  
して煎抹茶

大 井 八 幡  
とせられつゝ  
ある樂燒は  
五樂齊守田  
舟月多年苦  
心の功に依  
ものなりと  
云ふ。



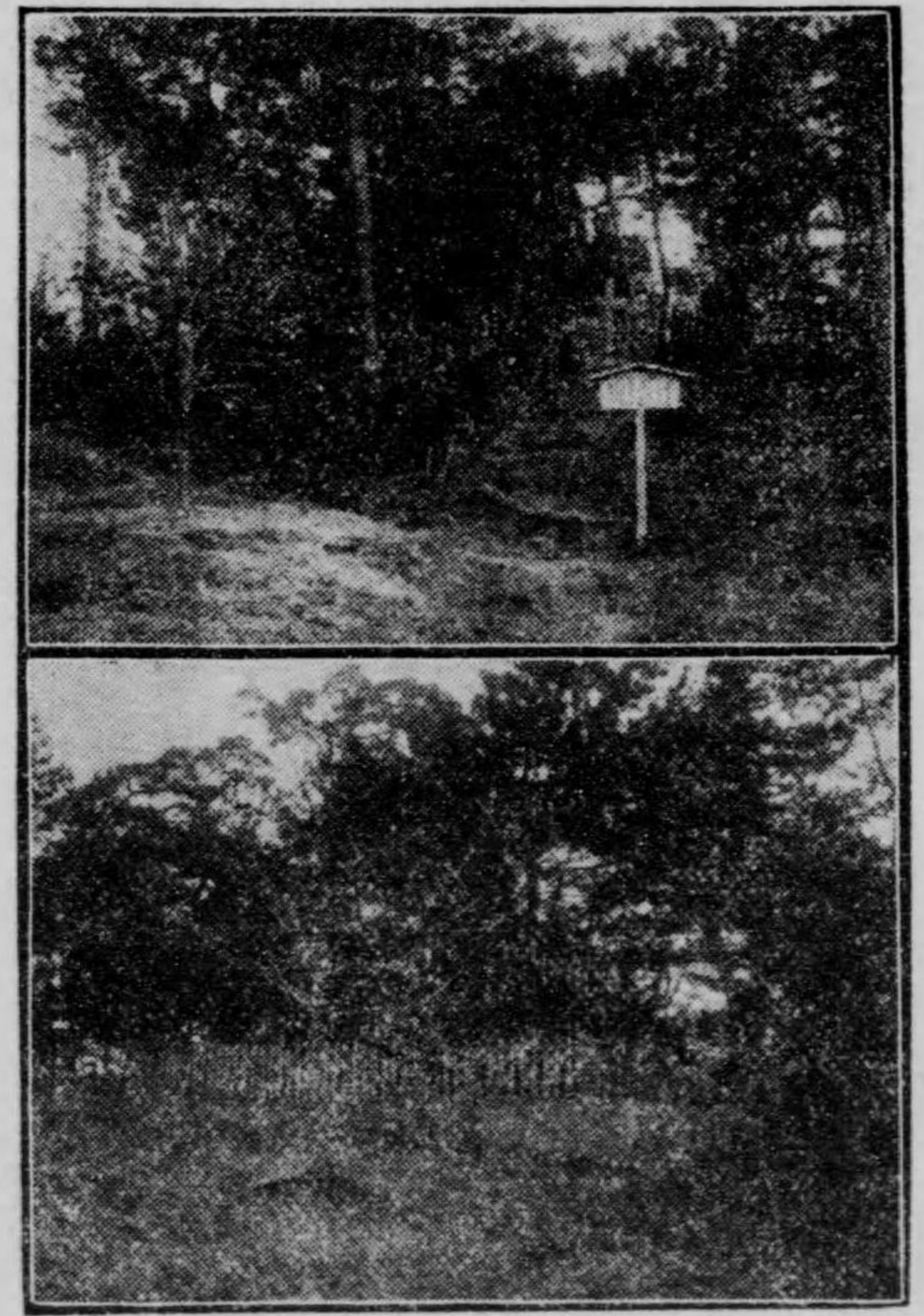
製 鹽

◎大阪 中國、九州邊に輸出せらるゝ食鹽は、越智、新居、温泉、伊豫の四郡に於

て製出せられ一ヶ年の産額五拾八萬千六百七拾壹圓ありといふも實に四拾壹萬千七百參拾四圓は越智郡に於て製出するものにして、摺質の最も佳良なることは又縣下第一といふべきである

この産地は  
波止濱、津  
倉村の二村  
にして波止  
濱は昔天和  
の頃久松家  
の奉行職林  
注ぎ摺田の害を避く、明治以後八木龜三郎氏大いに盡す處ありしが今は官製に移り  
專賣局出 張所摺務局等の設備ありて益々品質優良のものを製出しつゝありと云ふ

源太郎兵衛  
大といふもの  
井この地に鹽  
八幡田十軒を開  
きたるに始  
まり樋口川  
(地 説 傳) 柳田川の二  
流によつて  
河水を海に



波止濱附近名所



◎來島城 波止濱の入口にある一小島、村上三郎吉房これを創築し代々居城とす。  
◎來島瀬戸 來島と波止濱との海峡を云ふ滿潮には風なけれ共浪逆まき鳴る音百雷の如し

來島にすきつるらじ夕しほの干がたの浦の海士の袖見ゆ

◎瑞光寺 波止濱字榮町にあり久留島氏の建立にして全氏代々の位牌あり

◎大隅岬 波止濱村の西北海上に斗出すること二十九丁船を航するに險惡なり

◎玉生八幡神社(全村) 社記に云貞觀元年八月十五日南都大安寺行教法師宇佐八幡を奉じて山城國男山に移す途中波止濱に泊す其時神輿を今の社地に休す後ち里人神殿を創建しこれを祭る

◎長泉寺(全村) 保延六年春伊豫の人瑞長と云ふ者行基作の觀音像を本尊とし一字を創建し長福寺と號す後ち秀吉征韓の途中船を此地に泊し此の寺に願ひ弘法大師の

鐵像及び藥師如來を寄附し假名にて長泉寺と書し號を改めしむ大間川、大間松などある

◎長鳴門 (全村) 日本國中鳴門と云ふが三つあり阿波、周防、伊豫これなり

いよの海朝こぎ來れば上島や長門の浦に船よするらん

◎篠塚伊賀守の古跡 (近見村) 港山にあり、新田氏の饒將にして世田落城の後伊賀山より船にて沖の島(今の魚島)に逃れしが痢疾に罹り終に空しくして此地に葬る魚島字右殿山上八幡社の傍に篠塚伊賀守の墓と稱するものあれども是れは古へ梵經を埋むる所にして伊賀守の墓といふは誤りなりと云ふ。

菊 間 町

今治町を陸路西に去り日高、乃万、大井、小西、龜岡の五ヶ村を横つて菊間町に出る縣道を通じて四里二十五町人口四千九百餘あり、瓦の特産地にして松葉の煙は晝

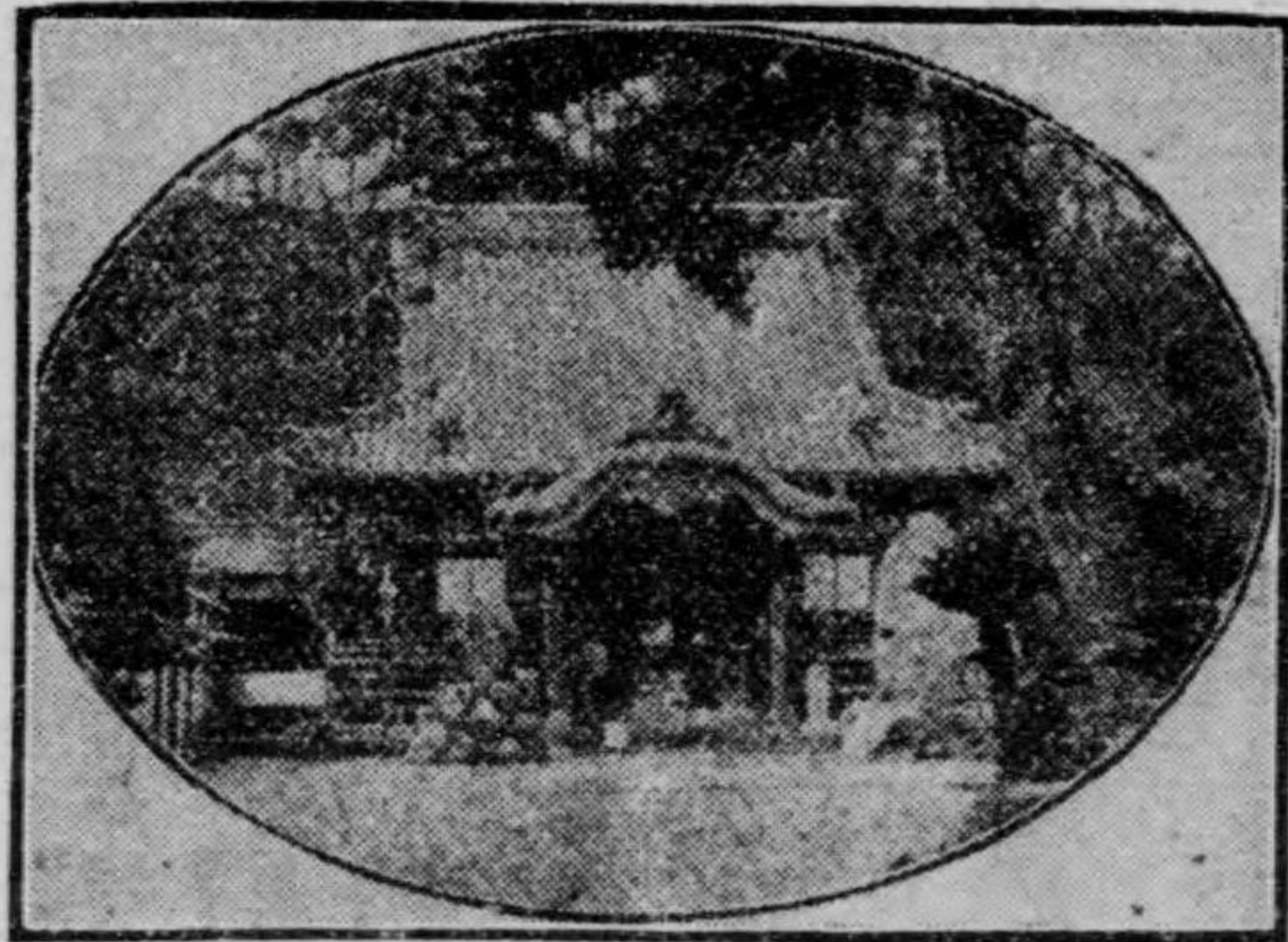
夜間断なく天に昇つて運輸交通の便を圖つて居る港内は船泊の出入繁く三津濱、尾の道間の汽船は上り下り毎日二回往復し便利此の上なし町役場、今治商業銀行支店製瓦組合事務所、郵便局等があり、旅館、料理店、置屋などの設備も整つてゐる

### 菊 間 瓦

天正元年十二月支那(明朝)の商船豊後に來航のとき乗組の一明人より製瓦の術を傳へらる、夫れよりして獨特の技術と精巧を以て海内一と稱せられた、安政年間には禁裡御造營司幕御府作事所、神奈川小普請所等より御用瓦師を命せられ、六十餘州唯一の御用瓦を奉つて全盛を極めた菊間瓦は實に越智郡菊間町の物産として其の隆衰は全町の消長を支配するの觀がある維新革命後は藩廳の保護が廢せられ共に營業者が續出して、互に競争の結果粗製濫造の惡癖を生じたが明治十九年製瓦組合を組織し品質の改良と販路の擴張に努めたれば漸く失墜せんとせし聲價も復舊することを得、二十七年には越智郡波方村より温泉郡三津濱に至る沿岸一帯の製瓦業者を

集め伊豫製瓦組合を組織し本部を菊間町に置いて其の改良進歩發展を奨勵せしため今や一ヶ年一千二十三方六千餘個、價十五万三千五百四十圓の多額に達してゐる、因に全組合にては近きに於て株式會社となし益々其發展を圖り計畫中なりと云ふ去る二十年皇城御造營に際して御用を蒙り御買上げの榮を得たるに徴しても菊間瓦の優良なる事は知るを得べきである

### 菊 間 の 寺 院



菊間町遍照院大除師書院

の誓を籠めさせられたる有名の舊蹟なり故に其時は七堂伽藍巍然として空に聳へ名僧知識相繼ぎて來住し講時の鐘の聲は無明長夜の夢を破り十方の四衆皈順して摩訶

◎遍照院 越智郡菊間町遍照院は新義眞言宗豊山派の中本寺なるが今を去る一千有餘年の昔弘仁六年弘法大師四十二才の大厄を除かんが爲め自ら尊像を彫刻し厄除けの秘法を修して永く末代諸人厄除け



般若の玄旨を演べ東西百廿ヶ寺の門徒を領しては常に教令を下し永祿七年には所領の寺僧一百廿人を卒して伊豫大三嶋明神遷宮の導師を勤修し得居、福嶋、加藤の諸公數百畝の佛供田を寄附せられ寺門大に振起したるが惜哉數度回祿の災に罹り時代の變遷亦止むなきに至り天保年間今の地に移したるも厄除大師の靈驗日に彌々新にして參詣の輩ら常に絶へず近來大に開展しつゝあるは道俗の共に悦ぶ處なり全寺古書中に大般若經六百卷は應永年間理心尼の謹寫せる稀有の經卷なり傳來既に五百余年而も尼僧の筆に成る完全なる六百卷は寔に全寺の誇りとす處ならん全寺正門は縣道に接して海に面し高濱尾道間の漁船は上下四回其の門前に發着せり今全寺に就て松山の大家宮脇鯉溪翁の嘆賞されたる菊間八景を得たり

積雪輝斜照 一齊埋萬松 突乎千仞聳 宛似匡廬峯  
濛々夜雨暝 波闊滄溟瀝 沙白與青松 不知何處在  
高仙の暮雪 葉山の夜雨 松崎の晴嵐

朝來雨初霽 嵐氣瀰長空 近山與遠嶼 渾是渺茫中  
煙波帶落輝 處々晚鴉飛 漁獲知多少 蒲帆先後歸  
招提鹽海澨 蒼古幾株松 遍照三千界 夕陽深省鐘  
古松加茂廟 廟外有清池 乍是龍鬚動 雁群來宿時  
一望暮潮平 暮山螺髻擎 峭帆舟絡繹 載得夕陽明  
吟鷗人去盡 原上寂無聲 萬里天如拭 秋高月逾清

今治より菊間に至る各勝地

◎大井八幡大神社 人皇四十二代文武天皇詔國司散位乎智宿禰玉純奉行之大寶二年寅八月朔野間郡大井縣に神殿肇て建營し古風速野間別國造、阿佐利命、怒麻小造若禰尾命二柱を崇祀大井宮と號す人皇五十六代清和天皇詔行教和尚豐前國宇佐宮を山

城國男山に勸請の航路當郷の浦弓津惠嶋に船泊の時神託あり國司伊豫大領使河野深躬即ち八幡宮垂跡の地に勸請す假に神殿を造立し寛平二年庚戌六月廿八日に國司府中館散位越智宿禰息方大井宮に合祀別當寺大井寺、法隆寺の二を置き神領三戸畑を寄附して神號を改め大井八幡宮と稱す延元元年十二月尊眞滿良德良三親王故有當大井浦に御着船して朝敵を退治の御祈願あり各御太刀奉納あり延元三年三月八日尊親王此里に薨去し給ふ御靈を當神殿に合祀奉り南山に御墓あり當神社は往古より國司の尊敬厚く社殿の建營水田の寄附等多し明治の初年迄は大守公の御祈願社にして代官より鳥居、郡中より石段等の寄附現存し郡内三大社の一なり

◎御陵墓傳説地 延元元年十一月後醍醐天皇皇子尊眞、滿良、德良三親王故有り當大井浦御着船賊軍之れを襲い狙撃せんと欲す親王は大井八幡宮に御願あり朝敵を退治し給ふ賊軍は遂に敗走なす同三年三月八日尊眞親王此の里に薨去し給ひて御靈は大井八幡宮に合祀し御爲體を此の地に納め奉りあり  
右の如き古書に依り明治三十年三月其筋へ上申をなし同三十二年十一月廿日御陵墓

傳説地として監守人を置かれたり全卅三年二月其地附近の地所を宮内省へ買収し官有地第一種に編入同三十四年宮内省より周圍木柵及門戸を設置し現今宮内省用地の制札を設け同省より守衛人をおけり。

◎野間の大墓(野間村) 高さ七尺方二尺六寸俗に覺庵墓といふ又坪の内といふ所にも全様の大墓あり、明智光秀の妻の墓なりといふ  
◎西明寺(全村) 善導大師自作の阿彌陀佛を安置す本ること數日に及びたれば山々に板屋を營み此に移ると後里人公を慕ひ今に至り其礎石を敬する神の如し。



院書師大除厄院照遍町間菊

尊は日本三体の一なり  
◎圓明寺(全村) 四國順拜五十四番の札所。  
◎天神山(大井村) 延喜元年二月藤原道眞筑紫に流さるゝや安藝國御手洗沖を過ぐる頃風波俄かに起り因つて礎を此の山下に卸し留む

○高仙山城(野間村) 永祿年間池原兵部亡び其後村上備中守吉光の所領となる。

○日輪寺(菊間町) 弘仁六年空海上人は是を造營す昔は越智、野間、風早の三郡二十

ヶ寺の本山にして天正中兵火にかより寺門衰微すれ共今も猶十三ヶ寺の末寺あり。

○秀禪寺(野間村) 延喜年間宥然上人の開基なり上人は醍醐天皇の寵を蒙る依つて

崩御の後假御陵をてら内へ作り朝夕參拜す其御陵嚴然として今に存す其の後九十五

代後醍醐天皇御腦あり夢に告あり當寺現住頓上法師に勅し御祈ありしが頓に御快氣

あり依つて寺領の繪旨を下さる其の書今に存す。

○菊間城(全町) 神野左馬之助居る。

○歌仙の瀧(歌仙村) 松尾の瀧と呼ぶ長さ三十六間幅二間にして飛泉三十六曲をな

す故に三十六歌に擬しカセンの瀧と稱す尙は西南二丁程を去る所に霞合の瀧あり

(一名裏切の瀧とも云ふ)高さ十間巾八間水量に至つては霞合の瀧の數倍あり

夕ぐれは風をまつをの瀧風に  
心くぐるる月の國玉

久松定直

今治雜觀の卷

.....御買物の御注意.....

○何品でも總て御購めになる時はよく御注意なさらないと大變むだな費になります  
けれども鑑別法が素人に  
は困難で信用ある店に御  
任せなつて御購になる  
より確實なことは御座い  
ません然し何品によらず  
何の位の程度の品が丁度  
家庭向として適當である  
りませす(○な店鬼太郎鹿一店員の談)

いよの今治名物名所、港桃山三ツわ  
の湯、音に名高きこまのまんぢう  
下のうごんは安いもの、白布タオル  
やなほりがき、本町日吉やたばこ入  
れ、新町青物魚市吹揚公園、蒼社川  
一寸天保山

○日常最も何にかにと  
多く用ふるメレンスなら  
は無地小巾で尺八九錢位  
友仙なら十錢から十四錢  
位の處は確實な品質であ

○吳服ならば原織物で四圓位から有升が先づ本質はやはり拾圓以上拾參四圓位ひの  
程度で間違がありません高貴織物類ならば五圓五六拾錢以上七八圓位ひの品、木綿  
物やガス織では種類が多いから一々詳細申上られませんが一寸壹圓貳參拾錢から貳  
圓位迄の品物なら御洗たくして色のさめる事がありません(○吉主任吉田直市氏貞

一さん頼一さんの談

●服物のあまり安いのはかへつて損でありまず表附男女物にかわらず、柎臺後丸は四拾錢位いからありすが家庭向きとして相等な處と亦た經濟上適當と云ふ邊は壹圓から貳圓位の處で有り其れから別柎柎直履では參拾錢位い(山石矢野店の談)

●酢最も上等なのはニライ鳥一升十五錢以、青梅小梅此等は一升八九錢、味は白慢ができ升(○福店員越智幾

ンで五圓位の處が先づ確の部であり升(吉田時計店員の談) ●自轉車、素人では全く良惡の鑑別がむつかしいですから最も信用有る御店で御購

今治獨特の用語

一名鐘やタイコを應用す

あなた何れへ行って來ました最う歸りませんか云事 (コナコドコエエタンドンモチイナカン)魚賣り(ホコキヤン) (エビカン) (タコナリエンカン) (ヒラゴソツリダツガカエンカン)其他(はを買はホチクナエキヤン)何々買ませんか松バワ、チンジバワ(こをらつかみ(ホラツカン)さか木を(シヤキヤ)花を(ハナワ)大變を(コト)牛肉を(ヨニゲ)度々を(チク) 雜有を(ダン) 妻君を(ヨメサン) 吳レ(ソカ) 早いを(イソシイ) 苦ししいを(セコエ) 芋を(モエ) 其んな事云ふてはいけんを(シヤカバイ)

太郎村上庄五郎さんの談) ●時計種々新流行形澤山有り升て隨て値段の何百圓と云程度迄有り升が普通實用向きとし機械の完全な新形ではアングルで銀がわ六圓五拾錢位から拾圓位ひが確實保證され升シリ

めなさい飛びはなれた上物は別として先づ通常の實用向きではトライアンプ百貳拾五圓位ビヤスで百參拾九圓位此等は確實に品質の保證が出来升が最も和製で四、五拾圓位で相等な物も有り升兎に角あまり安物は度々の修繕かどうしても多いからかへつて損です(津國自轉車店員の談)

●茶器を御購めの時は一組七拾錢位の茶器ならば相等に丈夫でも自體裁もかなりで御茶は小喜仙で斤六、七拾錢ばん茶で四拾錢位いのところが先づ一寸呑め升

●化粧品では近頃様々な殆んど數きれない程澤山な種類があり升が何んど云ふてもレイト白粉拾五錢シツプ白粉廿五錢プリンス白粉拾四錢エメウラ水白粉廿錢位支那白粉では拾參錢位クラブ洗粉では大袋六錢最上頭髪用油では本椿香油、中瓶拾五錢大廿五錢此等は流行の化粧品中で保證の出来る直に家庭實用向であり升(日吉屋吉成甚助店員の談)

●綿、ふとん用では貫壹圓貳參拾錢位の處から有ますが品質の上等の割合に値段の安いのは室町の藤高製造綿が實用向最も經濟であり升全店の綿では兎に角貫五拾錢から有り最上壹圓八拾錢位までは確實品質に就き保證され升、出来台の安物より多少高値でも全店の品は一般安心が出来升

●かまぼこ、では一本八錢より拾錢位の物はまぜ物がありませんちく和では五錢位いが七等、味ひも保證です買先は新町の田中屋當りが確實でくれる

◎酒は一升六拾五錢以上九拾錢位の處なら一寸呑ます  
 ◎ウキスキーでは小瓶で七八拾錢位の處が宜ろしい  
 ◎刃物、先づ菜切庖刀ならば廿五錢程度なら間違なく出刃參拾五錢から四拾錢位中出刃なら五六拾錢位御買ひに成る時店員に御任せする方が結構ですが之を斜めに見てもムラつまり刃渡りに凸凹のないのを撰びにならねば不可ません小刀は家庭向きとして象牙や何かの裝飾が凝つてあるのは避け實用向きのは六拾錢位がよく切出し小刀は刃巾五分から八分位拾錢前後が善いでせう日本カミソリ安いのには直ぐ切れなくなりすから四五拾錢の物が最も持も切れもよい西洋カミソリは普通素人の用いるには壹圓八九拾錢位呉服ハサミは素人用としては先の丸いのは五寸五分が廿五錢から卅錢位まで先の方丈丸いのは四寸五分から五寸廿五錢位ひのも此等は使ひ心地もよいやでうす



きゝたりこは璃瑠淨

同じ都も世につれて田舎の新屋敷堀江へ國々へいりきたる猪名川が  
 人形書く子は天窓かく教へる人は取わけていきせきお三輪は走り寄り詞申し勝  
 五郎様此邊りは山家ゆへ今日に限りて由兵衛殿金ならたつた三百兩さ用に立て  
 ても助けたしと云いつく金をふさころへお屋敷さして急き行かゝる所へ春藤  
 玄番あそにつくいて斧九太夫の權威に榮御前しづん座に直る二人の前に  
 両手を突き詞まこと今日は霜月二十日二つには又初瀬殿まだ祝言の盃をせぬ  
 が互ひに身の仕合せ其りや問へませぬお三様こんな殿子を持ちながら観音様  
 をかこつけてこれ爰で枕並べて此の方は合の浦々浪花がた案し返して何ん  
 にも云はす妙見様へ精進も京の六條珠敷屋町合お年寄れしおまへにまで  
 苦勞をかけし不孝の罪おゆるしなされて下さりませ是を思へば此程から諷ふた  
 歌に千松か父母のめぐみも深き古川寺此子にいくいやなれども必知らぬ事  
 さは云ひながら現在母子を手にかけて殺す云ふはエマ何事ぞいの此世も見  
 め盲目の闇より闇の死出の旅迷ふて玉んな迷の模様は一筋はるくそやこんな  
 事ならわたしから先へ死んたら此様に親に苦勞はかけまい物コリヤ天命知れよ  
 不孝の罪思ひ知れよと云いなが先立物は涙にてわつと計りになきしづむ心ぞ  
 思ひやられたりかゝる難氣の其折りから様子を聞たいがみの權太一間の内より  
 をぞり出でヤア義經熊谷心を合しあつ盛を助けし段々何のの様子は後にて  
 開んぞ瀬川につゞく森の關丸飛が如くに馳けり行始終を聞居るあは川久馬飯  
 沼目掛けて切り付ける露の玉薄う舞ふ袖日の下富士の山本勘助桂川へさ出  
 て行く(隅豫)

大正四年十一月五日印刷  
大正四年十一月十日發行

愛媛縣越智郡今治町惠比須町一番戶

發行兼編輯人 長谷川義一

愛媛縣松山市榎町十一番戶

印刷人 岡野音彌

愛媛縣松山市榎町十一番戶

印刷所 合名會社松山向陽社

於各博覽會共進會金銀賞牌受領

登錄  
商標

舟醬油

波止濱町

釀造元 八木榮十郎

電話 一〇番

足製 袋造 裏賣 販

伊豫今治城中

綿練商 津村保元商會

伊豫今治町

小澤峰一商會

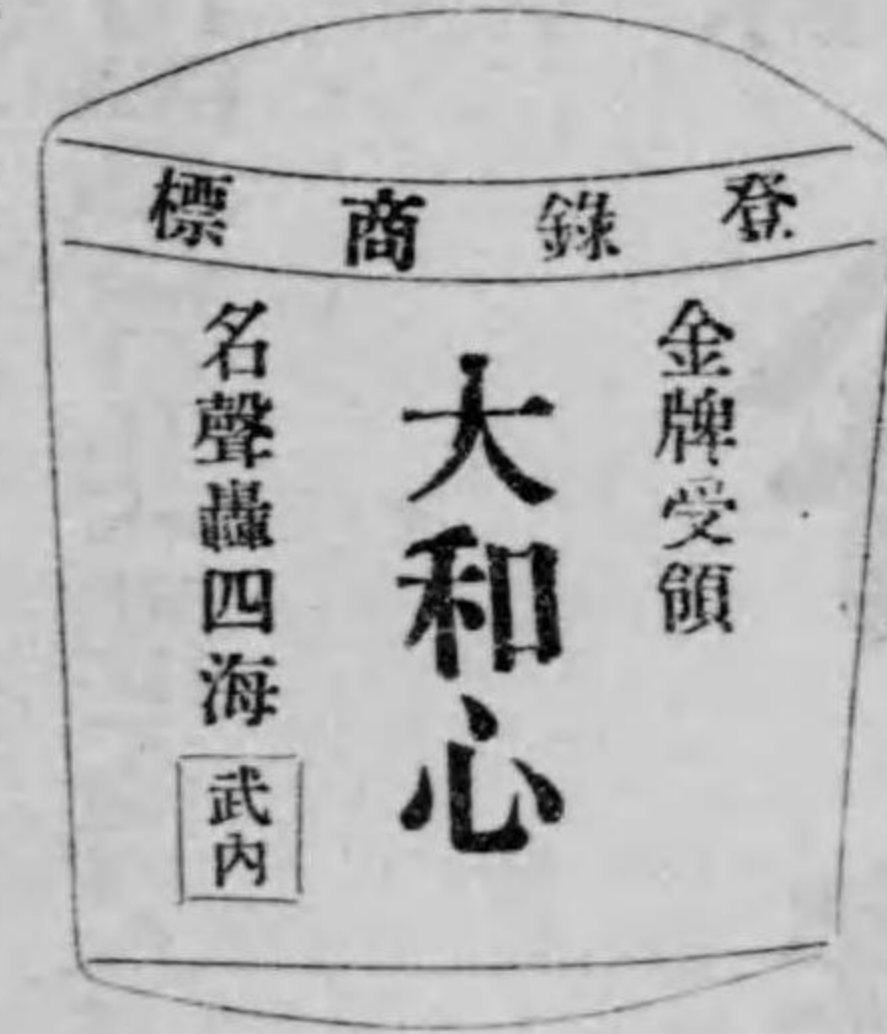
攝器口座(大阪二四三二八番)

ル 大 夕

大日本優等清酒衛生無害防劑不入

於各博覽會共進會品評會

每會金銀賞牌受領



愛媛縣越智郡波方村

釀造元武内修酒場

振替口座大阪一五九八番

足製 袋造 裏賣 販

綿練商 津村保元商會

伊豫今治城中

伊豫今治町

小澤峰一商會

振替口座(大阪二四二二八番)

ル 才 夕

大日本優等清酒衛生無害防劑不入

於各博覽會共進會品評會

每會金銀賞牌受領

登 録 商 標

金牌受領

大和心

名聲轟四海 武内

登 録 商 標

金牌受領

千鶴

名聲轟四海 武内

愛媛縣越智郡波方村

釀造元 武内修酒場

振替口座大阪一五九八番



今治町本町四丁目

**菊川自転車商會**

特約一手販賣

御琴三味線商

并ニ張替直シ

迅速ニシテ 叮嚀正札掛引ナシ 大勉強

今治室屋町四丁目

喜樂堂事 河上貴太郎

履物類一切

品が美しくつて直段が安い 大勉強

今治常盤町一丁目

門田仁三郎



羽

美術石版

活版印刷


S.HAGURA.

**羽倉仙太郎**

今治川岸端通



荒下駄製造  
卸小賣商

伊豫今治北新町  

**渡部勝次郎**

各國砂糖  
菓子種類  
掛物一際  
箱菓子類

卸問屋

伊豫今治常盤町一丁目  
**補森川新助**  
 電略モリ



鶴 龜

旅館

越智郡宮窪村

矢野 龜一



商標 (力)

旅人 御宿

津倉村本庄水門

瀛船切符扱所

野間角太郎



諸車製造販賣

牛乳車用

荷馬車

客馬車

專門

伊豫今治常盤町二丁目

阿部麻太郎

電略アハサ



四季の珍菓時好向進物用品を是非共  
關東式

風流御菓子司

金つば

鶏卵饅頭

櫻もち

本舖



一笑堂本店ニ限ル

伊豫今治風早町一丁目横

モシク二百二十五番

今治名産

弊店の特色

品質の精撰  
風美の絶佳  
御銚に對しては特に入念  
時間の正確  
簿利多賣主義

御用の節には遠近に拘らず見本持參仕可く候間何卒御用命  
の程特に御引立を願ます

菓子製造

及砂糖商

伊豫今治常盤町二丁目

梶原未吉

藥種商

各國有名  
諸賣藥販賣

今渡邊逢三郎藥舖

伊豫今治常盤町二丁目

品堅廉  
質固價  
精保販  
撰証賣

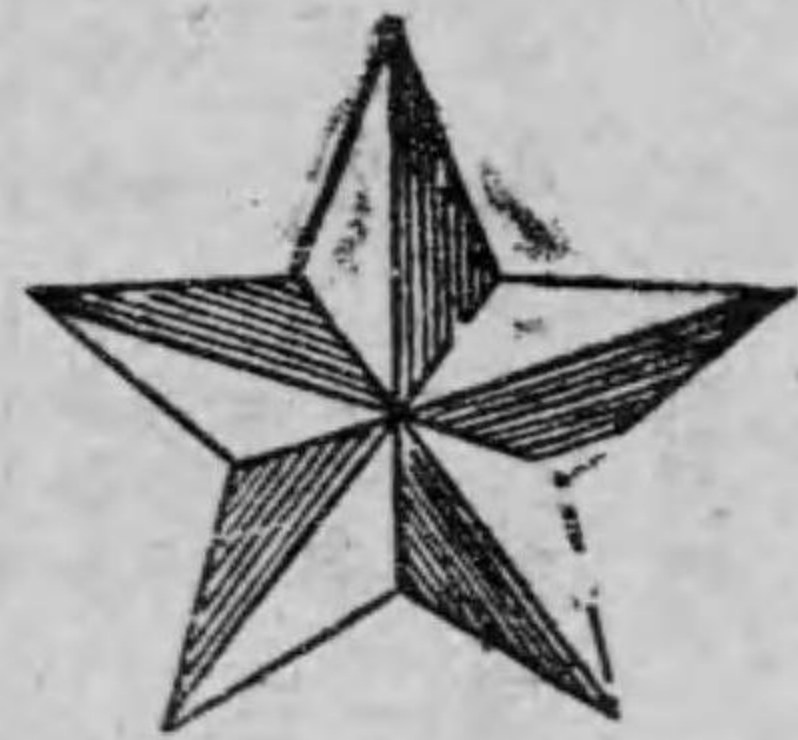
のむらさ

今治常盤町

野村傘製造商店

人其他卸小賣  
 形 下駄類  
 商 伴物商

標 商



印星

目丁四町本治今

店商郎三時石白 **高**

製靴業

北海道產  
 栓下駄製造卸商

標商



田

頭

庄

平

電略 ( ) 夕

伊豫今治風早町一丁目横

來島豐太郎

全柳町中學校前

來島支店

# 和洋菓子御商

特製カステラ

領受

於名古屋市  
 第二回全國菓子館展覽會二等賞進歩銀牌  
 於東京市  
 大正紀念帝國製菓子共進會有功賞銅牌  
 其他於各博覽會共進會各賞牌受領

今治名産 鶏卵饅頭

カステラ御販賣ノ方ハ申越次第見本  
 及値段表御送附申上候

西洋菓子部  
 ▲乾燥物類 ▲ビスケット類 ▲ケーキ類  
 ▲チョコレート類 ▲ビスケット類 ▲ケーキ類  
 ▲パン類 ▲其他種々類

和菓子部  
 ▲干菓子類 ▲焼物類 ▲水飴類  
 ▲生菓子類 ▲其他種々類

其他進物用罐詰箱詰類種々取揃居候間多少  
 二不拘御用命被下度候

見本入用ノ御方ハ申越次第御送附可申候各取引ハ精  
 々御働キ申候

愛媛縣今治中濱町二丁目角

各國菓子 會社特約店  
 北岡商店御部

# 氷

おろし小うり

年中きれめなし

御病人用ハ特ニ御安ク致シマス

各國漆器、基石碁盤、乳母車。

勉強ト確實ヲ旨トシ  
 迅速御用命ニ應ズ

伊豫今治本町二丁目

全 木原吉之助商店

電話番號(一六二)

大 勉 强  
 新 流 行  
 履 物 一 切  
 今 治 本 町 四 丁 目  
 長 野 履 物 店



寫眞  
繪葉書

町通治今郡智越縣媛愛

村上寫眞館

番六十三百二 話 電

象鼈

く  
こを  
其他御好み次第

甲牙  
細工所

今治中濱町二丁目横

峰雪秀吉

藥品染料

滋養品賣藥

卸小賣

藥劑師

今治町川岸端

喜多川國助

電話一五八



董骨畫書

古物商 神野大長堂

今治神明町

振替 大阪二七五六五番  
口座

新古茶之湯道具一切販賣  
 宇治茶 煉香類  
 及薰香

三神尾店

越智郡今治町  
榮町一丁目

卸處

飲食は特に勉強  
いたします

手打

宇どん

石豆腐

伊豫今治城中

奥田與市

綿打直シ

販賣所

來客待合

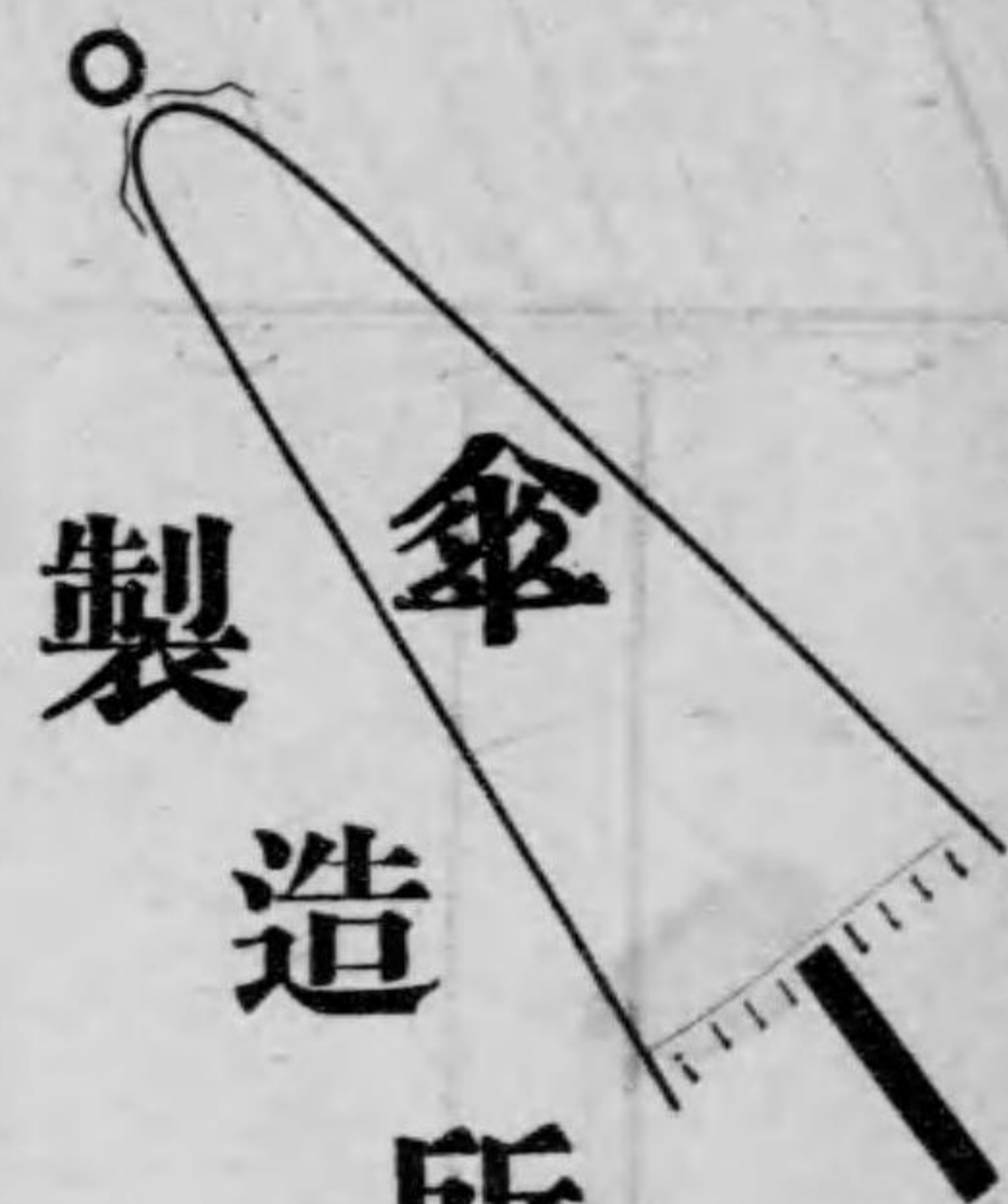
并ニ輕便支度所

今治町海岸通  
吉忠回漕店濱

村上濱店

今治洋蠟合資會社

愛媛縣今治風早町三番地



傘造所 八木本店

今治米屋町三丁目角



味噌漬物  
味噌油漬物



川上源太郎

伊豫今治常盤町

電話 (九) 〇



最上 醬油

島醬油製造株式會社

特約販賣所

荒木商店

伊豫今治町

電話 二四二

御菓菓子製造所

鴨川彌三郎

今治常盤町

東京御膳  
生  
そ  
ば

伊豫今治町米屋町二丁目横

三好屋

今治川岸端

敷島肥料店 村上丈作

家傳梅毒根切藥

梅毒胎毒癩病いかなる悪種瘡にても全治する事奇妙なり同病患者は用いて確効を切るべし

らゐ病大妙藥

此症は皮膚病悪症難病の事故養生初め肝要こそ同病患者は御來談有て委細を問合此藥を服すれば全治する事保証なり用ひて効なき時は代金申受けず

伊豫越智郡今治片原町四丁目

調劑販賣 矢野峰松

伊豫今  
治本町  
一丁目

粕來 商 森谷本店 雜貨

電話 七十三番